

げんてん

(日本医科大学第一内科学教室・同窓会年報)

第十九号

(2007年度)

付 日本医科大学第一内科学教室業績集
(2007年4月～2008年3月)

付 日本医科大学第一内科同窓会名簿

日本医科大学第一内科学教室・同窓会発行

目 次

巻頭言

「一年を振り返って」 水野杏一 1

I. 海外留学者の帰国報告

シドニー留学記 遠藤康実、郁子 2

Cedars-Sinai Medical Center、UCLA に留学して 森田典成 4

Lariboisiere 病院留学記 林明聰 6

II. 受賞・学会賞など

第 76 回日本医科大学医学会優秀論文賞を受賞して 今泉孝敬 9

日本医科大学医学会奨学賞を受賞して 宮内靖史 10

第 206 回日本循環器学会

関東甲信越地方 YIA 優秀賞を受賞して 牛島明子 11

第 22 回日本血管内視鏡学会内田賞を受賞して 岡崎大武 12

III. OB 近況報告

大学卒業後 50 周年「北村山公立病院」 関谷政雄 13

大学卒業後 50 周年「五十年前の事ども」 壬生倉裕 14

大学卒業後 50 周年「医局の思い出」 綿貫實 15

院長退任に当たって 笠井源吾 16

IV. 緊急報告

新型インフルエンザの大流行で今埼玉が一番危ない 福田純 17

V. 追悼文

馬渕原一君を偲んで 長澤紘一 23

馬渕原一先生を悼む 岸田浩 24

VI. 第一内科新入医局員紹介 26

VII. 第一内科学教室、同窓会（げんてん会）記録 29

VIII. 医局員勤務表 31

IX. C C ・ C P C 33

X. 学位取得者 34

X I. 2007 年度研究業績 35

X II. 同窓会会員名簿 64

X III. 現役医局員名簿 78

X IV. 編集後記 84

1年を振り返って

水野杏一

第一内科の主任教授となり2年目を迎えました。病院内外がめまぐるしく変化していますが、私達は「良い医療、良い研究、良い教育を目指している」という基本姿勢を変えず邁進したいと思います。

千駄木地区では、アクションプランの計画実行中でヒアリングを行いながら、緩やかな歩みですが取り壊しの作業が始まっております。

将来の日本医科大学の為、今年より総合臨床センターが開設され、加藤貴雄教授がセンター長を勤めています。社会が求めている臨床内科医の輩出に向け一歩を踏み出しました。他大学で作られた従来の総合内科と異なった独自のセンターの創設が期待されています。また、宮本准教授を中心となっている再生医療は、日本医科大学に医療特区の許可があり、厳格な法律に縛られない仕事も可能となりました。私は、今年より副院長になり、医療安全管理部長も勤める事になりました。大学の将来を考え病院や大学の経営を真剣に取り組んでいく所存です。

昨年よりは今年、今日よりは明日と進歩を遂げなければなりません。果たして、昨年と比べどの程度進歩したでしょうか。学会については、AHA、ACCに毎回3~4題がアクセプトされ、若い医局員が口述講演を堂々と行っています。質問にも的確に答えていました。今年、日本人のノーベル賞受賞者が、日本語でスピーチして話題になりました。しかし帰国後、英語は話せる事にこしたことのないとのメッセージを出しています。新時代の指導者として必要な事は、IT、語学力、財務の力および構想力であると言われています。この様な力を持ち、かつ病気を持っている患者さん達への思いやりを持った若い医師が多く育って欲しいと切望します。

今年は第一内科から他大学の教授に1~2人就任しそうです。他大学の指導者になるにはやはり、研究、教育、診療面で日本での有数の人材とならなくてはいけません。某大学医学部の教授選に出て欲しいと言わいたらいつでも引き受ける心構えをしていて欲しいです。それには「ローマは1日でならず」、日頃の精進が大切です。

第一内科は他大学に負けない優秀で勤勉で人格がすばらしい医師の集団です。多くの人が日本医科大学にとどまらず大きく世界に羽ばたいて欲しいと思っています。

今年も第一内科が主催する学会があり、多くの医局員の協力を得ました。また、同窓生の先生方から多くの資金的援助も得ました。本当にありがとうございました。この紙面を持って感謝したいと思います。

第一内科のスタッフは今年も色々な学会、団体から賞を頂きました。賞を取るのは本人の今後の励みになるのみならず、第一内科の指導者、後輩にも良い刺激になります。そこで医局でも、来年は賞を出す事を考えています。どの様な賞を出すかは、来年の忘年会まで秘密にします。論文も Circulation、JACC 等に掲載される様になりました。しかし、すべてにおいてまだまだ足りないと感じている毎日です。

来年は、今年以上に変化の年になるであろうと思われます。第一内科はその中でも日本医科大学の中心となり、信頼される医療の実践、日本の医療のリーダーの育成をかかげ進んで行きたいと思っています。

シドニー留学記

遠藤康実（昭和 63 年卒）

遠藤育子（平成 10 年卒）

2003 年 4 月より 2008 年 5 月まで New South Wales 大学医学部 Cytokine Research Unit (現在は Inflammatory Diseases Research Unit に改称)へ留学致しました。当大学は 1949 年に開設され、シドニーの郊外(City から車で約 15 分)にあり Sydney University と並ぶオーストラリアでも屈指の施設です。38 ヘクタールの広大な敷地内には、医学部を初めとした約 150 の学科があり、生徒数は約 40000 人 (留学生約 7500 人)、職員数 5000 人です。



Geczy 教授(左端)とラボの方々

研究室のトップである Carolyn Geczy 教授は事実上の医学部長であり、International Association of Inflammation Societies' Women in Inflammation Science Award (2005 年, 2 度目)など様々な賞の受賞歴のある大変学識の深い、教育熱心な先生です。専門分野は細胞生物学、免疫学、有機化学、分子生物学とその守備範囲は広く、特に Geczy 教授が発見者の一人でもある炎症性蛋白質 S100A8 の様々な炎症 (感染症や動脈硬化等) における発現とその役割についての研究が主な研究テーマです。2008 年 4 月現在 Geczy 教授の下には 5 人の PhD 保持者、6 人の大学院生を含む 14 人の研究者がおり、医学部でも大規模な研究室です。基礎研究から臨床研究、また最新の実験技術や診断ツールの開発まで、比較的広範囲の研究がなされています。多民族国家のオーストラリアの縮図のように同研究室も世界中から研究者が集まり、中には難民としてオーストラリアへ来た学生や研究者もいて、国の内乱や戦争に関する貴重な体験談を何度か聞くことができました。

留学して 3 ~ 4 ヶ月すぎた頃に Geczy 教授から当教室の PhD student にならないかというご教示を頂きました。学生になるためには英語の試験に通らねばならず、二人で大学に併設されている英語学校のいわゆる夜学に通い、何とか通ることができました。大学院の学費は local student は無料ですが、留学生には日本医大とほぼ同額が課せられます (入学金はなし)。これも Geczy 教授の強い推薦状により奨学金がもらえることになり、二人とも金銭上の心配なしに研究に打ち込むことができました。

Geczy 教授の研究室では毎週教授との個人面談 (一人 30 分) がありました。一週間という決められた時間である程度の結果とその考察をこなさねばならず、週末にも研究室で何らかの仕事をしていました。特に PhD student は金曜の午後から月曜にかけては必死でデータ整理をし、毎週 教授との個人面談のために約 20 分のスライドを用いたプレゼンテーションを作成しました。日本の臨床との違いは文献検索により多くの時間を費やせる点と、実験細胞が文句を言わない点でした (実験が主に *in vitro* であったため)。更に研究室内のカンファレンスに加え、他の研究



広いメインラボ

室との合同カンファレンスや医学部内の研究発表会でのプレゼンテーション、抄読会などが交互に廻ってくるので、結果的に凡そ6週に一度のプレゼンテーション準備を課せられていました。



恒例の Geczy 教授宅での X'mas party

その上 PhD student には頻回に Reviewing が巡ってきます。これは PhD student の研究内容や進行状況、指導教官の指導ぶりを医学部内の第三者が面接審査する会で、毎回レポートの作成が必要です。やはり語学の壁は厚く、特に official な研究発表会ではそれなりの発表をせねばならず、native speaker の同僚がトーク内容から発音まで直してくれます。更に語学の壁を強く感じたのは Thesis 執筆です。Australia の大学院制度は British system を取っており、研究背景、内容、考察を記した約

300 頁の研究レポート (Thesis) を執筆し、それを国内外の 3 人の Reviewer に送り PhD に値するかの審査を受けます。その審査の結果を大学の Highest Degree Committee が検討しその学生に PhD を与えるかが決められます。Geczy 教授の文筆力は有名で研究助成金の申し込みの時期には例年教授室の前に列ができます。それだけに我々に対する Scientific writing の指導も大変厳しく、教授も相当な時間を割いて下さいました。Thesis を書き上げるのに約半年かかりました。

このような貴重な留学の機会を与えて下さった、第一内科学教室高野前主任教授、新教授、中込先生、並びに第一内科医局の諸先生方には大変感謝致しております。

Cedars-Sinai Medical Center、UCLA に留学して

森田典成

2005 年 12 月より米国カルフォルニア州ロサンゼルス市の Cedars-Sinai Medical Center (CSMC) の循環器部門心臓電気生理学 (EP) 部門に大野則彦先生の後任として留学させていただきました。本学第一内科（現、内科学、循環器、肝臓、老年、総合病態部門）と当研究室の歴史は古く、1970 年（昭和 45 年）に早川元学長が御留学されたことに始まります。当時は Mandel 先生がラボの指導者であったと伺っております。1980 年（加藤教授御留学中）より現在私が師事しております Karagueuzian 教授が UCSF より赴任され、現在までに EP 部門に御留学された諸先輩方は計 18 名、私は 19 代目であります。他に東邦大学大橋病院の杉教授、杏林大学の池田准教授等も Karagueuzian 教授の下に留学されております。CSMC といえば“循環器”と思っておりましたが、その他の部門にも著明な先生方がおられ、筑波、日本、慈恵、順天堂、京都、高知、久留米、長崎等の大学の医師が研究留学されております。ラボの建物自体はロサンゼルス地震後に建て直され、歴史を感じさせない近代的かつ実用的な建物ですが、当ラボの足跡を熟知した実験助手の Aville さんとの会話の中で諸先輩方のご苦労を垣間見ることができます。当ラボ以外にも、Swan-Ganz カテーテルで有名な Ganz 先生のラボへ、高野前主任教授をはじめとした諸先輩方が御留学されております。私も Ganz 先生とお話をすると機会を頂きましたが、今もご健勝で病院におみえになられているようです。（歴代の諸先輩方に關しましては加藤教授が数年前に心電学会誌に CSMC と第一内科の関係についてのコラムをご参考下さい）。16 年前より今や世界的に有名な Peng-Sheng Chen 教授が UCSD より当研究室に赴任され、当ラボの地位をより一層高められました。Chen 教授は言うまでもなく不整脈学会の重要ポストにおられ、その学会誌である Heart Rhythm の Associate Editor でもあります。その間に Shien-Fong Lin 准教授が参加され、光学的マッピングシステム開発、改良により当ラボから多くの研究成果を発表してきました。Chen 教授は Lin 准教授を伴って 2007 年 7 月より Indiana University, the Krannert Institute of Cardiology の主任教授に異動されました（前任は Douglas P Zipes 教授）。CSMC と University California, Los Angeles (UCLA) の循環器部門との間で、数年前より共同研究が進められており、我が Karagueuzian 教授もこの共同研究に参加されておりました。更なる共同研究活動を行うべく、2007 年 7 月より私は Karagueuzin 教授とともに UCLA へ異動いたしました。これにより、CSMC の EP 研究室と当医局との 37 年余りに渡る長い歴史は 2007 年 6 月でひとたび幕を閉じることとなりました。UCLA の循環器研究室は写真ビルの 1 階と 3 階で、我々の研究室は 1 階にあります。UCLA のチーフは Computer Simulation を得意とされ、心臓電気生理現象を Simulation にて解析されております Weiss 教授です。我々は当ラボにて Whole Heart を使った Translational EP Group として参画することとなりました。我々のプロジェクトは加齢心における心室細動の発症メカニズムの解明をテーマで、ガラス微少電極による活動電位記録と光学的手法を用いたマッピングシステムによる実験で研究活動をいたしました。Chen 教授のグループは多くのフェローとラボ助手を抱えているのに対し、我がグループは教授と私のため、機会があるごとにラボミーティング等で発表し、評価、批判を頂き、その方向性を見極めておりました。UCLA に異動後は、今までの Chen 先生からの Karagueuzin 教授グループ（と言っても私と教授のみであります）に対する、援助、支援の偉大さを感じずにはいられませんでした。しかし、そのような中にあってもめげずに前へ進もうとする

Karagueuzian 教授の姿は学ぶべきものと心に残っております。

さて現在の CSMC であります。臨床循環器内科部門チーフは PK Shah 先生で動脈硬化を専門にされております。また基礎部門は Chen 先生が離れたあと CSMC が Johns Hopkins 大学から Marban 教授（現在 Circulation Research の Editor in Chief、CSMC の総循環器内科部門のチーフ）を招聘し、Stem Cell による再生医療基礎研究所を設立されております。

当地ロサンゼルスは人種の垣塙（るつば）というべく、あらゆる国の人々が共生し、移民としてたくましく働いている姿に、日々感化されました。当ラボにもアメリカ人以外に、中国、韓国、イラン、フランス、イタリア、ロシア等、各国からの研究者がおり、それぞれ母国語訛りの英語が飛び交っています。多くのアメリカ人、移民がカルフォルニアを好む一番の背景は、こうした民族分布と気候にあると思います。気候は通年で温暖であり、4月から12月までは雨は一度として降らず、夏も乾燥しており、日差しを避けなければ充分涼しく過ごせます。

本留学の成果が本学、当医局に寄与できますように懸命に研鑽を励む所存であります。

最後になりましたが、大変貴重な留学の機会を与えて下さいました高野前主任教授、加藤教授、小林准教授、平山講師、宮内講師、第一内科医局諸先生方、並びに水野主任教授、安武准教授に厚く御礼申し上げます。



UCLS 研究棟



SMC 研究棟（中央奥）

Lariboisière 病院留学記

林 明聰 (1995 年卒業)

私は 2006 年 4 月から 2008 年 7 月まで、フランス パリ市 10 区にある Lariboisière 病院に留学させていただいておりました。留学前は、卒後 10 年以上経た臨床医として進むべき方向性を模索しており、自分の殻を破ってさらなる知識と技術を獲得するには国外で修行するのがよいのではないかと漠然と考えていました。ただし、日本人が研究者ではなく臨床医として留学するのは容易ではなく、英語圏ではそれらの国の医師免許を新たに取得する必要があります。激務の勤務医にとてもそのための時間を割くことは出来ず悩んでいたところ、フランスが日本の医師免許で臨床手技可能な数少ない国の一であることを知りました。それまでフランスに親しみや興味があったわけではなく、予科の第二外国語もドイツ語選択でしたが、フランスが臨床不整脈分野においては常に世界をリードしていることはよく知っていました。そんなおり、第一内科 小林助教授のお誘いで、たまたま東京に講演に来られた Antoine Leenhardt 教授と夕食をご一緒にさせていただく機会がありました。教授が所属する Lariboisière 病院は私がもっとも興味を持って取り組んでいるカテールアブレーションと致死性不整脈治療の研鑽を積むには最高の施設ながら、外国人がフランス語で研修するのは難しいのではないかと聞いたところ、英語が話せればなんとかなるとの心強いお言葉をいただき、後日それまでに書いた数本の論文別刷りを同封して留学を申し込んだところ正式に受理されました。高野前教授にも快く許可していただき、こうしてヨーロッパ留学生活が始まりました。ちなみに、英語だけでは全くどうにもならないことをフランスに住み始めてすぐに知りました。

Lariboisière 病院はパリ第七大学の付属病院で、北駅のすぐ西にあります。七月王政時代の 1839 年に建てられ、1854 年にその建造に当たって多額の寄付を受けた Élisa de Lariboisière 伯爵夫人の名にちなんで現在の名称になりました。写真でもわかりますが、広い中庭を取り囲む立派な石造建築で、一番北側には大きな教会も併設されています。この 170 年の歴史を持つ建築物はパリ市の条例で外観を変更することは出来なくなっていますが、内部は頻繁に改装されてやや暗めながらも清潔でモダンな様相になっています。地上部分は造築出来ないため手狭にならぬよう地下は 3 階まであり、検査室や手術室などは全て地下にあります。

私は l'Attestation de Formation Spécialisée Approfondie という、平たく言うと EU 圏外の専門医に医療資格を与える証明書をもらって研修をしていました。月曜日は Leenhardt 教授とともに致死性不整脈患者の follow-up 外来をやり、主に ICD の programmer 操作を担当していました。こちらでは開業のクリニックと病院との役割分担がはっきりしているので専門外来に飛び込みの患者がやってくることはなく、一人の患者さんに 20 分以上かけて診療することが出来ます。心筋梗塞後の心室頻拍や心筋症に合併した心室細動などの他に、Leenhardt 教授が世界に先駆けて報告した catecholaminergic polymorphic ventricular tachycardia (CPVT) や short coupled variant of torsade de pointes の症例も多く、教授の広範な知識を直接教えていただくことが出来る貴重な時間でした。また、あちらの患者さんはお年寄りでも自分の飲んでいる薬の名前や用法などを体底暗記していて驚きました。自分の病気についてまとめた専用ファイルを持参する方も多く、疾患の治療に対して積極的な印象を受けました。

火、水、金曜日はカテールアブレーションを、地下 3 階の電気生理検査室で行っていました。昨今の世界的な潮流ですが、心房細動のアブレーション症例が一番多く、それだけで年間 200 件ほどでした。日本ではまだあまりアブレーションの適応となりにくい慢性心房細動も対象にしており、また irrigation catheter や cryo-ablation catheter をはじめとする日本未認可の最先端機器を

使えるためにとてもよい経験になりました。渡仏して1年以上経ってからは週に2~3件心房細動症例をやらせてもらえるようになりましたが、研修開始当初は半年以上もカテーテルを握らせてもららず、いつも Cardio Lab という機械の前に座って電位の解析をするのみで、相当ストレスの溜まる日々でした。その時期たまたま症例が少なかったことと、レジデントが多くいたことも理由でしょうが、本当のところはいくら Leenhardt 教授の許可を得ているとはいえ、どこの馬の骨とも知らぬフランス語の話せない東洋人が突然やってきても、現場の人たちには受け入れがたかったのだと思います。前任者がいない留学先は、そういう意味では大変でした。よく言われることですが、フランス人は初対面の人間には慎重で無愛想で、特に片言でもフランス語を話さなければあまり仲良くしてくれません (Leenhardt 教授はフランスでは数少ない国際人でした)。それを悟って留学開始後の半年間に集中してフランス語を独習し、徐々に打ち解けていってからはみな親切でかえつて本音のつきあいが出来ることを知りました。

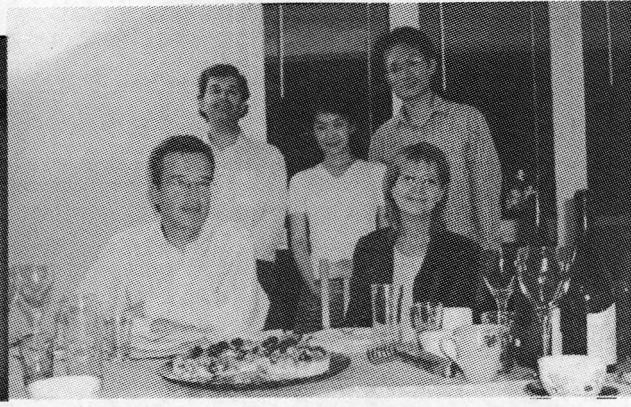
留学後7ヶ月ほど経ってからはアブレーションの傍ら Brugada 症候群患者の心室筋の電気生理学的特徴を検討する研究を開始しました。カテーテルを入れるのはもちろん私の仕事ですが、あちらでは東洋人の医者はほとんどないので、私が手洗いをして一人でカテを入れようとする患者さんはみなとても不安になり、さらにつたない発音で "Monseur, je vais faire l'anesthésie locale. Mais, pas du souci." などと言うとかえって脈拍が上がって検査に支障を来しそうになるので、いつも看護師が「この人は循環器専門医ですから」と説明してくれていました (あちらでは専門医はステータスが高いのです、ちなみにフランス全土で循環器専門医は3500人しかいません)。さらに数ヶ月すると空いている木曜日を利用して、Leenhardt 教授の指導のもと CPVT の患者を対象とした臨床研究もはじまり、そのころからようやく充実した研修生活がはじめました。妻も同じ病院で小児循環器医としての研修を受けており、帰宅後はお互いその日出会った興味深い症例について報告しあいました。このようにして臨床留学の合間に二本の研究論文と一本の症例報告を書き上げることが出来、うち二本は帰国前に acceptされるという幸運に恵まれました。

慣れない留学生活は苦労も多くありますが、家族が協力して乗り切ることで絆も深まり、15区の公立幼稚園に通う息子も含めてそれぞれが留学生活を楽しむことが出来るようになりました。パリは観光都市なので週末に美術館や史跡を見て回ることで気分転換をすることも出来ました。都会でありながら公園や緑が多く、旧建築の町並みが多く残り、街そのものが大きな美術館と言っても過言ではありません。地方にも中世の街並みが大切に保存されているところが多く、留学中に方々を電車で旅して歴史的な遺産を見て回ることが出来ました。また日本からフランスやドイツに來ていた年齢の近い他大学の先生達と親睦を深める機会にも恵まれました。留学の最後の年にはどういうわけか不法移民と間違われて移民局から強制退去命令を受けたりしましたが (教授がすぐに取り消してくれました)、2月には彼の地で次男も誕生し、家族にとって忘れられない良い思い出に恵まれました。

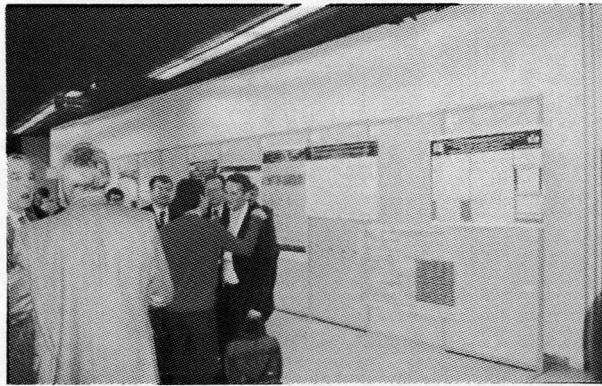
このような素晴らしい留学の機会を与えてくださった第一内科医局、特に高野前教授、小林助教授、平山講師と、4ヶ月間の延長を快く認めてくださった水野教授、安武助教授に心より感謝申し上げます。また秘書の吉田さんには留学中も大変お世話になりました。今後も留学先で得た知識と技術を大学での診療に生かすべく努力する所存であります。



病院の中庭です。奥が教会で両側は外来棟になっています。



我が家でのパーティの時の写真。前列向かって左がLeenhardt教授、右が遺伝性不整脈の専門家Denjoy先生、後列左がアブレーションを取り仕切るExtramiana先生、



フランス循環器学会でのポスターセッションの様子です。隣の演者の枠であろうが堂々とはみ出して貼るのがフランス流？



フランスに居住するために必要な長期滞在許可証。外国人がこれを取得するためには理不尽なまでの忍耐力と大量の書類が必要です。



セーヌ川にかかるTournelle橋から見たパリの町並み。左に見えるのがNotre Dame寺院です。

第 76 回日本医科大学医学会優秀論文賞を受賞して

金地病院 今泉孝敬

この度は、望外な賞を戴き、誠に有難く存じます。本論文は『Dynamics and Source of Endothelin-1 and Interleukin-6 Following Coronary Reperfusion in Patients with Acute Myocardial Infarction (急性心筋梗塞患者におけるエンドセリン - 1 及びインターロイキン - 6 の再灌流後の動態と産生部位についての研究)』なるタイトルにて Journal of Nippon Medical School 第 74 卷 第 2 号 (2007) に掲載されたものです。

本研究は今を遡ること 10 年前、附属病院集中治療室に在籍していた時代に、急性心筋梗塞(AMI)の患者に再灌流療法を行った際のエンドセリン - 1 (ET-1) とインターロイキン - 6 (IL-6) の動態を経時的に調べたものであります。この頃、酒井俊太君達とほぼ全例の AMI 患者の閉塞した冠動脈を開通させるのに無上の喜びを感じていた時代でもありました。緊急 PCI と称される治療法ですが、現在の第一内科でも、さまざまな感慨をもって『緊急アンギオ』とか『緊急カテーテル』と呼ばれていることと思います。当時の室長高野照夫前主任教授はじめ、清野精彦先生・子島潤先生・田中啓治先生に文字通り親身なご指導を戴きました。また、研究の後半、左前下行枝が閉塞した患者から同意を得て、高山守正先生に冠静脈洞にカテーテルを留置する方法を直接ご指導戴き、この部位からの採血も経時的に行いました。

全ての採血データーが揃った後に問題となったのは統計処理でありました。採血部位が多岐に亘り、ET-1・IL-6 が相互に関連しながら変化していくために両者の動態を総合的に解明しうる統計計算法が当時は見つからなかったためです。幸いなことに、はじめから（最後まで・・・）論文をご指導戴いた子島潤先生が鶴見大学歯学部内科学主任教授に就任されたことがきっかけで、同大学准教授石村貞夫先生のご教示を戴くことが出来ました。お二人は 2004 年に東京書籍より『SPSS による線型混合モデルとその手順』を共著で出版されています。この線型混合モデルをフル活用することにより、かかる現象を極めて明快に説明することが出来、この論文がようやく上梓できる運びとなりました。

AMIにおいては、ET-1・IL-6 の血中濃度が上昇することが知られていましたが、冠動脈再灌流時の動態や産生部位はこれまで不明でした。本研究によりこれが明らかになりました。ET-1 の主たる産生部位は、全身血管床であることが判明し、ET-1 濃度はうっ血を反映することが示唆されました。さらに ET-1 濃度は再灌流後 1 時間で最高値を示しました。一方、IL-6 の主たる産生部位は、冠血管床でした。再灌流後 IL-6 濃度は 24 時間まで増加傾向を示し、心筋壊死量と炎症の程度を反映すると考えられました。ET-1 濃度と IL-6 濃度は、わずかな相関を認めたものの、実際には異なる動態を示しました。現在 AMI に対し、ET-1 や IL-6 を標的とする治療法が開発されつつありますが、有効性は未だ確立されておりません。今後さらにかかる因子の病態の理解を深めることが、より適切な治療法を開発するために重要と考えます。

尚、この論文は、中国の Min Cheng らにより Cytokine 第 1 卷 第 1 号 (2008) に、カナダの Jugdutt Bodh I. により Current Drug Targets 第 9 卷 第 4 号 (2008) にそれぞれ引用されました。最後にご指導戴きました全ての諸先輩方、研究にご協力戴いた全ての後輩の方々に心より感謝申し上げます。

日本医科大学医学会奨学賞を受賞して

病院講師 宮内靖史

平成 20 年度日本医科大学医学会奨学賞を受賞いたしましたのでご報告いたします。この賞は 1990 年に “医学の進歩に寄与する独創的かつ総合的研究を最近数年間に発表し、なお将来の発展を期待しうるものへの学術研究の奨励” を目的として創設され、本年度で第 19 回となります。過去第一内科からは清野先生（第 3 回）、安武・草間・横山先生（第 9 回）、大坂先生（第 10 回）、浅井先生（第 14 回）、高野雅充先生（第 15 回）が受賞されております。今回私は、“心房細動の電気生理学的および解剖学的基質の解明” というテーマで応募し賞をいただくことができました。以下に研究内容を紹介いたします。

私は 2000 年 7 月～2003 年 3 月の間、ロサンゼルスの Cedars-Sinai Medical Center に留学する機会をいただき心房細動に関する基礎的研究を始めました。留学中はまず心筋梗塞慢性期における心房細動発症の機序を犬の心筋梗塞モデルを用いて検討しました。心筋梗塞慢性期には心房および肺静脈の交感神経が不均一に増生し、その結果再分極特性が不均一となり伝導ブロックが多発し心房細動の誘発性が亢進するという興味深い結果が得られました (Circulation 2003; 108:360-366)。次に、器質的疾患のない心房細動では肺静脈起源の異常興奮が原因であることが多いものの、なぜ肺静脈心筋細胞が異常興奮を発生しやすいかに関しては十分に分かっておりませんでした。そこでラットを用いて正常心における *in situ* の肺静脈心筋細胞の再分極特性を詳細に検討しました。肺静脈心筋細胞では早期後脱分極などの異常自動能が誘発されやすいけれどなく、活動電位持続時間の *restitution curve* の傾きが大きく、伝導ブロックやリエントリーを起こしやすい基質も兼ね備えていることが判明しました (Heart Rhythm 2005;2:1339-459)。帰国後は喫煙が心房細動に及ぼす影響に関して検討しました。正常ラットに常用喫煙者レベルの血中濃度を保つ程度のニコチンを長期投与しても大きな影響はありませんでしたが、高血圧ラットに同様に投与すると心房の線維化と心房細動誘発性が亢進し、それらはアンジオテンシン II 遮断薬を投与で抑制されることが分かり、ACC と Heart Rhythm で発表することができました。

今回受賞することができたのは、留学する機会に恵まれたことはもちろんですが、帰国後も研究を継続できたことが大きな要因だったと思います。日常臨床をこなしながら基礎研究を行うことはかなり大変ですが、私の場合、妻であり共に留学した宮内瑞穂の強力なサポートがあったため行うことができたと思います。今後も同様な形で研究を継続したいと思います。

今回の受賞にあたりご推薦いただいた水野教授ならびにサポートいただいた多くの先生方に感謝申し上げます。

第 206 回日本循環器学会関東甲信越地方会 YIA 優秀賞を受賞して
平成 13 年卒業 牛島 明子

このたび、第 206 回日本循環器学会関東甲信越地方会 Young Investigator's Award において、優秀賞を頂きました。演題は「遷延する意識障害が主症状で診断に苦慮した若年者冠攣縮性狭心症の 1 例」です。

本症例は、遷延する意識障害を繰り返すため種々の検査が行われたものの、診断に至っておりませんでした。今回入院中に、意識障害時の 12 誘導心電図が初めて記録され、その心電図が決め手となり、冠攣縮性狭心症と診断されました。著明な ST 上昇を伴った心電図は非常に強烈で、忘れられない心電図になりました。

若年者（30 歳以下）の冠攣縮性狭心症は症例報告で散見されますが、その中でも意識障害を主症状とする症例は少なく、貴重な症例を経験することができました。

最後に、発表の機会を与えていただき御指導下さいました宮内靖史先生、小原俊彦先生、加藤貴雄教授、水野杏一教授に心より感謝申し上げます。

【抄録】

遷延する意識障害が主症状で診断に苦慮した若年者冠攣縮性狭心症の 1 例

症例：24 歳、男性。現病歴：2006 年 5 月から、起床後、嘔気の後 20 分続く意識障害を繰り返し（月 1 回）入院。心エコー、ホルター心電図、head up tilt 検査、脳波、頭部 MRI は正常、12 誘導心電図でブルガダ症候群を疑い、ビルジカイニド負荷テスト、心臓電気生理学的検査を行うが有意所見なく、診断に至らなかった。2007 年 5 月から再度同様の意識障害が出現し入院。入院初日 22 時 40 分、胸部不快の後意識低下。血圧計測不能、12 誘導心電図は心拍数 30 回／分の房室接合部性調律で II、III、aVF、V6 で著明な ST 上昇を認めた。冠動脈造影で狭窄なく、冠攣縮性狭心症と診断。カルシウム拮抗薬、硝酸薬を開始以降意識障害なし。遷延する意識障害が主症状で診断に苦慮した若年者冠攣縮性狭心症を経験したので報告する。

第 22 回心臓血管内視鏡学会 内田賞を受賞して

専修医 岡崎 大武

去る 10 月 9 日に、大阪で行われました第 22 回心臓血管内視鏡学会において、僭越ながら学会賞（内田賞）を受賞させて頂きました。このような身に余る賞を賜りましたことを大変光栄に感じています。学会会場におきましては、諸先生方の活発な討論を通して、明日への糧となるような新たな見地に多く触れることができ、大変勉強させて頂きました。また同時に血管内視鏡や光干渉断層法の奥深さや、それゆえの興味深さを改めて感じている次第です。

私は「血管内視鏡と光干渉断層法により観察した薬剤溶出性ステント留置後再狭窄を認めた 2 症例」という演題で発表させて頂きました。

光干渉断層法(OCT: optical coherence tomography)とは冠動脈内を近赤外線を用いて観察する新しい血管内イメージングのモダリティで、従来の血管内超音波(IVUS: intravascular ultrasound) の 10 倍以上の高い画像分解能を有していることが特徴です。その光学減衰特性から約 2mm より遠くの情報は不明瞭になりますが、一方で端子より近いものに関しては非常に情報多彩でありステント内の新生内膜などの観察に適しているといえます。このことから、IVUS の短所と考えられていた石灰化病変や血栓性病変等の観察にも優れ、冠動脈内構造物の「質的」診断の可能性を期待されています。

今回の発表では、血管内視鏡では同様の所見を呈す薬剤溶出性ステント (DES) とペアメタルステント (BMS) のステント内再狭窄病変も、OCT を組み合わせることにより、その再狭窄構造が画像上異なるパターンを呈することを発表させて頂きました。ステント内再狭窄に関しては、未だ病理学的検証に乏しく、今後の更なる検証が必要ではあるものの、DES と BMS のステント内再狭窄は、それぞれ異なる病態生理が存在する可能性を示唆するものでした。

血管内視鏡をはじめとする血管内イメージングは既に確立された重要な分野ではありますが未だ明らかにされていないことも多く、先に述べましたように今後のさらなる症例蓄積や検討が必要ではあるものの、本学会で諸先輩方により行われました貴重なご発表や討論が、冠動脈疾患治療戦略の新たな展開の礎になると信じ、私も微力ながら日々の診療に邁進したいと思います。

最後になりましたが、今回の演題発表に際し熱心に御指導下さいましたカテ班の先生方、ならびに発表直前まで御世話頂きました山本(真)先生、高野(雅)先生、水野教授に心から感謝申し上げます。

入局して6年頃、突然、木村栄一教授から教授室に来るよう言われた。又、患者さんの事で何かお説教があるのではないかと覚悟して教授室のドアをノックした。「どうぞ」といつものように明るい声が戻ってきた。「ちょっと、その椅子に座りたまえ」と言われた。実は盤若先生を医局に戻したいので、今度は君に山形の北村山公立病院に行くよう言われた。当時、私は母と二人で生活していたので速答をかけた。「もしも行ってくれれば、君を講師に昇任する」と言う。当時、公立病院の医長は、講師以上でないと赴任できることになっていた。「明日まで返事を待って下さい」と言って教授室を出た。家に戻り、母に山形への赴任命令が出た事を話した。母はそれを「良かったね。地方病院に行き珍しい患者さんを診察したり、痛み苦しんでいる患者さんを一生懸命診てやることが、お前の医者としての使命でせう。」と簡単に許可してくれた。翌日この事を教授に告げると「おまえのおふくろは、たいした者だ」とお世辞を言ってくれた。

赴任する日に母が同行した。心では凄く心配であったに違いない。特急“やまと号”に乗り坂谷峠を越え長いトンネルを出ると眠たそうな声で「米沢」と言う放送が流れた。左手には雪を被った月山が見え、見事な風景であった。山形駅に着くと、事務長と婦長が迎えに出ていた。「先生、遠くから御苦労様です。」と、山形弁が何か軟らかく、人なつっこい響きに聞こえた。これが山形弁にふれた最初の日であった。

病院は田んぼのど真ん中にあった。聞く所によると、旧山形日赤病院のことである。木造一階建てのボロボロの病院であった。古ぼけた官舎は隙間だらけで、雪が降ると布団の上にすじ状に飛び散ってくる。さすがに山形の寒さは身にこたえた。このため勤務が終わると、山形市内の花小路に一杯飲みに行くのが楽しみとなつた。時には二日酔いとなる事もあった。

3ヶ月に一度は東京より木村教授が巡回診をおいでになる。この時は大変である。三日三晩かけてカルテの調整が行われる。遊んでばかりいないで、もっときちんと患者を診るように指示された。凄く厳しい教授である。診断名が付くまでは何回も罰金をとられたものだった。

一人生活の淋しさをまぎらわし、色々面倒を見てくれたのが今の女房である。もし私が山形の病院に派遣に出されなかつたら、一生独身でいたかもしれない。この点では山形は私にとって人生的一大転機であり、現在の幸せな生活を過ごす事ができるのである。

昭和三十三年本学を卒業、一年間のインターン修行を付属病院で終え、翌三十四年国家試験に合格した。国家試験（当時は筆記と口頭質問の試験が2日間に亘って行われた）終了の翌日、木村栄一教授の室に伺って入局をお願いした。教授はその前年の中途に、東北大から赴任され、新進気鋭の学者・臨床家として既に高名であられた方で、総回診時の鋭いご質問に医局員一同冷や汗をかかされ通じて、インターンの一員としては、遙かに仰ぎ見るといった存在である。しかし、直接お会いしてお話しされる時はとても穏やかで、経歴その他種々の事を尋ねられた上、すんなりと入局を認めて下さった。入局後、オーベンに教えられながら懸命に病室、外来でバタバタ動き回っていた折り、今は亡き先輩門山さんに就いて、医学雑誌の「日本臨床」に載せる「呼吸困難」と題する論文の原稿書きを手伝えというご命令が下された。本学、東大、慶應大の図書館通いをしてやっと仕上げた原稿は、教授の手で完膚なきまでに未梢されていたこと勿論であった。次に与えられた仕事は、日本循環器学会での特別講演「軽微な心電図異常」を成功させる為の下働きであった。連夜大量の心電図を当時の西館の会議室に運び込み、夜明けまで決められた波形部分の二次元測定を行つてデータを出す所までが私の仕事で、その後の分析は教授ご自身がなされ、見事に纏められた内容を講演されて好評を博した。私自身についても、わからぬながらも膨大な数の心電図を眺めたということだけで、それを敬遠する気持ちが払拭され、大いに益されるところがあったと有り難く思つてゐる。これが切っ掛けとなってか、教授が最も意欲に燃えられた電子計算機（コンピュータという語は使われていなかった時代）による心電図診断を始められることになり、その下働きを命じられた。まず手始めは、不整脈診断機の制作であった。機械の画面に表示される、予め組み込まれた二進法論理に沿つた質問に「ハイ」「イイエ」のキーを押して先に進むだけで診断に至れる簡単な機械であった。札幌で行われた日本循環器学会で発表され、心電図の波形の名前を知っているだけの人にでも操作できたり、珍しさもあってか、大方の人には受け入れられたが「電気紙芝居」などと冷やかされることもあって苦笑させられたものだった。次いで、木村教授が取つて置きの「心電図所見のみからの病名診断」という着想を実現させようとの希望を打ち明けられ、思い掛けなさに驚嘆したが、不安ながらに微力をお捧げすることをお誓いした。研究を始めるか始めないうちに、大変な難関に見舞われた。「どうやったら心電図波形を機械に認識させられるのか、その基点を何処に求めればいいのか」という極めて初期の階段で躊躇つたのだ。いくら心電図を見て、無い頭を振つても良い智慧は浮かばず、思い余つて放り投げて一寸離れた所から見た途端ハッとした。「なんだ、RとSを結ぶ線が心電図波形の中で最も急峻な勾配を持っているではないか」と気付き、念の為東芝に頼んで微分心電計を作成して貰つてそれを確認、その点を基点として波形の前後に向けて二次元計測を始めてから一気呵成に研究が進んだ。現在の技術では、簡単なことだと思われるかもしれないが、当時は血を吐く思いをしたものである。木村教授は、直ちに心電図から得た多くのパラメーターと病名とのマトリックスを作成し、ペイズの確率定理に依つて好成績を得られて所期の目的を達成し、我が国に於けるコンピュータ診断の先駆者とされ、その分野の第一人者と呼ばれるようになられた。この時の仕事やその他あらゆる点において先生の警咳に接することが出来たことが、私の今日を在らしめて下さったと、深い感謝の念を禁じ得ない。「先生タバコをお止め下さい」「少しでも本数を減らして下さい」と何度もお願いしたことか。しかし、「うん」という言葉は一度も仰つて下さらなかつた。「小医は病を癒し、中医は人を癒し、大医は国を癒す」という箴言がある。木村先生が、もっともっと長く健康を維持されていらっしゃつたら、大医として必ずやより大きな業績を成し遂げられたであろうと誠に残念に思うと同時に、我々の無力さを痛切に思い知らされるこの頃である。せめて「げんてん（原点、原典）」に帰つて励むことを信条として毎日を有意義に生き、少しでも先生のお志に沿えるように努力していきたいものである。

長州毛利藩の城下町、山口県萩市で昭和 7 年に生まれ、後期高齢者のレッテルを貼られています。木村内科を辞して以来、一度も教室に顔を出したことのない不忠者が、筆を取る資格などありませんがお許しください。

昭和 33 年に卒業。当時は一年間のインターン制で、いずれ母校の内科に入局したいと思っていたので、他校生との交流もよいかと思い立ち、国立東京第二病院（現、東京医療センター）に行きました。東二は慶應闇でしたが、東北大・九大・鹿児島大・日医大（2 名）などから集まっていました。彼らはさすがに良く勉強しており、よい刺激を受けました。翌 34 年春の国家試験に何とかパスし、木村内科に入局を許可されました。木村教授は厳しいことで知られており、「お前よく入ったな」と友人に言われたものです。同期の桜は、壬生倉、吉田、関谷、中田、田崎君、私の計 6 名でした。

教授が来られてから、抄読会が始まりました。英語に弱い私などは、東大医学部図書館に通い、短めの文献を探してきて、辞書を片手に懸命に訳し発表するものですから、十分内容を理解できないまま発表し突っ込まれ、結局、博学な教授に教えられ納得したものです。

当時、新入りは入局数年間無給生活が続き、齧りたい親の脛も細っていましたので、アルバイトをと思うのですが、教授に何時呼び出されるかわからないので、牛山医局長（ウシさん）に大目に見てもらい、仲間にパート先を知らせ、呼ばれたら直ぐ帰れる態勢にして出掛けたものです。教授回診で思い出されるのは、患者さんの病状把握、検査も十分にした積もりでも、不備を指摘され、どんな文献にそんなことが書いてあるのか！と怒鳴られシドロモドロ。文献探しに東大図書館に通ったり、不勉強な弟子でしたが、よく面倒を見ていただきました。時には教授が近郊に往診されることがあると、新兵が心電計を持ってお供をさせられました。当時の心電計は振動に弱く、タクシーの座席では膝の上に抱えて往復したものでした。数年後、佐竹教授が赴任され、般若、八幡先輩、中田、田崎、綿貫が、教授の手掛けられていた血液凝固学研究に携わることになりました。当時の診療棟は古く、特に実験室は老朽化が著しい建物で、数人が夜遅くまで籠もっていました。少し早く実験が終わると、八幡、般若先輩に連れられ、夜の御徒町辺りに繰り出しご馳走になり、この頃から酒を覚え、飲みかつ教えられました。佐竹教授と中田君、私は、住まいが同じ西武池袋沿線で良く一緒に帰り、時には奥様のノロケ話を聞かされたものです。しかし、教授は志半ばにして他界されました。先生の足を引っ張った弟子ども一同、悔やみ悲嘆にくれました。以後、木村教授に血液凝固の指針を立てていただき、40 年に論文提出ができました。40 年末から 3 ヶ月あまり、東村山病院に出張いたしました。病院長の中山孝雄先輩の指導を受けました。診療は方言に悩まされ、看護師さんの通訳つきでした。「今日は皆で風呂に行くぞ」と中山院長の発声、天童とか山形の温泉に出掛けましたが、何処も混浴、はじめての体験で驚かされました。ある時、魚屋に蒲焼を注文し「肝吸いも一緒に」と告げたところ、「それは何ですか」今まで内臓は全て捨てていたと言われビックリ。中山先輩には、よく旅行（藏王・山寺・八幡平など）に連れて行っていただきました。41 年 3 月、医局を辞する許可が下り、42 年 1 月、故郷で開業しました。以来、教室には一度も顔を出さない不肖の弟子であります。後日、千代田区のマンションに、亡き木村教授の奥様を訪ね、教授の遺影に深々と頭を垂れました。

数年前、皆川彰先生のお骨折りにより、凝固班で一緒に汗を流したメンバーが一堂に会し、亡き佐竹教授の奥様を囲み、在りし日の先生の思い出話に時間を忘れました。しかし、早くに中山先生、般若先輩、最近では親友だった中田君も亡くなり、哀惜の念に堪えません。

私、開業数年後に医師会理事を拝命、以後、県医師会理事、地元医師会会長を、現在は議長を務めています。大きな貢献もないのに、19 年秋、旭日双光章の叙勲を受けました。今後、数年間、地域医療に貢献できればと思っています。

最後になりましたが、教室の今後益々の発展と、皆様のご活躍を祈念申し上げます。

院長退任に当たって

社会福祉法人恩賜財団済生会 神栖済生会病院

名誉院長 笠井源吾（昭和38年卒）

私は、昭和58年7月から、恩賜財団済生会波崎済生病院院長と移転新築なった神栖済生会病院院長を足掛け26年間務めさせて頂き、この10月1日をもって院長を退任させて頂きました。そして、済生会本部の豊田章一郎会長と茨城県済生会支部会長の橋本昌茨城県知事から名誉院長の称号を授与されました。後任の院長には、いろいろな事情を考慮して、日本医大第一外科出身の高崎秀明君に、院長代理には、この10年間私を支えてくれた長野具雄副院長・内科部長になってもらうことになりました。私が院長になった動機は、当時、国立横須賀病院循環器科医長をしていた時、奥村英正教授から「波崎済生病院では、事情があつて院長も常勤医もいなくなつた。病院を見に行ったら建てたばかりの新しい病院で、潰してしまうのは勿体ないし、社会的損失もある。君が行って立て直して若い人の勉強の場にすればよいが、どうか。済生会のような国公立につぐ公的な組織でもあるし」と打診がありました。私は過去に、この病院の当直を頼まれたことがあり、またこの病院の近くの鹿島白十字病院に3か月派遣されましたので、土地勘もありました。何よりも、伝統があり古い医科大学でありながら、院長を含めた国公立や公的な関連病院が少なく、卒業生が、このような第一線の病院で、多くの症例を経験して臨床研修をすることに力を入れていないことに疑問を持っておりましたので、考えた結果、院長をお引き受けすることに致しました。

院長の仕事というのは、今までのように医療だけやっていればよいのではなく、医師を招聘すること（田舎の病院ではこれが一番大変な仕事です）新たに職員を集め、教育して一人前にして組織化すること（状態の悪い病院にはパワーのある人は集まらない）お金の計算をし黒字にしなければならない（建物・設備機器の借金の償還も含めて）地元に信頼されるための対外活動（まず家族全員でこの地に転居し、地元の幼稚園や小学校に入学させ、地元の人と付き合うことから始める）などありました。

医師につきましては、地元の要望に応えるためには日本医大のみでは満足に出してもらえませんでしたので、私のコネクションをフルに活用し、関東一円の大学に声を掛けて、筑波大学・昭和大学・順天堂大学・慶應大学・日本大学・東邦大学などにお願いして来てもらいました。

再建の5年目から経営は黒字に転換し、以後、借金の返還に務めてまいりました。しかし医療法の改定による施設基準を充たさなくなった事、海辺のため建物の老朽化が早く進んだ事、病院周辺の人口が減った事、医師を初めパワーのある職員を集めにくい事などから、支部や本部の理事会にはかり、20km離れた立地条件の良い鹿島港近くの現在地を選び、平成17年3月1日に移転新築しました。そして名称も神栖済生会病院と改めました。移転後、3年半が経ち、病院の運営も目途が立ちましたので、適当な時期と考えて会長の許可を頂き、退任を決めました。

済生会という組織は、全国の殆どの県に病院・診療所・福祉施設などを有し、保健・医療・福祉の分野に約4万人の職員が働いております。毎年行われる済生会学会・総会、年に5~6回持ち回りで行われる院長会、さらに病院の新築落成式で招待された際などに、全国をくまなく訪ね、それぞれの地域の医療事情を知る事ができ、また、他の大学出身の院長を含めてドクターとの交流ができた事は、私にとって得がたい経験となりました。

若い医局員の方々には、大学の高度専門医療の研修のみでなく、地方のこのような病院に出て、病院医療のチームリーダーとしての経験も大いに積んで頂きたいと思いますし、私のように経営者を目指す人も是非出て欲しいと願っております。

この病院が今日あるのは、奥村先生を始め、早川・高野・水野の各歴代教授先生方のご指導・ご支援や第一内科の多くの医局員の皆さん方の26年間に亘るご協力の賜物と深く感謝致し、院長退任のご挨拶と致します。

新型インフルエンザ(Flu)の大流行

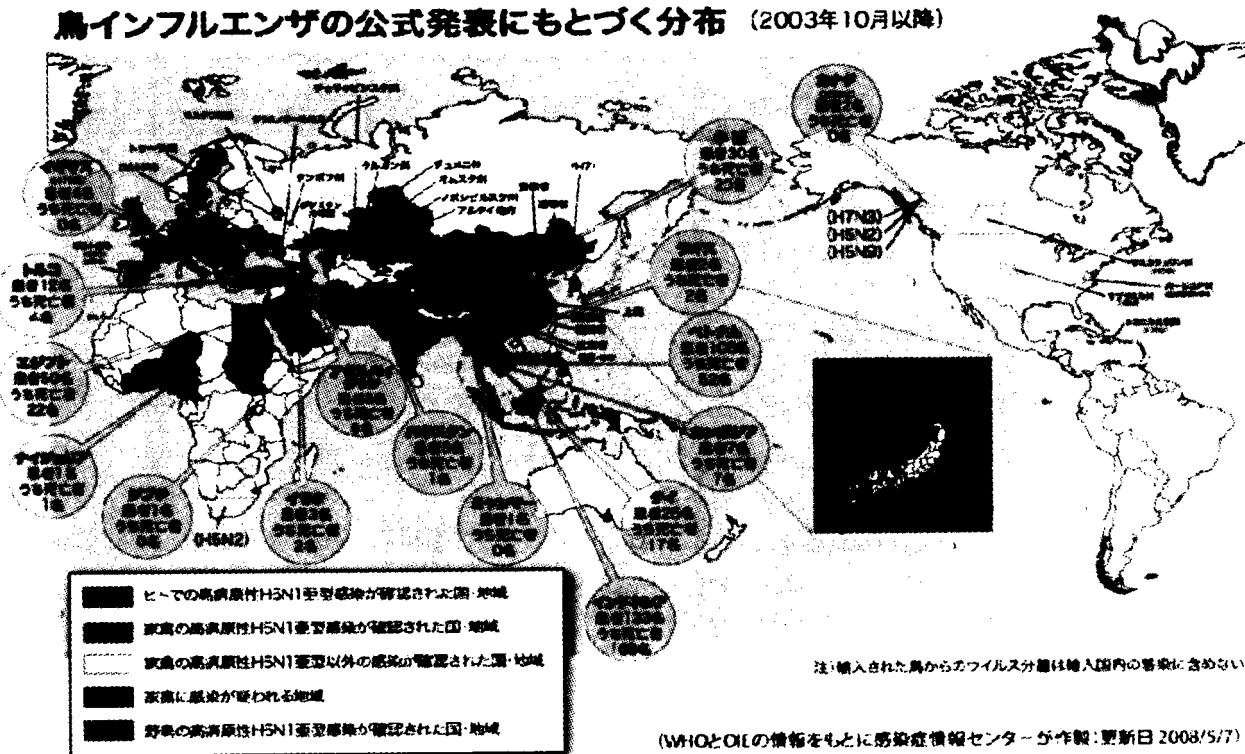
(パンデミック) で今埼玉が一番危ない！

ふくだ内科・循環器科 福田 純

世界各地でH5N1亜型高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)が拡散し(図1)、人への感染者も増加し(表1)、その中で人→人感染例が散発的ながら見られている。パンデミックは既に“時間の問題”と考えられている。第一次世界大戦中、スペイン風邪のパンデミックにより日本での犠牲者は40数万人(当時の人口5700万人)にのぼったと報告されている。それでもスペイン風邪は低病原性であったとされている。HPAIによる死亡率は60%を超え、スペイン風邪の2%をはるかに超えている。世界中の人がH5N1 Fluウィルスに罹患していないため抗体を持ちえず、新型Flu感染で膨大な被害が出るだろうと懸念されている。にもかかわらず厚労省はFluの罹患率を人口の25%、死者数は最大64人と想定し、この値を基準にワクチン(プレパンデミックワクチン=PPV)や抗ウィルス薬(タミフルやリレンザ)の備蓄量を計画している。

図1

鳥インフルエンザの公式発表にもとづく分布(2003年10月以降)



實明な諸兄々はすでにお気づきと存じるが、①誰も免疫を持たないので罹患率25%の根拠は？②スペイン風邪よりも毒性が強く、死亡率が高いのにmax.64万人の死者の根拠は？③当時の人口より2倍以上多いのに被害予想が少なすぎるのでは？④当時より人口密度度が高いのに？⑤世界の交通手段で当時は船が主、だが今はジェット機が主体。世界中を蔓延するのに数日しか掛からない？等々の理由により、「厚労省の想定は甘すぎる！」との見解がもっぱらである。死者予想は数百万とも言われてきている。

さて、例年のFluは年間およそ1万人の高齢者が肺炎を合併して亡くなるとされている。しかしながら、HPAIにおける50歳以上の死者は約20%であるが、10代の若者たちが最も死亡率が高く70%を超えている(図2)。埼玉県民の平均年齢は全国では沖縄県に次いで若い順第2位の42.0歳。ちなみに私の住む戸田市は県内で最も若く38.3歳となっている。加えて、県南部の人口は密集しており、蕨市は人口密度日

本1である。周辺は未だにマンション建設が続いている、マンション住人等の若い世代の社会層が止まらない。世帯主の多くは30~40代で、幼子や学童・学生も同居する。密集した地域に若い世代が多く住む、埼玉県南部は他の都府県に比べ、特に若い世代に死亡率が高い新型Fluへの対策を最も強力に講じなければならない地域と考える。

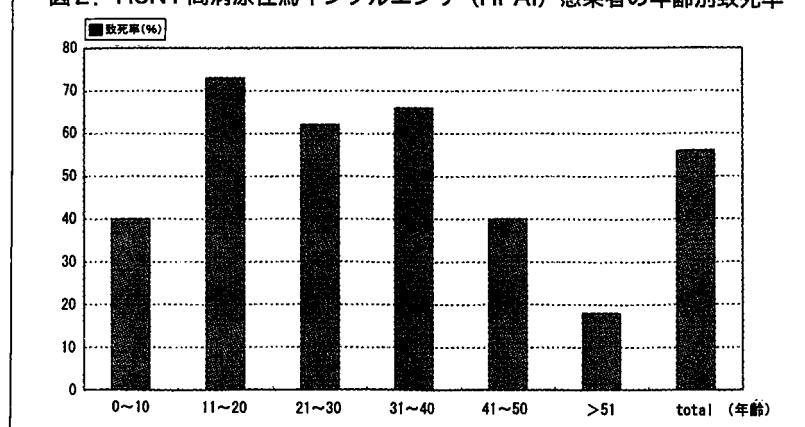
表1. WHOに報告されたヒトの鳥インフルエンザ(H5N1)確定症例数

(2008年3月18日WHO公表)

	2003年		2004年		2005年		2006年		2007年		2008年		合計	
	症例数	死亡数	症例数	死亡数										
アゼルバイジャン	0	0	0	0	0	0	8	5	0	0	0	0	8	5
カンボジア	0	0	0	0	4	4	2	2	1	1	0	0	7	7
中国	1	1	0	0	8	5	13	8	5	3	3	3	30	20
ジブチ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
エジプト	0	0	0	0	0	0	18	10	25	9	4	1	47	20
インドネシア	0	0	0	0	20	13	55	45	42	37	12	10	129	105
イラク	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	3	2
ラオス	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	2
ミャンマー	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
ナイジェリア	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
パキスタン	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
タイ	0	0	17	12	5	2	3	3	0	0	0	0	25	17
トルコ	0	0	0	0	0	0	12	4	0	0	0	0	12	4
ベトナム	3	3	29	20	61	19	0	0	8	5	5	5	106	52
合計	4	4	46	32	98	43	115	79	86	59	24	19	373	236

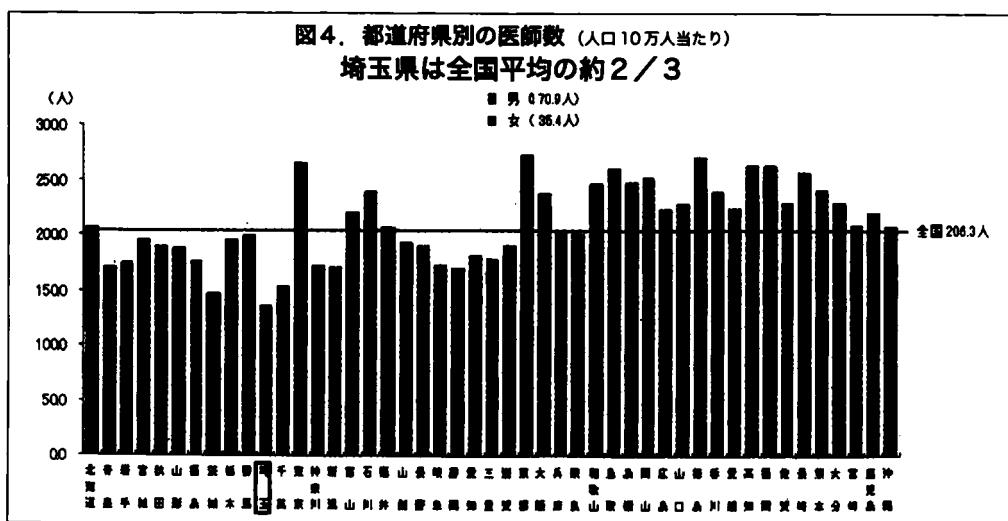
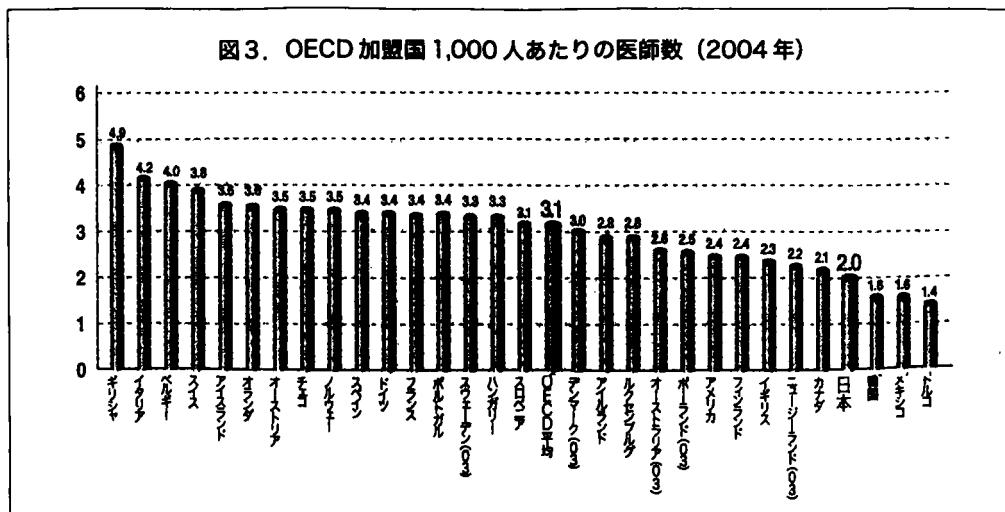
注:確定症例数は死亡例数を含む。
WHOは検査で確定された症例のみ報告する。

図2. H5N1高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)感染者の年齢別致死率



一方、日本の医師数は人口1千人当たり2.0人でOECD(経済協力開発機構)加盟国(30ヶ国中27位)平均値3.0を大きく下回る(図3)。先進国の中では最低である。そんな中において埼玉県はさらに、全国の医師数は47都道府県中で最低の47位(日本平均の2/3)である(図4)。それでも普段は平均年齢が若い分、有病率が低い。それに東京への通勤通学者が多く、東京への就業者数はおよそ100万人とされる。日中の受診はそれぞれの勤務先途中や通学先近くの医療機関を受診することで事なきを得ていると考えられる。ところが、Fluの発症で38~40℃もの体温上昇があった時、いつも通院している遠くの医療機関に受診するとは思えない。当然のことながら住居近隣の医療機関を受診することであろう。また、爆発的に膨れ上がったこれら患者達が、一気に日本一少ない埼玉の医療機関に殺到する事態が想定される。加えて

医療者も当然のことながら Flu に罹患し、休診を余儀なくされる所も出るであろうことを考えると、受診することすら難しい事態が予想される。また、新型 Flu 発症時に設置予定の「発熱外来」へ赴く医療スタッフの確保は他の地域以上に困難を極めることが予想される。



さらに、残念なことに埼玉県の Flu ワクチン接種率は全国最低である。人口 100 人当たりのワクチン供給量（使用量）は全国平均で 14.69 本、最多は島根県の 18.13 本、埼玉は 11.70 本と最低で、最近数年間は連続最下位を定位位置としている（表2）。集団接種から個別接種に移行し、さらに公費負担が 65 歳以上にという背景が高齢者の割合が少ない埼玉県故の原因であろうか？若い世代に Flu ワクチン接種を受けるよう啓蒙指導を強化していかなくてはならない。また、国がパンデミック時に用意している PPV は当初 1000 万人分、さらに追加して計 3000 万人分にする方針とした。更に、ここに来てタミフルやリレンザの備蓄量も追加計画という。これは他国の準備状況と比べ、あまりにも見劣りすると感じ取った自民党のプロジェクトチームの思惑であろう。それでも PPV の生産絶対量が少ないため、当然のことながら接種してもらえない人が出てくる。国はワクチン接種の優先順位（トリアージ）を決め、医療関係者や公共に必要な人を優先させてワクチン接種をする意向のようだが、これとて国民のコンセンサスを事前に取っておく必要がある。スイスでは全国民分のワクチン量を準備していることを考えると日本の危機管理は如何なものかと思える。国民の気持ちを考えれば、全国民に行渡る分量のワクチンを用意してほしいであろう。

表2. インフルエンザワクチン都道府県年度別
供給数量（医療機関の使用量）人口100人当たり

年度	全国平均	最多	最小
平成12	4.92	長崎県 7.9	京都府 3.4
平成13	6.85	山口県 6.85	京都府 5.16
平成14	8.16	長崎県 8.16	埼玉県 6.2
平成15	11.46	佐賀県 15.31	埼玉県 8.37
平成16	12.52	長崎県 15.93	埼玉県 9.95
平成17	15.12	長崎県 18.82	埼玉県 12.39
平成18	14.69	島根県 18.12	埼玉県 11.7

これにかかる費用はたった一千数百億円に過ぎないと国立感染症研究所の岡田氏は述べている。パンデミックによる経済損失はおよそ 20~50 兆円との資産もあり、「国民の命を守ろうとしない国に税金を徴収する資格はない！」と言いたい。ワクチンを製造できる国は先進国を始め、世界中で 12 力国足らずと限られている。ワクチンを製造できない多くの国々から、パンデミック時にワクチン提供の要望が殺到するであろう。が、そのとき日本はどういった行動を取るであろう？一般国民にも供給されない量のため各国からの要請を断るのだろうか？それとも国民供給量の十分の一に満たない、けななしのワクチンを国民の感情を振り切って要求国に渡すであろうか？まずそうしたことは出来まい。そんな選択をするぐらいなら、この際、いっそ全国民のみならず全世界に行渡る量のワクチンを製造・備蓄し、いざと言う時の国際貢献策にしたほうがよっぽど日本の株が上がらうというものである。特にサハラ以南のアフリカではエイズやマラリア等で若くして感染症で亡くなる人の多い国々へは、訳の分からぬ ODN などに消えるお金をつけ込むくらいなら新型 Flu のパンデミック時、喉から手を出しても欲しい時期に差し延べられるワクチン外交としての“日本の国際貢献・人道支援”を国策として検討してよい機会にあると考える。67 億にならんとする地球人全員に接種したとしても、その費用は 7~8 兆円程である。ワクチン接種により、凡そ 30% の死者減との試算がある。全世界で数千万~1 億人以上の人命が救われ、そして人ひとりの命が数千円の費用で助かるという話である。そうであれば費用対効果として決して悪くない計画であろう。

さて、話が大分それたが、最後に新型 Flu の死因の多くはウィルス性肺臓炎～多臓器不全によるとされ、これにより入院加療が必要な患者達を収容する医療機関の病床数が圧倒的に少ない。特に埼玉県南部において、さいたま市立病院（一般 537 床、結核 20 床、感染症 10 床）がその任に当たるとされるが、中央医療圏を含む県南の人口（約 200 数十万人）から考えると到底足りない。よしんば運よく？入院できたとしても、重症の呼吸不全を呈している患者達に装着する人工呼吸器はたった 29 台しかない。川口市立医療センターも同 31 台、自治医大大宮医療センターでも 50 台に満たない。中央医療圏内全ての人工呼吸器をかき集めておそらく 200 台に届かないと推考される。そんな中、担当医師たちは瀕死の患者達の苦しむ姿を為すすべもなく己の無力さ・無念さをにじませながら、悲惨な状態の患者たちを次々に見送らねばならないであろう。そんなころ、街中でも入院すら出来なかった罹患者たちも修羅場におり、家庭に留められた家族もバタバタ倒れ、日本中パニックに陥っていることであろう。

先日、WHO 西太平洋事務局長の尾身氏が与党の新型 Flu 対策に関するプロジェクトチームに招かれた際次のように述べた。「感染拡大を防ぐため、患者は医療機関に殺到すべきでない。感染が確認された場合は在宅医療を行うのが望ましい。」と。尾身氏が述べた前半の部分は正しい側面を含んでいるが、死亡率の高い感染症患者を在宅で「どう診ろ」というのか？修羅場となった現場のことを理解している者の発言とは到底思えない。家族の中に一人発症した時、親はどうすれば？子供やお年よりはどうしたらいいのか？

会社や学校もデイサービスも滞り、そんな中で感染者が広まり重症化していく最悪の状況を想定しなければならない。地震災害と異なり、他の地域から助っ人やボランティアが来ない中で黙々と的確に仕事を進ませることの出来るマニュアル作りが求められている。新型 Flu の第 1 波で約 2 ヶ月滞る。各々の置かれたポジションで期待していた同志が病魔で倒れても機能するマニュアル作りを綿密に練らねばならない。命令・支持系統は複線化、阿弥陀くじタイプが望ましい。厚労省が昨年 3 月、新型 Flu に対するガイドライン(GL)を出した。が、その内容は実施主体が曖昧で具体性に欠けている。恐らく実際のパンデミック時には機能しないと思われる。ならば、どうするか？

そのような地獄絵図にならない有効な方法はあるのか？を今考えなくてはならない。大方の予想として、東南アジア・中国南部辺りから新型 Flu は発症するであろう。国は先ず①水際（港湾や空港）で防御することを画策している。勿論これは必要な対策であるが残念ながら、ウィルスはいとも簡単にここをすり抜けるであろう。新型 Flu は発症前の潜伏期に既にウィルスを排出しているからである。首都圏で第 1 号患者が出た折、一週間後には 10 数万人、2 週間後には 36 万人にも患者数は膨れ上がると国立感染症研究所の大日氏はシュミレーションしている（表 3）。以後は先に述べた地獄絵図の惨憺たる様相となる可能性大であり、水際作戦の効果は期待薄である。とどのつまり、流行する前に自衛するしか方法がない。その方法とは極力、不要な外出をしないことと生活用品の備蓄である。特に、致死率が高い感染性疾患では不要な外出は出来るだけ避けることが肝要である。先の GL では生活のライフラインが停止することもあると考え、「水を含む約 2 週間の生活用品の備蓄をするように」と述べているが、新型 Flu が一度流行した折は第 1 波だけで約 2 か月は続くと考えられている。ところが、実際に 2 か月分の備蓄量を用意するのは現実的に不可能であろう。生活水だけでも 1 日 3 リットル × 家族人数分 × 2 か月分と膨大な量になり、狭い日本の家屋に収納することは難しい。

医療従事者はこの間、タミフルやリレンザの予防投与を続けなければなるまい。完全な防護服と抗ウィルス薬なくしての診療は自殺行為！と言えよう。これらが調達できない時はたとえ「敵前逃亡」と言われようと最前線からの勇気ある撤退を考えねばなるまい。

表3 ～新型インフルエンザ～

2 週間で 36 万人感染し、全国に拡大

時間の経過	1日目	日本人の男性が海外で新型インフルエンザに感染
	3日目	感染に気がつかないまま帰国、東京八王子市の自宅に帰宅。
	4日目	東京・丸の内の勤務先に電車で出社し、発症。
	8日目	首都圏の感染者数が約 8,600 人。 京阪神、名古屋市、福岡県、仙台市、宮崎市に拡大
	9日目	首都圏の感染者数が約 3 万 3,000 人。 札幌市、沖縄県にも拡大。
	14日目	感染者数が全国で約 35 万 8,000 人。
	(注) 国立感染研・大日康史氏の試算	

パンデミックが去り、 社会に大きな傷痕を残して…

- ・多数の若者の死により少子化に拍車
- ・生産労働人口の減少で年金・介護・
医療保険制度の大きな見直し
- ・経済的損失は20～50兆円と試算
- ・消費税の大幅なアップ？
- ・国民の精神的ダメージへの対策；
PTSD等への対応

埼玉県の特殊事情

- ・人口当たりの医師数・医療機関数は全国最低
- ・東京に通う若い学生や就業者（埼玉都民）が多い
- ・彼らの慢性疾患の有病率は低く、あっても地元の
医療機関に受診する率は少ない
- ・Fluの場合通常、出勤・通学はしないため
自宅近くの医療機関に受診する
- ・新型Fluの流行で医療過疎状態に拍車がかかる
- ・人口当たりのワクチン供給量は全国最少

以上述べた理由から、埼玉県南部は日本の中でH5N1新型Fluに対して最も危険な地域となることが想定されるため、今からそれ相当の準備が不可欠である。流行前に医療機関の準備のみならず住民の啓蒙（知識のワクチン接種）が特に重要であると考える。今から医師会が主導し、腰の重い行政を動かし対策を練らねばならない。最大被害が見込まれる埼玉で、厚労省の役に立たない？ガイドラインに代わる“実働可能なマニュアル”的作成や有識者によるシンポジウムの設定、更には地域住民への新型Fluへの危機管理意識の向上のため、機会を事ある毎に市民公開講座などを開催することが望まれる。今は新型Fluパンデミックまでそう時間はないと考え、対策を急ぐべき時期にある。

危機管理防御の鉄則；最大被害を想定し、供えは充分に！である。パンデミックが過ぎ去った後の傷跡を出来るだけ軽微にするためにも・・・。

馬渕原一君を偲んで

長澤 紘一

平成 20 年 11 月 24 日、連休を利用して木曽路を旅して帰宅したところ、留守番電話に二十数件の通話があり、それが馬渕原一君の訃報でした。

奥様のお話によると、前日に京都旅行から帰宅し、夜中の 2 時頃まで雑談をしてから就床したそうです。朝になりベットサイドでまるで眠っているようなご主人に気づき、大垣市民病院へ搬送しましたが、心肺停止状態から蘇生できなかったそうです。

昭和 39 年卒業生で第一内科に入局したのは、馬渕君、箕田君と私の 3 人でした。厳しい木村栄一教授の下でもお互いに要領が良いほうで、あまり叱られず楽しい医局生活を楽しむことができました。

馬渕君は狭心症グループで活躍していましたが、研究面に関しては岸田教授が別に掲載するとのことで割愛し、普段の付き合いの中から、いくつかのエピソードを紹介して、故人を偲びたいと思います。

馬渕君は学問的にも優秀な人でしたが、遊びに関してはさらに優秀でおそらく遺り残したことではないと思います。

最近あまり参加しなくなりましたが、ゴルフも下手な横好きでよくプレーをしていました。中日クラウンズゴルフトーナメントのプロアマ競技に参加し、当時世界的スタープレーヤーのセベ・バレステロスとラウンドし、フェアウェイに多数の観客がいるため、ティーショットを恐くて打てなかつたこと、山口市で開催された日本循環器学会の帰りに、羽田空港のターンテーブルに出てきたゴルフバックを、木村教授がそばで自分のバックを探していたため、いつまでも引き取ることができなかつたこともあります。

野球は中日ドラゴンズの大ファンで、巨人大好きな八幡先生と 3 連戦で負け越したほうが、ご馳走するような約束をしていましたが、大分負けが込んでいたようです。

馬渕君は以前から糖尿病があり、インスリンの自己注射をしていました。悪友の私たちは、「馬渕君は DM があっても俺達より元気だ。立派なものだ。」とよくからかっていましたが、網膜症を悪くしてから生活に注意し、血糖のコントロールも良好だったそうです。

そして、明年（平成 21 年）4 月からは、次男の信行さん（広島大学卒、名古屋大学消火器内科）が大垣に戻り、消火器内科も併設することになり、病院の改築工事も進み、楽しみにしていた矢先のご逝去、残念でなりません。

木曽路を旅行し、奈良井宿、妻籠宿だけで帰る予定にしていましたが、時間があったので岐阜に入り、馬籠の宿から雪の恵那山をみて帰途につきました。

今思えば、馬渕君が呼んでいたのかもしれません。

合掌。

馬渕原一先生の輝かしい業績とその思い出

教授 岸田 浩

この度、馬渕原一先生のご逝去に際して深く哀悼の意を表します。先生に直接ご指導いただいた後輩の一人として先生の業績を振り返って思い出を述べたいと思います。

馬渕先生は、木村栄一教授の主宰されている第一内科に入局されたのは、昭和 40 年(1965 年)であり、小生は馬渕先生の 4 年後輩になりますが風格やお話のされ方、考え方などから大先生ように神々しく輝いてみえました。先生は、当時から難しいテーマを木村先生から依頼されて論文を書いておられました。もっとも印象深いのは、「心臓」という雑誌に「冠不全」についての総説を発表しましたが、その内容が高く評価され著名な循環器の先生方に一躍名前が知られるようになりました。馬渕先生の学位論文のテーマは、「狭心症治療薬の臨床的効果判定法に関する研究」についてですが、この評価法は現在使われております二重盲検法によるあらゆる薬剤の薬効評価の礎であるといえます。現在狭心症の治療は冠血行再建術が中心でしたが、その当時は薬物治療が中心であり、持続作用の短い経口硝酸薬とプロプラノールがあるくらいでそれによる胸痛発作を減少させることを目的として治療していました。馬渕先生は、狭心症治療薬の効果を判定するための指標として、主観的な自覚症状である発作回数、発作の持続時間やニトログリセリン消費量の程度によって層別化し、それらを点数化して治療前後で比較する方法を作成しました。その後、客観的な指標である運動耐容時間によって薬効評価を行うことになりましたが、その当時トレッドミル装置を持っている施設は、日本に 2 ~ 3 力所しかない時代でした。小生はトレッドミル運動負荷試験を用いた研究に興味をもっていましたので、その仕事に参加することになりました。興味あることに運動耐容量の増大と狭心症状の主観的指標の改善度の間に有意な相関がみられたことでした。馬渕先生は、自覚症状のような主観的目標であっても正確に症状を評価判定すると薬効評価に有用な価値をもつことを実証されました。

この経験は、その後の私の研究に重大な影響をもたらしたといえます。それは、患者携帯用心電計の開発でした。これまで狭心症の対象患者は、ほとんどが労作性狭心症でしたが、中に夜間～深夜に発作を生じる症例もみられました。安静狭心症の診断は、発作時心電図を捉えることがもっとも重要ですが、運動負荷試験を行っても狭心症発作は誘発されず、入院中に発作が起きるのを待って診断するしか方法はありませんでした。木村教授から患者に携帯用心電計を装着して、発作が起きた時に患者自らスイッチを押して記録できるような装置の開発に関するテーマをいただきました。開発時には、研究費は八田貞人先生に調達していただき、広瀬 勝先生には開発協力できる企業との交渉を、馬渕先生には多くの症例を提供していただきました。この装置がうまく開発でき、外来で夜間狭心症を疑った患者に開発した心電計を貸し出したところ、異型狭心症の診断症例が面白いように集積されました。この心電計の有用性についてシンガポールで開催されたアジア太平洋心臓病学会で発表のために木村先生や馬渕先生、仲間と一緒に海外出張しました。

また、もう一つの大きな仕事は、当時はカルシウム拮抗薬という言葉は知られていませんでしたが、世界に先駆けてニフェジピンの治験を労作性狭心症を対象とした二重盲検法で実施し、そ

の有効性を報告しました。さらに異型狭心症のほとんどの症例にニフェジピンが著効を示すことをつきとめ、馬渕先生が国際学会で発表しました。この時も先生とご一緒に参加しました。その後、患者携帶用心電計を用いた臨床応用の成績や日本人における異型狭心症に対するカルシウム拮抗薬の有効性に関して *Circulation* 誌に報告しましたが、この成果の源は馬渕先生のすばらしい指導力のお陰であると思っています。

先生は、家庭の事情で早くして故郷の大垣へ戻られましたが、その戻られる数年間第一内科の狭心症研究班の責任者として、狭心症外来で多くの患者を診ておられました。小生は隣のトレッドミル室に待機しており、馬渕先生から外来の患者の中で運動負荷試験を必要と判断された患者のトレッドミル負荷試験を実施担当する仕事を命じられていました。狭心症外来で実際に患者を診察してもよいと許可されたのは入局後 5 年目からであったと思います。故郷に戻られる際に先生の手書きで長年にわたって書き加えられた狭心症患者のリストと馬渕先生の発表用のスライドを小生に託されました。その後の冠動脈疾患患者の長期予後成績に関する論文を報告しましたがこのリストが元になっています。また、今でも狭心症治療薬効果判定法としての逐次解析法のスライドは大切に小生の本棚に保管してあります。

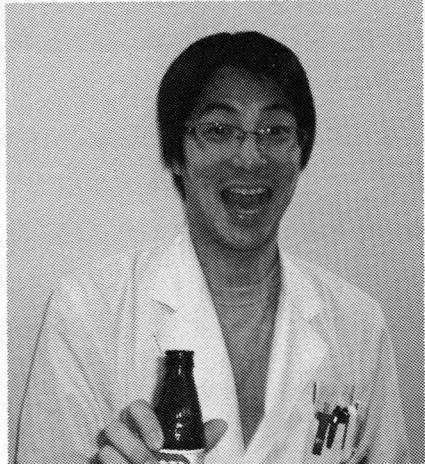
先生には研究以外でもお世話になりましたが、いつもユーモアを交えてだれとでも親しく話されるところも先生の魅力でした。今でもその特徴のある話し方がなつかしく思い出されます。先生のご冥福を心からお祈り致します。

新入医局員の紹介

平成20年は9名が入局しました。付属病院に乾恵輔、植竹俊介、斎藤恒徳、坪井一平、中野博之、野崎文華、林 洋史、本間英恵、の8名、武藏小杉病院に小川ゆかり医師です。簡単な自己紹介をしていただきました。

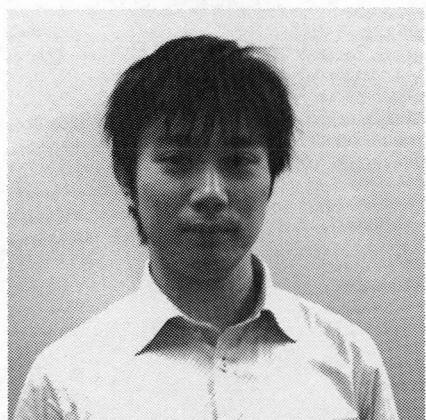
乾 恵輔

- ①出身高校・・・群馬県立高崎高校
- ②趣味・・・・・テレビゲーム、妻の肩もみ
- ③第一内科に入局して
- 良かったこと・たくさんの素晴らしい先生方に囲まれ忙しい中でも充実した生活が送られていること。
- 悪かったこと・特にないです。
- ④将来の夢・・・身体的にも精神的にも患者さんを救える医師になりたいです。



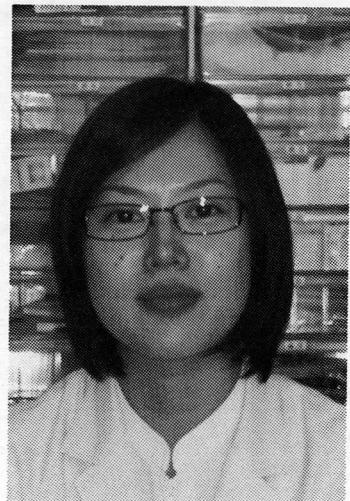
植竹 俊介

- ①出身高校・・・巣鴨高校
- ②趣味・・・・・買い物・家でぼ~っとする。
- ③第一内科に入局して
- 良かったこと・内科全般的なことを勉強出来ること。
- 悪かったこと・家でぼ~っとできないこと。
睡眠時間がとれないこと。
- ④将来の夢・・・不整脈で新しい分野を切り開くこと。
- ⑤その他 何でも良いので書いて下さい
ふつつか者ですがよろしくお願ひ致します。



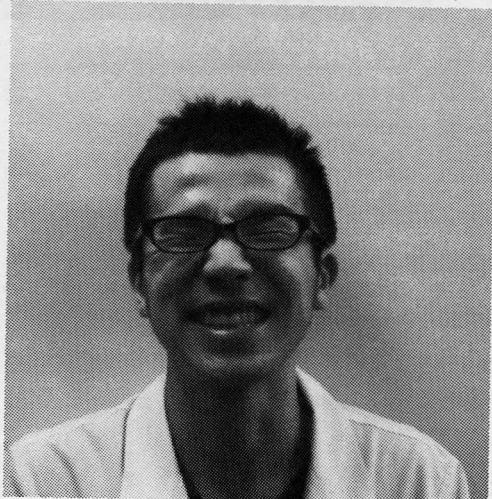
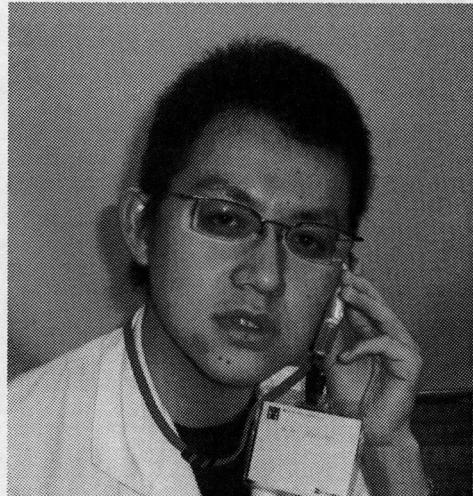
小川 ゆかり

- ①出身高校・・・晃華学園高等学校
- ②趣味・・・・・音楽鑑賞、お笑い
- ③第一内科に入局して
- 良かったこと・宗像先生の厳しい指導のもとで学べること。様々な疾患に出会えること。
- 悪かったこと・ないです。



齋藤 恒徳

- ①出身高校・・・私立城北高校
- ②趣味・・・・・チエロ演奏、漫画（読むのも、描くのも）
お出かけ
- ③第一内科に入局して
- 良かったこと・「一人の患者さんを責任をもってしっかり診る」という医者として当たり前のこと、改めて教えていただいたこと。
- 悪かったこと・なし
- ④将来の夢・・・自信をもって何事にも臨めるような医者になりたい。
- ⑤その他 何でも良いので書いて下さい がんばります。

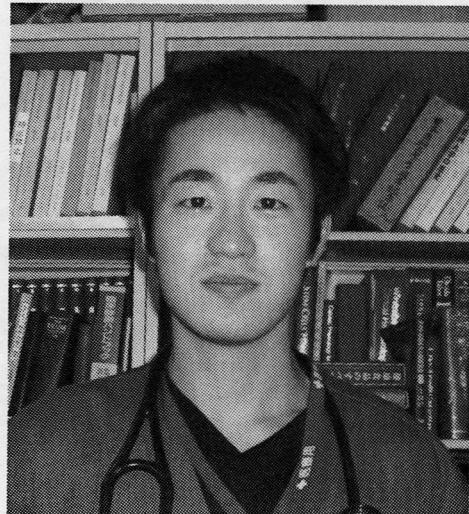


坪井 一平

- ①出身高校・・・私立東海高校
- ②趣味・・・・・ハンドボール・余興
- ③第一内科に入局して
- 良かったこと・色々な人がいること。
- 悪かったこと・思ったより休めないこと。
- ④将来の夢・・・強靭な医者
- ⑤その他 何でも良いので書いて下さい
一に仕事、一に酒、一に家庭

中野 博之

- ①出身高校・・・開成高校
- ②趣味・・・・・テニス、競馬
- ③第一内科に入局して
- 良かったこと・まわりのすばらしい先輩方と仕事ができること。
- 悪かったこと・思ったよりも忙しかった。
- ④将来の夢・・・患者さんに信頼される医師になりたい。



野崎 文華

①出身高校・・・私立晃華学園高等学校

②趣味・・・・テニス・映画・音楽鑑賞

③第一内科に入局して

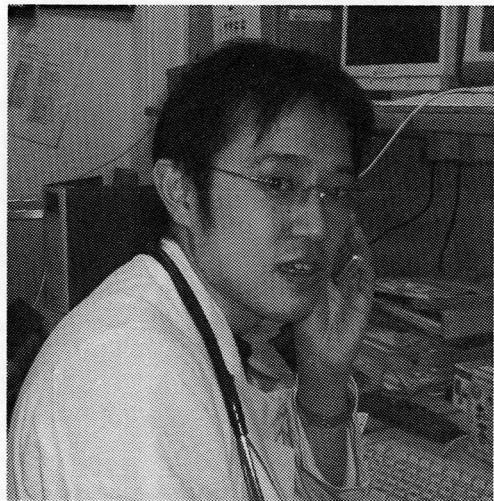
●良かったこと・いい先輩方、同僚、スタッフに
めぐり会えたこと。たくさん
御指導してもらえる環境で働いて
いること。

●悪かったこと・睡眠時間が減った。

④将来の夢・・・自信をもって患者さんを診ること
のできる医者になりたいです。

⑤その他 何でも良いので書いてください。

日々ドキドキしながら生活しています。がんばります
ので宜しくお願ひします。



林 洋史

①出身高校・・・駒場東邦高校

②趣味・・・・昼間からビールを飲みながら
映画をみること。一人旅。

③第一内科に入局して

●良かったこと・循環器全般に関して様々な
貴重な症例や手技を学べること。
先輩医師が多く困った時に相談
できること。

●悪かったこと・特にありません。

④将来の夢・・・ジェネラリスト



本間 英恵

①出身高校・・・桜蔭高校

②趣味・・・・山登り、スキー、バイオリン

③第一内科に入局して

●良かったこと・指導医の諸先生方、先輩方、
同僚に恵まれていること。

●悪かったこと・少し忙しいこと。

④将来の夢・・・心寛い内科医

げんてん会活動報告

1. げんてん会総会・講演会・新入医局員歓迎会

平成20年度のげんてん会総会は、平成20年6月21日（土）日本医科大学橘桜会館2Fホールにて開催され、多数の先生方にご出席いただきました。総会では山崎登志雄会長のご挨拶、水野杏一教授より主任教授就任のご挨拶、会計報告および今年度主催予定学会の説明がなされました。その後、平山悦之講師より「細胞内Ca調節機構と不整脈」、宮武佳子医員より「"卒煙"外来について」、塚田弥生医員より「女性医師アンケート調査報告」、小林義典准教授より「エベレスト遠征について」の講演がありました。どれも、興味深い内容で、活発な質疑応答がなされました。

引き続き懇親会がひらかれ、大林完二副会長のご挨拶、清野友三郎先生の乾杯の後、新入医局員の自己紹介がありました。OBの先生方のスピーチを次者指名制のリレー方式で行ったところ、多数の先生方が近況を語ってくださいました。中でも今井千草先生がご自分のご病気の体験を面白おかしく語ってくださったのが印象的でした。また、新入医局員達は一部の熱心なOBの先生方からじっくりと昔話を伺っていたようです。

2. 学術集会主催報告

- 第14回日本血管内治療学会学術集会（平成20年7月25日～26日）
会長：水野杏一教授、於 アルカディア市ヶ谷
- 第15回日本集中治療医学会関東甲信越地方会（平成20年8月30日）
会長：田中啓治教授、於 東京ドームホテル
- 第209回日本循環器学会関東甲信越地方会（平成20年9月27日）
会長：清野精彦教授、於 東京ステーションコンファレンス（サピアタワー）

今年は、主催学会の多い年がありました。上記の如く7月には水野杏一教授、8月には田中啓治教授、9月には清野精彦教授がそれぞれ会長を務められ、いずれの学会も大盛況に終ることができました。開催にあたり、OBの先生方からは貴重なご助言をいただき、また、げんてん会から各学会へそれぞれ30万円の寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。

学会の準備は1年以上前から綿密に計画され、それぞれのテーマのもとで特色が良く出ており、第一内科の底力を感じさせられました。どの学会も、会長以下、事務局長、秘書、学会の準備委員など多くの医局員たちの努力が伝わってくる学会でした。

3. 「第3回心臓病患者家族のためのAED心肺蘇生法全体講習会」報告

日本武道館にて平成20年10月3日（金）午後2時より午後4時半まで、東京都CCU連絡協議会（会長 高山守正）の加盟施設62施設に通院されている突然死の危険度が高い患者様のご家族を対象に行いました。前回2回ともに大雨や台風の生憎の天気でしたが、今回は晴天に恵ま

れ、参加者395名、インストラクター230名、スタッフ30名の参加をえました。今回の特徴は、人工呼吸を導入せず、胸骨圧迫のみで心肺蘇生を行い、引き継ぎ AED を使用するというものです。一人一人にトレーニングキットを配り、この心肺蘇生法を家で繰り返し実習していただく予定です。ボランティアで行っている講習会ではありますが、会場費その他の資金の調達には大変苦労しました。そんな中、げんてん会から寄付していただいた30万円は本当に貴重でした。心より感謝申し上げます。

4. “第一内科”忘年会

平成20年12月13日（土）、東京ドームホテルで第一内科忘年会が行われました。今年は、訃報の多い年でした。そのため御逝去された先輩方に対する黙祷で始まりました。水野先生、山崎会長のご挨拶のあと、加藤貴雄先生による乾杯の予定でしたが、乾杯の発声は現役最後の忘年会を迎えた岸田浩教授にリレーされました。岸田先生からは、「communication を大切に」という言葉をいただき、乾杯となりました。

歓談のあと、宗像一雄教授、草間芳樹准教授、清野精彦教授より各付属病院の近況報告があり、卒後50周年（S33年卒）の関谷政雄先生にスピーチをお願いしました。その後は、例年どおり歓談の中、bingoゲームなどを行い、最後は勝田悌実教授の一本締めで閉会となりました。

5. げんてん会会費納入のお願い

げんてん会の年会費は平成20年度より、10000円に値上げされております。何卒、よろしくお願い申し上げます。

6. 次回げんてん会総会

次回のげんてん会総会は、平成21年5月16日（土曜日）を予定しております。来年度も優秀な医局員を迎えることができそうです。新入医局員の歓迎会を兼ねて行いたいと思いますので、皆様ご臨席下さいますようお願い申し上げます。

（医局長）

付属病院

外来(3) 八島、塚田、福本、

(安武ひ、柏木、馬場、福間祐、高木郁、西垣、横島、田辺浩、
宮内瑞、土田、加藤祐、加藤和、真鍋、徳泉、時田美、)A6(12+2) 小原、宮内、青木、田中古、上野、牛島、岡崎、藤本、
林寛、森澤、佐藤太、秋谷、本間英、関川(1年目)、C6(13+1) 浅井、清水治、大野忠、愛須、高橋保、館岡、東、
山本哲、小橋、鶴見、岡崎大、小宮山、原、乾

E5(12+1) 高野仁、藤田進、高木元、丸山、山本英、太良

宮元、村田、西城、川中、柳田、松本綾、藤巻(1年目)

CCU(8) 山本剛、岩崎、平澤、加藤浩、村井、吉田明、時田、中田、

生理機能 本間、

武藏小杉(18)内田、川口、高橋直、山口、網谷、阿部、石川昌、酒井行、原田、
岩本、本郷、大野大、板倉、金子、藤堂、手塚、木下、春原、

健康管理科 山中、緒方、

千葉北総(11)大場、大野則、清宮、高野雅、稻見、徳山、淀川、田近、
村上、白壁(4-9月)、山本真、

CCU(5) 横山真、品田、鈴木雄、小林宣、菊池、

多摩永山(14)小谷、松本、上村、佐藤越、堀江、福島、吉川、
宗像亮、細川、神谷、青木亜、渋井、岡田、中込、

北村山 金村、佐伯、富田、稻見徹、

駒込 説田、荒尾、

神栖 笠井、長野、鈴木浩、花岡、

大倉山 長江、後藤、

博慈会 小川剛、田中邦、加藤活、木股、、

東京リハビリ石川貴

静岡医療セ 田邊潤、椎葉、小鹿野、佐々木、宮地、北村、

鶴見歯科 山下、

同愛(糖尿病) 櫛方、小原啓、大塚、

同愛(循環器) 星野、中村、小杉

久我山 高山英、

留学(7) 佐野、遠藤&育、坪、林、高橋啓、森田、

休職 小川紅、吉川真、鈴木小、篠田、

退職 川嶋、磯田、

2008年3月

付属病院

外来(3) 八島、塚田、福本、

(週1全日)宮武、西垣、加藤祐、(週1半日/隔週全日)柏木、馬場、宮内瑞、
加藤良、小野い、加藤和、(隔週半日)福間祐

A6(11+1) 小原、宮内、田中古、高野雅、牛島、岡崎、藤本、
林寛、森澤、佐藤太、秋谷、

鈴木健太郎(1年:小原)

C6(13+0) 浅井、清水治、大野忠、愛須、高橋啓、高橋保、宮元、
小橋、鶴見、中田、岡崎大、小宮山、原、

E5(10+1) 高野仁、藤田進、高木元、丸山、山本英、村田、
山本哲、川中、柳田、松本綾、

高山洋平(1年:高野)

千CCU(7+5) 山本剛、岩崎、加藤浩、時田、上野、村井、吉田明、
馬來(1年)、中野(2年)、本間(2年)、田上(2年)、植竹(2年)、

生理機能 本間、(伊藤恵、横島)

武藏小杉(15) 内田、川口、高橋直、山口、網谷、阿部、石川昌、酒井行、原田、
本郷、大野大、板倉、手塚、木下、春原、

健康管理科 山中、緒方、

千葉北総(10) 青木聰、佐藤越、大場、大野則、淀川、田近、
村上、太良、稻見徹、山本真、

北CCU(6) 横山真、品田、福島、小林宣、白壁、CCM(2008年1月~7月)

多摩永山(13) 佐野、小谷、松本、上村、平澤、堀江、吉川、宗像亮、細川、
神谷、渋井、中込、西城、

北村山 佐伯、佐々木、北村、岩本、

駒込 説田、荒尾、

神栖 笠井、長野、鈴木浩、花岡、

大倉山 後藤、

博慈会 小川剛、田中邦、小杉、菊池、

静岡医療セ 田邊潤、椎葉、小鹿野、宮地、富田、木股、

鶴見歯科 高木郁、山下、

同愛(糖尿病) 櫛方、小原啓、大塚、

同愛(循環器) 東、加藤活、中村、

久我山 高山英、

八丈島 岡田、

留学(7) 遠藤&育、坪、林、森田、青木亜、稻見茂

休職 小川紅、吉川真、鈴木小、篠田、田辺浩

退職 金村、

異動 研修医 大学院生

CC

年月日	症例	病歴番号	演者	司会	診断
平成19年					
4月24日	58歳、女性	368647	佐藤 太亮	田中古登子	Cushing syndrome with steroid osteoporosis and steroid myopathy CHF due to HHD with mild AR and Cushing syndrome
6月26日	24歳、女性	370541	鶴見 昌史	浅井 邦也	Agenesis of dorsal pancreas with diabetic ketosis Multiple renal cyst. Autism. Bicornate Uterus
9月25日	34歳、女性	374568	秋谷 麻衣	青木 聰	2 nd attack AMI (inf) associated with sustained VT OMI(inf)
11月27日	73歳、男性	380575	成田 宏介	高野 仁司	congestive heart failure due to cardiac involvement of secondary hemochromatosis suspected. Diabetes mellitus type2
平成20年					
1月22日	32歳、男性	383377	柳田 隆行	藤田 進彦	臨床診断: 臨床症状(肝機能障害、筋力低下、低血糖)から疑う 酵素分析: 組織の酸素活性の欠損を証明: 肝、腎、赤血球、筋肉など
2月26日	71歳、男性	382421	林 寛子	小原 俊彦	HCC stage IVB; PVTT, invasion for RHV~IVC, multiple lung bone metastasis. LC typeC
3月25日	歳、女性		菊池 友太	高木 元	Alcoholic LC(Child-Pugh B) Wernicke's encephalopathy Korsakoff syndrome. Anemia. Alcoholic neuropathy

CPC

年月日	症例	病歴番号	担当	司会	臨床診断 病理診断
平成19年					
6月11日	54歳、女性		小原 俊彦	白杵 二郎	Chronic Respiratory Failure to Secondary Pulmonary Hypertension 肺高血圧症 + 慢性および亜急性間質性肺炎 + 陳旧性肺胞出血
10月1日	30代、女性		塩井由美子 (血液内科)	中村 恭子 (血液内科)	急性骨髓性白血病 白血病中枢神経浸潤, 急性活動性EBウイルス感染症 Acute myeloid leukemia with extramedullary infiltration

CC：毎月1回 火曜日 午前8時～

場所：プレハブ棟中会議室

CPC：年4回 日時・場所については医局までお問合せください。

学 位 取 得 者

氏名	取得年月日 (学位記番号)	論文名	雑誌名,巻,頁,発行年
館岡 克彦	平成19年4月18日 甲1211号	A new alcohol provocation head up tilt protocol in the patients with alcohol-related syncope	EUROPACE 9(4):220-224,2007
上野 亮	平成19年6月20日 甲1214号	A Prospective Study on the Risk-stratification for Patients with Non-sustained Ventricular Tachycardia Using a Novel Alogorithm	Circ J 71(7):1107-1114,2007
神谷 仁孝	平成19年11月19日 乙1858号	Clinical Outcome and Quality of Life of Octogenarian Patients Following Percutaneous Coronary Intervention or Surgical Coronary Revascularization	Circ J 71(6):847-854,2007
太良 修平	平成19年12月14日 乙1859号	Transduction of the anti-apoptotic PTD-FNK protein improves the efficiency of transplantation of bone marrow mononuclear cells	J Mol Cell Cardiol 42(3):489-497,2007
高橋 直人	平成20年2月18日 乙1873号	Assessment of Left Ventricular Dyssynchrony during Development of Heart Failure by a Novel Program Using ECG-gated Myocardial Perfusion SPECT	Circ J 72(3):370-377,2008

著書

著者名、所属名	論文名、章名	図書名(編者名)	出版社名	開始頁	終了頁	発行年	月
分担							
浅井邦也	血管収縮作動性物質	血管内皮細胞をめぐる疾患(島田和幸編)	真興交易(株)医書出	43	55	2007	4
新博次	6.Brugada症候群の最新知見	別冊・医学のあゆみ 不整脈研究の最新動向(堀江稔編)	医薬出版	38	42	2007	4
高山守正	病院到着前治療(院外心停止/救急医療システムとプレホスピタルケア)	心筋梗塞症(吉野秀朗編)	メジカルビュー社	83	87	2007	5
清野精彦	血液生化学的心筋傷害マーカー	新目でみる循環器病シリーズ 10: 心筋梗塞症(吉野秀朗編)	メジカルビュー	67	77	2007	5
高橋直人, 宗像一雄	救急現場における心電図 その3 Emergency 波形の異常			43	52	2007	6
清野精彦	心不全管理に心筋傷害マーク・炎症マーカーは役に立つのか?	EBM循環器疾患の治療(三田村秀雄、他編)	中外医学社	253	258	2007	7
山本剛, 安武正弘	初期診断と最終診断	循環器7 急性冠症候群(高野照夫編)	最新医学社	31	37	2007	7
清宮康嗣, 水野杏一	血管内超音波と血管内視鏡	循環器7 急性冠症候群(高野照夫編)	最新医学社	208	215	2007	7
加藤貴雄	洞不全症候群	循環器症候群第2版	日本臨牀社	467	471	2007	8
加藤貴雄	潜在性WPW症候群	循環器症候群第2版	日本臨牀社	244	248	2007	8
岸田浩	心・血管外傷	内科学(杉本恒明、他編)	朝倉書店	605	607	2007	9
清野精彦	生化学マーカーで診断する	新・心臓病診断プラクティス: 心筋症を讀む・診る・治す 10 (磯部光章、他編)	文光堂	81	86	2007	9
宮内靖史, 加藤貴雄	QTの測り方, 計測上の問題点, 自動解析の進歩	QT間隔の診かた・考え方(有田真編)	医学書院	98	110	2007	10
加藤貴雄	心電図	呼吸器専門医テキスト(工藤翔二、他編)	南江堂	119	122	2007	11
新博次	9.心房細動の治療—Pill-in-the-pocket	不整脈2007(井上博編)	メディカルレビュー社	110	116	2007	11
清野精彦	これでわかる心電図の読み方と心臓病	これでわかる心電図の読み方と心臓病	南江堂	1	134	2007	12
清野精彦, 岡松健太郎	狭心症と心筋梗塞の境界線: バイオマーカー	新目でみる循環器病シリーズ: 狹心症(鶴見由起夫、他編)	メジカルビュー	33	34	2007	
加藤浩司	頻脈の緊急処置指針	救急・集中治療ガイドライン—最新の診療指針		691	693	2007	
清野精彦, 雪吹周生	血管拡張薬	治療薬ハンドブック: 薬剤選択 じほうと処方のポイント 2008(高久史磨、他編)		351	354	2008	1
清野精彦	6. 循環器疾患: 不安定狭心症, 非ST上昇型心筋梗塞	2008 今日の治療指針: 私はこう治療している(山口徹、他編)	医学書院	275	280	2008	1
村澤恒男, 酒井行直	浮腫 心疾患を合併した場合	腎疾患・透析最新の治療(飯野靖彦、他編)	南江堂	62	66	2008	1
加藤貴雄	心室期外収縮	循環器疾患最新の治療2008—2009(堀正二、他編)	南江堂	304	307	2008	2
加藤貴雄	心房細動の緊急治療指針	救急・集中治療ガイドライン 2008-09(岡元和文編)	総合医学社	191	193	2008	2
清野精彦	急性冠症候群と心腎相關	心腎相関の病態理解と診断(磯部光章、他編)	羊土社	78	87	2008	2
山本剛, 田中啓治	急性冠症候群の治療指針(救急・集中治療ガイドライン—最新の治療指針—2008~'09)	救急・集中治療	総合医学社	205	207	2008	2

著 書

著者名、所属名	論文名、章名	図書名（編者名）	出版社名	開始 頁	終了 頁	発行 年	月
山本 剛, 水野 杏一	急性心筋梗塞におけるβ遮断薬, ACE阻害薬, ARB療法の大規模試験からのEBM（循環器内科治療ガイドライン）	最新の診療指針	総合医学社	55	57	2008	3
宮本正章, 高木 元, 水野杏一	マゴットセラピー	透析患者の末梢動脈疾患とフットケア～早期発見と治療戦略～（小林修三編）	医薬ジャーナル	115	125	2008	3
高木 元, 宮本 正章, 水野杏一	幹細胞移植	透析患者の末梢動脈疾患とフットケア～早期発見と治療戦略～（小林修三編）	医薬ジャーナル	108	113	2008	3
清野精彦	急性心不全期の治療	心腎関連を識る（松崎益徳、他編）	文光堂	141	149	2008	3
加藤貴雄	洞不全症候群	循環器内科治療ガイドライン 最新の診療指針（田邊晃久編）	総合医学社	152	156	2008	3
清野精彦	心血管イベントとバイオマー	循環器疾患最新の治療2008～2009（堀 正二、他編）	南江堂	38	42	2008	3
山本 剛, 田中 啓治	肺血栓塞栓症	循環器疾患最新の治療2008～2009（堀 正二、他編）	南光堂	357	361	2008	3
新 博次	VIII.不整脈 9.早期興奮症候群 (WPW症候群)	循環器疾患最新の治療2008～2009（堀 正二、他編）	南江堂	327	330	2008	3
横山真也, 畑 典武, 清野精彦	慢性心不全急性増悪症例における右心不全と左心不全の鑑別点と、それぞれの治療のストラテ	専門医のための薬物療法 Q&A：循環器（富野康日己、他編）	中外医学社	228	230	2008	4
横山真也, 畑 典武, 清野精彦	心原性ショックが疑われる症例をみたとき、考えるべき鑑別診断および診断に必要な検査は？	専門医のための薬物療法 Q&A：循環器（富野康日己、他編）	中外医学社	231	232	2008	4
田中啓治	不整脈, 肺水腫	救急治療ハンドブック（黒川 頭編）		159	168		
<hr/>							
編著							
長澤紘一, 村田 正弘, 吉岡ゆうこ, 塚田弥生		カルテの読み方と基礎知識 第4 版--Patient profile理解のため				2007	5
<hr/>							
分担追加分							
清野精彦, 小川 晃生, 安武正弘, 高野照夫	虚血性心疾患 : b.中更年期	性差からみた女性の循環器疾患 診療（天野恵子、他編）	メジカルビュー社	64	82	2006	1
加藤貴雄	Upstream療法におけるアンジオテンシンII受容体拮抗薬 (ARB) の有効性の根拠をみる	抗不整脈薬のすべて（小川聰、他編）	先端医学社	36	40	2007	3
清野精彦	救急部における管理：初期診療における迅速診断の必要性	ECC:超急性期をのりこえる（野々木宏編）	中山書店	83	93	2007	3
<hr/>							
報告書							
水野杏一, 雪吹 周生	急性冠症候群における冠挙縮の位置づけ	冠挙縮性狭心症の診断と治療に関するガイドライン	日本循環器学会	4	5	2007	9
水野杏一, 雪吹 周生	冠血管内視鏡	冠挙縮性狭心症の診断と治療に関するガイドライン	日本循環器学会	39	40	2007	9

論 文

英文原著

著者、所属	論文名	雑誌名	巻、号	開始頁	最終頁	発行年月
Yodogawa K, Seino Y, Ohara T, Takayama H, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T	Non-Invasive Detection of Latent Cardiac Conduction Abnormalities in Patients with Pulmonary Sarcoidosis-Application of Signal Averaged Electrocardiogram-	Circ J	71(4)	540	545	2007 4
Tsuchida T, Fukuma N, Oikawa K, Kato Y, Mabuchi K, Takano T	Relationship between plasma norepinephrine at peak exercise and 123I-MIBG imaging of the heart and lower limbs in heart failure	J Nippon Med School	74(2)	114	122	2007 4
Manabe H, Fukuma N, Tsuchida T, Kato y, Mabuchi K, Takano T	Analysis of alteration of blood pressure response to exercise through baroreflex	J Nippon Med School	74(2)	123	130	2007 4
Imaizumi T, Nejima J, Kiuchi K, Takeda S, Seino Y, Tanaka K, Takano T	Dynamics and source of endotherin-1 and interleukin-6 following coronary reperfusion in patients with acute myocardial infarction	J Nippon Med School	74(2)	131	147	2007 4
Takano M, Inami S, Yang IK1), Yamamoto M, Murakami D, Seimiya K, Ohba T, Mizuno K (1)Harvard University Cardiology Division)	Evaluation by Optical Coherence Tomography of Neointimal Coverage of Sirolimus-Eluting Stent Three Months After Implantation	Am J Cardiol 99(8)		1033	1038	2007 4
Arakawa M1), Yasutake M, Miyamoto M, Takano T, et al (1)Dept of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences)	Transduction of Anti-cell Death Protein FNK Protects Isolated Rat Hearts from Myocardial Infarction Induced by Ischemia/Reperfusion	Life Sci	80(22)	2076	2084	2007 5
Miyatake Y, Isoda M, Nejima J	Effects of Smoking Cessation Intervention Education in Dental Students	Tsurumi Univ Dent J	33(2)	47	54	2007 5
Yamamoto T, Yodogawa K, Wakita S1), Ogano M1), Tokita M1), Miyagi Y2), Sato N, Nitta T2), Tanaka K, Takano T1) (1)First Department of Internal Medicine, (2)Second Department of Surgery)	Recurrent prosthetic valve endocarditis caused by <i>Staphylococcus aureus</i> colonizing skin lesions in severe atopic dermatitis	Intern Med	46(9)	571	573	2007 5
Kamiya M, Takayama M, Takano H, Murai K, Hinokiyama K1), Ochi M1), Takano T (1)Second Dept of Surgery)	Clinical Outcome and Quality of Life of Octogenarian Patients Following Percutaneous Coronary Intervention or Surgical Coronary Revascularization	Circ J	71(6)	847	854	2007 6
Muramatsu H1), Takano T, Koike K1) (1)Dept of Internal Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital, Yamanashi)	Hemiplegia Recovers After Cranioplasty in Stroke Patients in the Chronic Stage	Int J Rehabil Res	30(2)	103	109	2007 6
Kato T, Ogawa S1), Yamaguchi I2), et al (1)Dept of Cardiovascular Medicine, Keio Univ. School of Medicine, 2)Dept of Cardiovascular Medicine, Univ.of Tsukuba School of Medicine)	Efficacy and Safety of Intravenous Amiodarone Infusion in Japanese Patients with Hemodynamically Compromised Ventricular Tachycardia or Ventricular Fibrillation	J Arrhythmia	23(2)	131	139	2007 7
Ueno A, Kobayashi Y, Yodogawa K, Miyauchi Y, Yajima T1), Nitta T1), Kato T, Takano T (1)Dept of Cardiovascular Surgery)	A Prospective Study on the Risk-Stratification for Patients with Non-Sustained Ventricular Tachycardia Using a Novel Algorithm	Circ J	71(7)	1107	1114	2007 7
Tateoka K, Iwasaki Y, Ono T, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T	A new Alcohol Provocation Head up Tilt Protocol in the Patients With Alcohol-Related Syncope	Europace	9(4)	220	224	2007 9

論 文

著者、所属	論文名	雑誌名	巻、号	開始頁	最終頁	発行年月
Yamashita T, Sekiguchi A, Kato T, Tsuneda T, Iwasaki Y, Sagara K, Iinuma H	Angiotensin type 1 receptor blockade prevents endocardial dysfunction of rapidly paced atria in rats.	J Renin Angiotensin Aldosterone Syst	8(3)	127	132	2007 9
Takano M, Jang IK1), Inami S, Yamamoto M, Murakami D, Okamatsu K, Seimiya K, Ohba T, Mizuno K (1)Cardiology Division, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School)	In Vivo Comparison of Optical Coherence Tomography and Angioscopy for the Evaluation of Coronary Plaque Characteristics	Am J Cardiol 101(4)		471	476	2007 9
Kurita A1), Takase B2), Okada K, Abe S3) (1)Sanai Hospital, 2)Division of Biomedical Engineering, National Defense Medical College Research Institute, 3)Kumegawa Hospital)	Music therapy in very elderly cerebral vascular disorders patients with dementia	防衛医科大学校雑誌	32(3)	143	152	2007 9
Ishibashi F1), Mizuno K, Kawamura A1), Singh PP1), Nesto RW1), Waxman S1) (1)Lahey Clinic Medical Center)	High Yellow Color Intensity by Angioscopy With Quantitative Colorimetry to Identify High-Risk Features in Culprit Lesions of Patients With Acute Coronary Syndromes	Am J Cardiol 100(8)		1207	1211	2007 10
Morita N, Tanaka K, Yodogawa K, Hayashi M, Akutsu K, Yamamoto T, Sato N, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T	Effect of nifekalant for acute conversion of atrial flutter: the possible termination mechanism of typical atrial flutter	Pacing Clin Electrophysiol	30(10)	1242	1253	2007 10
Hosokawa Y, Morita N, Ogano M, Yokoyama H	Brugada Syndrome Subject to Depolarization Abnormality of the Conduction System	Ann Noninvasive Electrocardiol	12(4)	383	387	2007 10
Kitakaze M1), Asakura M1), J-Wind Investigator-Mizuno K, et al. (1)Cardiovascular Division of Medicine, National Cardiovascular Center)	Human atrial natriuretic peptide and nicorandil as adjuncts to reperfusion treatment for acute myocardial infarction (J-WIND): two randomised trials	The Lancet	370	1483	1493	2007 10
Yamamoto A1), Takahashi N, Munakata K, et al (1)Dept of Radiology Tama-nagayama Hospital)	Relationships Among Regional Diastolic Impairment, Elongation of Global Time to Peak Filling Rate, and Global Diastolic Function Using ECG-Gated Myocardial Perfusion SPECT in Heart Failure	Ann Nucl Med	21(8)	419	427	2007 10
Otsuka T1), Kawada T1), Katsumata M1), Ibuki C, Kusama Y (1)Environmental Medicine)	High-sensitivity C-reactive protein associated with the risk of coronary heart disease as estimated by the Framingham Risk Score in middle-aged Japanese men	Int J Cardiol	129(2)	245	250	2007 11
Maruyama M, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Ino T, Atarashi H, Katoh T, Mizuno K	The VA Relationship After Differential Atrial Overdrive Pacing: A Novel Tool for the Diagnosis of Atrial Tachycardia in the Electrophysiologic Laboratory	J Cardiovasc Electrophysiol	18(11)	1127	1133	2007 11
Seino Y, Imai H1), Nakamoto T2), et al (1)Dept of Economics, Musashi University, 2)Cardiopulmonary Section, Dokkyo Medical University Nikko Medical Center)	Clinical Efficacy and Cost-Benefit Analysis of Nocturnal Home Oxygen Therapy in Patients With Central Sleep Apnea Caused by Chronic Heart Failure	Cir J	71(11)	1738	1743	2007 11
Inami S, Takano M, Yamamoto M, Murakami D, Tajika K, Yodogawa K, Yokoyama S, Ohno N, Ohba T, Sano J, Ibuki C, Seino Y,	Tea Catechin consumption reduces circulating oxidized low-density lipoprotein	Int Heart J	48(6)	725	732	2007 11

論 文

著者、所属	論文名	雑誌名	巻、号	開始頁	最終頁	発行年月
Maruyama M, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Ino T, Atarashi H, Katoh T, Mizuno K	The VA relationship after differential atrial overdrive pacing : a novel tool for the diagnosis of atrial tachycardia in the electrophysiologic laboratory	J Cardiovasc Electrophysiol	18(11)	1127	1133	2007 11
Aimoto T1), Uchida E1), Matsushita A1), Tabata Y1), Takano T, Miyamoto M, Tajiri T1)(1Dept of Surgery)	Controlled release of basic fibroblast growth factor promotes healing of the pancreaticojejunal anastomosis: a novel approach toward zero pancreatic fistula	Surgery	142(5)	734	740	2007 11
Takano M, Yamamoto M, Xie Y, Murakami D, Inami S, Okamatsu K, Seimiya K, Ohba T, Seino Y, Mizuno K	Serial long-term evaluation of neointimal stent coverage and thrombus after sirolimus-eluting stent implantation by use of coronary angiography	Heart	93(12)	1533	1536	2007 12
Tsukada Y, Sanna MG1), Rosen H1), Gottlieb RA1) (1)Department of Molecular and Experimental Medicine, The Scripps Research	S1P1-Selective Agonist SEW2871 Exacerbates Reperfusion Arrhythmias	J Cardiovasc Pharmacol	50(6)	660	669	2007 12
Otsuka T1), Kawada T1), Katsumata M1), Ibuki C, Kusama Y (1)Environmental Medicine)	Independent determinants of second derivative of the finger photoplethysmogram among various cardiovascular risk factors in middle-aged men	Hyperten Res	30(12)	1211	1218	2007 12
Mizuno K, Nakaya N1), Ohashi Y1), Tajima N1), Kushiro T1), Teramoto T1), Uchiyama S1), Nakamura H1) (1)MEGA Study)	Usefulness of Pravastatin in Primary Prevention of Cardiovascular Events in Women Analysis of the Management of Elevated Cholesterol in the Primary Prevention Group of Adult Japanese(MEGA Study)	Circulation	117(4)	494	502	2008 1
Otsuka T1), Ibuki C, Suzuki T, Ishii K, Yoshida H, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Kishida H, Takano T, Mizuno K (1)Environmental Medicine)	Administration of the Rho-kinase Inhibitor, Fasdl, Following Nitroglycerin DisAdditionally Dilated the Site of Coronary Spasm in Patients With Vasospastic Angina.	Coron Artery	19(2)	105	110	2008 3
Takano M, Yamamoto M, Murakami D, Seimiya K, Ohba T, Seino Y, Mizuno K	Long-term follow-up evaluation after sirolimus-eluting stent implantation by optical coherence tomography: do uncovered struts persist?	J Am Col Cardiol	51(9)	968	969	2008 3
Inami S, Ishibashi F1), Waxman S1), Okamatsu K, Seimiya K, Takano M, Uemura R2), Sano J, Mizuno K (1)Lahey Clinic Medical Center)	Multiple Yellow Plaques Assessed by Angioscopy with Quantitative Colorimetry in Patients with Myocardial Infarction	Circ J	72(3)	399	403	2008 3
Takahashi N, Yamamoto A1), Tezuka S, Ishikawa M, Abe J, Amitani K, Yamaguchi T, Kawaguchi N, Uchida T, Iwahara S, Munakata K (1)Department of Radiology Tama-nagayama Hospital)	Assessment of Left Ventricular Dyssynchrony During Development of Heart Failure by a Novel Program Using ECG-Gated Myocardial Perfusion SPECT	Circ J	72(3)	370	377	2008 3
Hayashi M, Takatsuki S, Maison-Blanche P, et al.(Cardiology Department, Lariboisière Hospital)	Ventricular repolarization restitution properties in patients exhibiting type 1 Brugada electrocardiogram with and without inducible ventricular fibrillation	J Am Col Cardiol	51	1162	1168	2008 3
Takano M, Jang I1), Mizuno K (1)Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School)	Neointimal proliferation around malapposed struts of a sirolimus-eluting stent: optical coherence tomography findings	Eur Heart J	27(15)	1763	1763	2006 8

原著追加分

Takano M, Jang I1), Mizuno K (1)Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School)	Neointimal proliferation around malapposed struts of a sirolimus-eluting stent: optical coherence tomography findings	Eur Heart J	27(15)	1763	1763	2006 8
---	---	-------------	--------	------	------	--------

論 文

著者、所属	論文名	雑誌名	巻、号	開始頁	最終頁	発行年月
Ishii K, Kodani E, Miyamoto S, Otsuka T, Hosoe M, Ogata K, Sato W, Matsumoto S, Tadera T, Ibuki C, Kusama Y, Atarashi H	Pacemaker contact dermatitis: The effective use of a polytetrafluoroethylene sheet	Pacing Clin Electrophysiol	29(11)	1299	1302	2006 11
Yamamoto A1), Takahashi N, Munakata K, et al (1)Department of Radiology Tama-nagayama Hospital)	Global and Regional Evaluation of Systolic and Diastolic Left Ventricular Temporal Parameters Using a Novel Program for ECG-Gated Myocardial Perfusion SPECT-Validation by Comparison with Gated Equilibrium Radionuclide Angiography and Speckle-Tracking Radial Strain from Echocardiography	Ann Nucl Med	21(2)	115	121	2007 2
Ishibashi F1), Yokoyama S, Miyahara K2), Dabreo A1), Weiss ER1), Iafrati M3), Takano M, Okamatsu K, Mizuno K, et al (1)S. Waxman Center for Translational Cardiovascular Research, Tufts New England Medical Center, 2)Institute of Archaeological Research Kyoto, 3)Dept of Vascular Surgery, Tufts New England Medical Center)	Quantitative colorimetry of atherosclerotic plaque using the L*a*b* color space during angioscopy for the detection of lipid cores underneath thin fibrous caps	Int J Cardiovasc Imaging	23	679	691	2007 2
Otsuka T1), Kawada T1), Katsumata M1), Ibuki C, Kusama Y (1)Environmental Medicine)	Independent determinants of second derivative of the finger photoplethysmogram among various cardiovascular risk factors in middle-aged men	Hypertens Res	30(12)	1211	1218	2007 3
和文原著						
竹田晋浩, 赤田信二1), 寺嶋克幸1), 鈴木規仁1), 青戸泰二1), 山本保博2), 田中啓治, 坂本篤裕1) (1)麻酔科, 2)救命センター)	非侵襲的陽圧換気によるメチシリソ耐性黄色ブドウ球菌検出頻度現象の効果	日集中医誌	14	91	92	2007
加藤貴雄, 田邊晃久1), 池田隆徳2), 他 (1)東海大学医学部循環器内科, 2)杏林大学医学部第二内科)	家庭用心電計の評価と適正使用に関するステートメント2007	心電図	27(6)	629	630	2007 6
加藤貴雄, 上野亮, 村田広茂	ドネペジルのQT間隔への影響: 心電図詳細計測による評価	心電図	27(6)	588	595	2007 6
新博次, 井上博1), 小川聰2) (1)富山大学医学部第二内科, 2)慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科)	抗不整脈薬併用療法研究会多施設共同調査最終報告	Prog Med	27(8)	1888	1890	2007 8
新博次	フレカイニドの発作性心房細動・粗動に対する長期投与試験	臨床医薬	23(9)	841	857	2007 9
宗像亮1), 小谷英太郎1), 大塚俊昭1,2), 石井健輔1), 時田祐吉1), 上村竜太1), 中込明裕1), 草間芳樹1), 新博次1), 水野杏一 (1)多摩永山病院, 2)衛生学公衆衛生学教室)	冠動脈ペアメタルステント留置術後の再狭窄に関する検討: 血管内超音波の有用性	J Cardiol Jpn Ed	1(1)	24	30	2008 1
症例報告						
Yoshikawa M, Yamamoto T, Shirakabe A, Ohno T, Tanaka K	Myocardial scintigraphy in a patient with transient mid-ventricular ballooning cardiomyopathy: case report	Int J Cardiol	119(1)	8	10	2007 6
Takano M, Yamamoto M, Mizuno K	A retrograde approach for the treatment of chronic total occlusion in a patient with acute coronary syndrome	Int J Cardiol	119	e22	e24	2007

論 文

著者、所属	論文名	雑誌名	巻、号	開始頁	最終頁	発行年月
Takano M, Murakami D, Mizuno K	Overlapping hybrid stenting with a sirolimus-eluting stent and a bare metal stent	Int J Cardiol	118	e8	e10	2007 1
Aoki A1), Tanabe J1), Inami T1), Ogano M1), Kobayashi N1), Hosokawa Y1), Yokoyama H1), Takano H, Mizuno K (1)Division of Cardiology, Shizuoka Medical	Late Multiple Stent Fractures Following Deployment of Sirolimus-Eluting Stents for Diffuse Right Coronary Artery Stenosis	Int Heart	48(6)	267	272	2007 11
中田 淳, 佐藤直樹	失神を主訴として来院した慢性透析患者	Medical Practice	24(5)	926	932	2007 5
岩崎雄樹, 宮内靖史, 小林義典, 林 明聰, 丸山光紀, 村田広茂, 岡崎怜子, 堀江 格, 谷口宏史, 上野 充, 平澤泰宏, 淀川顕司, 加藤貴雄, 高野照夫1), 新田 隆 1), その他1名 (1)第2外科	心内膜切除後の心外膜側残存心筋と心室瘤内残存心筋を含むマクロリエントリー性心筋梗塞後心室頻拍の1例	臨床心臓電気生理	30	267	274	2007 5
松本 真, 小谷英太郎, 時田祐吉, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次	偽性偽性副甲状腺機能低下症に発症した高度な冠動脈石灰化を伴う急性心筋梗塞の1例	心臓	39(10)	918	924	2007 10
岡崎怜子, 宮内靖史, 山本哲平, 村田広茂, 小杉宗範, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 丸山光紀, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫, 水野杏一	下壁および前胸部誘導でJ波を伴うST上昇と頻回の多形性心室頻拍を認めたBrugada症候群の1例	心臓	39(11)	992	996	2007 11
吉田明日香, 時田祐吉, 中田淳, 村井綱児, 加藤浩司, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 秋谷麻衣, 安武正弘, 高山守正, 水野杏一	冠動脈病変を合併したChurg-Strauss症候群の1例	冠疾患誌	13(4)	394		2007
川中秀和1), 高野仁司1), 森澤太一郎1), 中田 淳, 西城由之1), 鶴見昌史1), 小橋啓一1), 山本英世1), 山本 剛, 高木 元1), 藤田進彦1), 浅井邦也1), 佐藤直樹, 田中啓治, 水野杏一) (1)内科学(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)	急性冠症候群で入院した職業運転手の冠危険因子と冠動脈造影所見の特徴	冠疾患誌	13(4)	379		2007
鈴木 洋1), 下司映一, 片桐敬, 南條修二, 中野 元, 山崎純一, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野照夫, 芝田貴裕, 望月正武2) (1)昭和大学, 2)東京慈恵医科大学)	急性心筋梗塞後の左室機能障害に対するバルサルタンの効果: アンジオテンシン変換酵素阻害薬との多施設共同無作為抽出試験	J Cardiol	50(supp 1.1)	296		2007
上村竜太, 青木亜佐子, 渋井俊之, 細川雄亮, 時田祐吉, 宗像亮, 福島正人, 堀江 格, 小谷英太郎, 中込明裕, 草間芳樹, 新博次	肺動脈血栓栓症を合併したKlinefelter症候群の1例	心臓	40(2)	132	137	2008 2
山本良也, 市丸 愛, 岡本麻美, 中川誉之, 鈴木大悟, 中田 淳, 加藤浩司, 田中啓治, 竹下俊行 (1)産婦人科学)	動脈管開存を有し, 分娩後に大動脈解離を来たした1例	日医大医会誌	4(1)	45	49	2008 2
横塚 基1), 細萱順一1), 和田奈央, 山本 剛, 本郷 順, 竹田晋浩, 田中啓治, 坂本篤裕1) (1)麻酔科学)	集中治療室におけるインスリン投与プロトコールの効果と安全性の検討	日集中医誌	15(Supp 1)	239		2008
山本 剛, 村井綱児, 時田祐吉, 上田 充, 加藤浩司, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 水野杏一 1), 田島廣之2) (1)内科学(循環器・肝臓・老年・総合病態部門), 2)放射線医学)	高リスク急性肺塞栓症への最近の治療成績: モンテプラーゼおよび一時型下大静脈フィルター導入後の検討	日内誌	97	142		2008

論 文

著者、所属	論文名	雑誌名	巻、号	開始頁	最終頁	発行年月
加藤貴雄, 田邊晃久1), 池田隆徳 2), 石島正之3), 他 (1)東海大学, 2)杏林大学, 3)武蔵工業大学)	Statement for the Optimal use of Home Electrocardiograph 2007	J Arrhythmia	24(1)	1	2	2008 1
総説						
Takano M, Mizuno K	Angioscopic Fingings after Drug-eluting Stent Implantation	Herz	32(4)	281	286	2007 6
岩崎雄樹, 田中啓治	肥満とQT延長	日集中医誌	14(2)	135	136	2007 4
高野照夫	ICUにおける緊急Interventional Radiology	ICUとCCU	31(4)	249	249	2007 4
高野仁司, 高山守正	難治性閉塞性肥大型心筋症に対する 経皮的心室中隔焼灼術	ICUとCCU	31(4)	281	286	2007 4
新 博次	大規模臨床試験からみた不整脈におけるRAS抑制薬	Angiotensin Research	4(2)	89	93	2007 4
山本 剛, 高野照夫1)	心筋梗塞 (DATAで読み解く内科疾患)	総合臨床	56	843	851	2007 4
加藤貴雄	薬物療法の最近の話題 : アミオダロジン静注薬の位置づけと使い方	循環器科	61(5)	419	423	2007 5
小林義典, 新 博次1)	非薬物療法の最近の話題 : 抗頻拍デバイス-最近の進歩	循環器科	61(5)	430	435	2007 5
岡崎怜子, 加藤貴雄	心室期外収縮	Pharma Medica	25(5)	29	34	2007 5
塚田弥生, 加藤祐子, 清野精彦1)	心不全の家庭管理 (心不全--最新の基礎・臨床研究の進歩(下)(管理・看護))	日本臨床	915	323	328	2007 5
中田 淳, 高野照夫	経皮的心肺補助法 (PCPS) ・大動脈バルーンパンピング (IABP)	別冊日本臨床	65(suppl)	200	210	2007 5
塚田弥生, 加藤祐子, 清野精彦	実地医家の治療の実際 - 心不全の家庭管理指導のポイント	Medical Practice	24(5)	901	906	2007 5
塚田弥生, 加藤祐子, 清野精彦	心不全の家庭管理	日本臨床	65(5)	323	328	2007 5
清野精彦	各種心筋マーカーにより評価する	Medical Practice	24(5)	833	835	2007 5
佐藤直樹	硝酸薬	循環器	62(5)	497	502	2007 5
岸田 浩	日本人におけるワルファリンの抗凝固効果について : 序論	循環制御	28(2)	108	108	2007 6
小林義典	ペーシング治療の適応と施設基準	Heart View	11(5)	60	67	2007 6
田近研一郎, 水野杏一	血管内視鏡による診断:不安定プラークの特徴	医学のあゆみ	221(13)			2007 6
山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野仁司, 高山守正, 高野照夫, 他	モンテプラーゼによる血栓溶解療法 一当院における初期成績-	Ther Res	28(6)	1003	1004	2007 6
山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野仁司, 高山守正, 高野照夫, 他	広範性および亜広範性の急性肺塞栓 症に対する一時型下大静脈フィルターの有効性	Ther Res	28(6)	1149	1151	2007 6
加藤浩司, 田中啓治	(見逃すと危ない。救急現場における 心電図)何が違うの? モニター心電図 CY CARE と12誘導心電図	EMERGEN CY CARE	20(5)	573	578	2007 6
佐藤直樹	(見逃すと危ない! 救急現場における 心電図)理解しておきたい分かり にくい心電図	EMERGEN CY CARE	20(6)	926	932	2007 6
宮内靖史	危険性の高い頻脈性不整脈とは	臨床看護	33(8)	1132	1137	2007 7
村田広茂, 加藤貴雄	心電図, 負荷心電図, 加算平均心電 図	臨床検査	51(7)	697	702	2007 7

論 文

著者、所属	論文名	雑誌名	巻、号	開始頁	最終頁	発行年月
牛島明子, 福間長知	冠危険因子	別冊 心臓 リハビリ テーション	149	156	2007	7
岡松健太郎, 水野杏一	血管内視鏡により冠動脈病変をみる	Vascular Medicine	3(3)	38(234)	44(240)	2007 7
新 博次	心房細動のbest strategy イドラインの実地診療への応用:リズムorレートコントロールなど	Heart View	11(7)	751	755	2007 7
山本 剛	静脈血栓塞栓症	検査と技術	35(7)	657	661	2007 7
本郷 卓, 田中啓治	輸液管理とケアQ&Aこんなとき、どうしたらよいの?成人疾病編 慢性ケア 心不全患者の輸液管理とケアはどうしたらよいの?(Q&A)	nursing	17	200	201	2007 7
平澤泰宏, 山本 剛, 田中啓治	深部静脈血栓症・肺血栓の治療 血栓溶解療法	血液フロンティア	17(8)	1195	1202	2007 7
小林義典	不整脈	別冊日本臨床		216	220	2007 8
宮本正章, 高木 元, 太良修平, 安武正弘, 高野仁司, 高木都代, 大坪春美1), 水野博司2), 川中秀和, 水野杏一(1)再生医療科, 2)形成外科・美容外科)	マゴットセラピー;そのメリット, ケアの実際	nursing	27(9)	78	85	2007 8
雪吹周生	冠動脈の観察とその評価(IVUS)	救急・集中治療	19(7)	945	951	2007 8
山本真功, 清野精彦	筋原線維マーカー	ICUとCCU	31(8)	571	575	2007 8
佐藤直樹	(循環器症候群 そのほかの循環器疾患を含めて) 心不全 急性心不全	日本臨床 別冊循環器症候群I		153	158	2007 8
小谷英太郎, 西端こずえ, 細川雄亮, 岡田 薫, 新 博次	Warfarinとaspirinの併用:院内薬剤疫学的調査にみる特徴	Prog Med	27	1900	1903	2007 8
村井綱児, 佐藤直樹, 山本 剛, 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 加藤浩司, 時田祐吉, 神谷仁孝, 吉田明日香, 水野杏一1), 田中啓治	急性心不全患者における入院時尿酸値測定の意義	J Cardiol	50	526	526	2007 8
中込明裕1), 岸田 浩	急性冠症候群	別冊 日本臨床	5	97	104	2007 9
加藤貴雄	心筋梗塞と不整脈:a遮断薬およびB遮断薬は心筋梗塞における不整脈予防に有用か	心臓	39(9)	853	854	2007 9
宮内靖史	ペースメーカー植え込み術のおさえどころ	ハートナーシング	20(9)	24	30	2007 9
岸田 浩	安定狭心症, 労作狭心症, 安定労作狭心症	別冊日本臨床		12	15	2007 9
岸田 浩	食後狭心症	別冊日本臨床		156	159	2007 9
浅井邦也, 水野杏一	高脂血症治療と冠動脈疾患の発症予防	内科	100(3)	415	422	2007 9
雪吹周生	循環器症候群(第2版)II:その他の循環器疾患を含めて IV.冠動脈・静脈疾患 不安定狭心症	別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ	No.5	234	239	2007 9
佐藤直樹	(心エコーQ&A研修医からの質問278)観察・測定項目 救急現場で何をどのように評価するか 右心機能の指標とその評価	救急・集中治療	19	864	868	2007 9
渡部良夫1), 加藤貴雄(1)藤田保健衛生大学名誉教授)	房室結節をめぐって—渡部良夫先生に聞く	心臓	39(10)	925	936	2007 10
岸田 浩	QT延長症候群	日本臨床	65(8)	426	429	2007 10

論 文

著者、所属	論文名	雑誌名	巻、号	開始頁	最終頁	発行年月
塚田弥生, 岸田 浩	薬効群別副作用 循環器官用薬(医薬品副作用学--薬剤の安全使用アップ デート)(副作用概論)	別冊日本臨床	923	146	151	2007 10
角田美佐子, 田中啓治	(高齢者集中治療の最近の動向) 高齢者の循環管理 最近の動向	ICUとCCU	31(10)	739	747	2007 10
宮本正章	難治性創傷に対するマゴットセラピー	日医新報	4360	89	89	2007 11
高木 元, 水野杏一	血管内皮機能と血栓症の臨床的評価	The Circulation	11(4)	28	33	2007 11
大野忠明, 本間 博	負荷心エコー	medicina	44(12)	240	243	2007 11
山本 剛	肺血栓塞栓症:急性広範性肺血栓塞栓症に奇異性塞栓による心筋梗塞を合併、初期診断に苦慮した1例	救急医学	31(12)	1610	1611	2007 11
佐藤直樹	心不全急性期治療と臓器保護 Atrial Natriuretic Peptideの役割 急性心不全治療のピットホール	Atrial 冠疾患誌	13(4)	330	330	2007 11
加藤浩司, 安武正弘	心原性ショックを合併した急性心筋梗塞症の病態と治療	ICUとCCU	31(12)	1081	1087	2007 12
上野 亮, 加藤貴雄	頻脈	臨床精神医学	36	168	171	2007 12
岩崎雄樹, 山下武志	【難治性不整脈】 心房細動の薬物療法	循環器科	6	549	553	2007 12
波多野真弓, 田中啓治	(もう慌てない! シュチュエーション別心臓病患者さんの急変対応) シュチュエーション(2) ショック・意識障害	ハートナーシング	20(12)	1184	1188	2007 12
清野精彦	虚血心の心機能評価: 血液生化学バイオマーカー	冠疾患誌	13	115	120	2007
福島正人, 清野精彦	生化学診断(バイオマーカー)	治療学	41(8)	792	797	2007
加藤浩司	モニター心電図と緊急ケアQ&A 拍数がはやい どうしたらいいの?	心ナーシング	35(21)			2007
加藤浩司	IV 冠動脈・静脈疾患混合型狭心症 Mixed angina pectoris	別冊 日本臨床 新領域別症候群シリーズ	5	117	120	2007
加藤浩司, 安武正弘	特集 心原性ショックを合併した急性心筋梗塞の病態と治療	急性心筋梗塞に対する再生療法の現状	31(12)	1081	1087	2007
田島廣之1), 村田 智1), 中沢 賢1), 福永 肇1), 小野澤志郎1), 佐藤英尊, 山本英尊, 田中啓治 (1) 放射線医学)	【いまいちど動注をみなおす】 血栓溶解療法: 肺動脈	Radiology Frontier	10(2)	107	111	2007
本郷 卓, 田中啓治	輸液管理とケアQ&A:慢性心不全患者の輸液管理とケアは、どうしたらよいの?(Q&A)	ナーシング	17	200	201	2007
平澤泰宏, 山本 剛, 田中啓治	深部静脈血栓症・肺塞栓の治療: 血栓溶解療法	血液フロンティア	17(8)	1195	1202	2007
田島廣之1), 村田 智1), 中沢 賢1), 福永 肇1), 小野澤志郎1), 佐藤英尊1), 山本 剛, 田中啓治 (1) 放射線医学)	静脈血栓塞栓症のIVR 塞栓症	Interventional Radiology	22(2)	244	249	2007
田中啓治, 中田 淳, 宮武千晴	終末期医療 何をどこまでやるか われわれはこうしている】重症心不全の終末期医療	ICUとCCU	31(3)	188	190	2007

論 文

著者、所属	論文名	雑誌名	巻、号	開始頁	最終頁	発行年月
岸田 浩	心大血管リハビリテーション患者における病態把握とリスク評価法について	心臓リハビリテーション	13(1)	9	12	2008 1
水野杏一	DESにより血管はどう変化するか	J Jpn Coron Assoc	14(1)	34	35	2008 1
高野雅充、水野杏一	Drug-Eluting Stent留置後の冠動脈内視鏡所見	J Jpn Coron Assoc	14(1)	42	49	2008 1
加藤貴雄	日本人におけるアミオダロン静注薬の有効性・安全性：国内第Ⅱ相臨床試験成績を中心に	Prog Med	28	671	673	2008 1
田中啓治	急性心筋梗塞治療の現状と新たなる問題	日集中医誌	15	108	109	2008 1
佐藤直樹	重症急性心不全のICU管理 薬物療法 利尿薬・血管拡張薬	日集中医誌	150	138	138	2008 1
佐藤直樹	(呼吸困難からみた呼吸器・循環器疾患) 循環器疾患の呼吸困難の機序	呼吸と循環	56(1)	37	40	2008 1
太良修平1), 宮本正章、水野杏一	末梢動脈疾患(PAD)、膠原病による潰瘍・壞疽	看護技術	54(2)	13	16	2008 2
高木 元、宮本正章、水野杏一	糖尿病性潰瘍・壞疽	看護技術	54(2)	17	19	2008 2
水野杏一、安武正弘	進歩を続ける虚血性心疾患診療	総合臨床	57(2)	201	203	2008 2
小橋啓一、高野仁司、高野雅充、山本真功、水野杏一	Drug Eluting Stent(薬剤溶出性ストン卜) 後の血管内視鏡所見	日医大医会誌	4(1)	2	3	2008 2
加藤貴雄	QT延長症候群の心電図変化	心電図	28(2)	5	19	2008 2
加藤貴雄	薬剤誘発性QT延長症候群	呼吸と循環	56(4)	413	418	2008 2
清野精彦、福島正人	バイオマーカー	総合臨床	57(2)	248	254	2008 2
村上大介、清野精彦	急性冠症候群に対するバイオマー カー・ストラテジー	医学のあゆみ	224(5)	313	317	2008 2
佐藤直樹	(カラーで診る 臨床現場で役立つ 病棟必携! 心不全診療マニュアル) 急性心不全 急性心不全の初期対応 まず、最初に何をうべきか? 救急蘇生が必要な患者に対する初期対応 (蘇生処置をしながらの診断)	CIRCULATION UP-to- Date(1881-3585)	3	20	25	2008 2
宮本正章、高木 元、高野仁司、川中秀和、大坪春美、水野博司1), 田畠泰彦2), 水野杏一 (1)形成外科・美容外科、2)京都大学再生医科学研究所生体材料学分野)	皮膚組織の再生医療	MSD	34(3)	25	28	2008 3
八島正明、加藤貴雄	心房細動を発見する手がかりと次の一手	内科	101(3)	430	434	2008 3
平山悦之、新 博次1)	エビデンスに基づく循環器薬の使いかた・治療 不整脈治療薬の使いかた: ニフェカラントとアミオダロン 静注をどう使うか	Medical	25(3)	509	511	2008 3
佐藤直樹1), 清野精彦	心不全での旧姓腎不全の管理	Heart View	12(3)	81	85	2008 3
新 博次	変革する心房細動診療とその実践up-to-date 心房細動患者の救急: 心房細動発作への対応	内科	101(3)	497	500	2008 3
平山悦之1), 新 博次	エビデンスに基づく循環器薬の使いかた・治療 不整脈治療薬の使いかた: ニフェカラントとアミオダロン 静注をどう使うか	Medical Practice	25(3)	509	511	2008 3
新 博次	心房細動—最新情報とトータルマネージメント—: 序文	循環器科	63(3)	213	215	2008 3

論 文

著者、所属	論文名	雑誌名	巻、号	開始頁	最終頁	発行年月
岩崎雄樹	【変革する心房細動診療とその実践 up-to-date】心房細動を管理する 心拍数調節でよいと判断したら 誰に、何を、どのように使うのか?	内科	3	460	465	2008 3
佐藤直樹, 清野精彦1)	(腎障害と心疾患 心腎相関を織る) 治す 心不全での急性腎不全の 管理	Heart View	12(3)	305	309	2008 3
清野精彦	エビデンスに基づく循環器薬の使い方へのアプローチ その2: 実地医家 Practice に役立つ診療の手引き: 心不全治療 のガイドラインとMeその使いかた	Medical Practice	25	390	396	2008
田中啓治	急性心筋梗塞治療の現状と新たなる問題	日集中医誌	15(Suppl)	108	109	2008
総説追加分						
清野精彦	臨床研究の進歩ー診断学ー: マルチ・バイオマーカー・アプローチの構築	日医大誌	64(4)	691	699	2006 4
雪吹周生	経皮的ペーシング (TCP) 復権のとき?	日集中医集	14	17	19	2006 7
佐藤直樹, 高山守正, 田中啓治, 高野照夫	AEDの現状と問題点 自動体外式除細動器への過信は禁物?	日集中医誌	14	198	198	2007 1
佐藤直樹, 田中啓治	循環器集中治療の新たなる挑戦 循環器集中治療施設のデーターネットワーク構築の意義	日集中医誌	14	170	170	2007 1
佐藤直樹	原論文に対するEditorial Comment	心臓	39	44	44	2007 1
田中啓治, 中田淳, 宮武千晴	(終末期医療 何をどこまでやるか われわれはこうしている) 重症心不全の終末期医療	ICUとCCU	31(3)	183	190	2007 3
本郷卓, 田中啓治	(わかりやすい輸液管理Q&A研修医 救急・集中からの質問398) 成人疾病編 慢性心不全患者の輸液管理	集中	19(1-2)	145	150	2007 3
佐藤直樹	(心不全予防 その最前線を探る) 併発した他臓器障害を考慮した予防的介入を探る 呼吸不全	内科	99(3)	441	446	2007 3
その他追加分						
Takayama H, Yodogawa K, Katoh T, Takano T	Evaluation of Arrhythmogenic Substrate in Patients with Hypertrophic Cardiomyopathy Using Wavelet Transform Analysis	Circ J	70(1)	69	74	2006 1
Sasayama S, Izumi T, Seino Y, et al(CHF-HOT Study Group)	Effects of Nocuturnal Oxygen Therapy on Outcome Measures in Patients With Chronic Heart Failure and Cheyne-Stokes Respiration	Circ J	70(1)	1	7	2006 1
Otuka T1), Kawada T1), Katsumata M1), Ibuki C(1)多摩永山病院 循環器内科	Utility of second derivative of the finger photoplethysmogram for the estimation of the risk of coronary heart disease in the general population	Circ J	70(3)	304	310	2006 3
Otsuka T1), Ibuki C, Suzuki T1), Ishii K1), Kodani E1), Ataratshi H1), Kishida H2), Takano T2)(1)多摩永山病院 循環器内科, 2)付属病院 内科 学講座(循環器)	Vasodilatory effect of subsequent administration of fasudil, a rho-kinase inhibitor, surpasses that of nitroglycerin at the concentric coronary stenosis in patients with stable angina pectoris	Circ J	70(4)	402	408	2006 4
Seimiya K, Inami S, Takano M, Ohba T, Sakai S, Takano T, Mizuno K	Significance of Plaque Disruption Sites in Acute Coronary Syndrome	J Nipp Med Sch	73(3)	141	148	2006 6

論 文

著者、所属	論文名	雑誌名	巻、号	開始頁	最終頁	発行年月
Takano M, Ohba T, Inami S, Seimiya K, Sakai S, Mizuno K	Angioscopic differences in neointimal coverage and in persistence of thrombus between sirolimus-eluting stents and bare metal stents after a 6-month implantation	Eur Heart J	27(18)	2189	2195	2006 9
Seino Y1), The Japanese Coronary Artery Disease (2) (1) 日本医科大学千葉北総病院内科, 2) 東京大学循環器科	Current Status of the Background of Patients With Coronary Artery Disease in Japan - The Japanese Coronary Artery Disease Study (The JCAD Study)	Circ J	70(10)	1256	1262	2006 10
Takumi I1,2), Mizunari T1,2), Mishina M1), Fukuchi T1), Nomura R1), Umeoka K1), Kobayashi S1,2), Teramoto A2)(1)Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2)Department of Neurosurgery,	Dissecting posterior inferior cerebellar artery aneurysm presenting with subarachnoid hemorrhage right after anticoagulant and antiplatelet therapy against ischemic event	Surg Neurol	68(1)	103	107	2007 1
岡崎怜子, 宮内靖史, 小林義典, 丸山光紀, 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 阿部純子, 谷口宏史, 堀江 格, 篠岡克彦, 上野 亮, 小鹿野道雄, 篠田暁与, 小原俊彦, 平山悦之, その他4名	冠静脈洞内の通電により焼灼に成功した僧帽弁置換術およびradial手術後心房頻拍の1例	心臓	37(4)	115	122	2005 11
岡崎怜子, 菊池有史, 平山悦之, 丸山光紀, 高木 元, 高野仁司, 高山守正, 小林義典, 高野照夫, 他	コレステロール結晶塞栓症 (CCE) ステロイド療法とLDLアフェレーシス併用の効果	日医大医会誌	2(2)	115	120	2006 2
山口 嶽1), 相澤義房2), 井上 博3), 石川利之4), 大江 透5), 小川 聰6), 奥村 謙7), 笠貢 宏8), 加藤貴雄, 他 (1)筑波大学大学院人間総合科学研究科循環器内科, (2)新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器分野, (3)富山大学第二内科, (4)横浜市立大学附属病院循環器内科, (5)岡山大学大学院医歯学総合研究科循環器内科, (6)慶應義塾大学呼吸循環器内科, (7)弘前大学循環器・呼吸器・腎臓内科, (8)東京女子医科大学循環器内科学, (9)国立循環器病センター心臓血管内科)	臨床心臓電気生理検査に関するガイドライン	Circ J	70(IV)	1391	1476	2006 4
雪吹周生	上室性不整脈の緊急治療指針	救急・集中治療	18(5)	705	707	2006 6
高野照夫	(心室頻拍・心室細動) 特集にあたって	ICUとCCU	30(7)	459	459	2006 7
宗像 亮1), 雪吹周生 (1)多摩永山病院循環器内科)	不安定狭心症/急性心筋梗塞	救急・集中治療	18(7)	985	991	2006 8
清野精彦	診断技術の進歩 心筋梗塞生化学マーカー	臨床と研究 別冊	84(1)	27	33	2007 1
清野精彦	慢性心不全における中枢型睡眠時無呼吸について: Cheyne-Stokes Respiration	日医大医会誌	3(1)	34	38	2007 2
中村有希, 四倉寛子, 加藤雅彦, 中田 淳, 田中啓治, 他	多発性囊胞腎に合併した急性大動脈解離の3例	日医大医会誌	3(1)	25	29	2007 6

学 会 発 表

演 著 名	演 題 名	学 会 名	発表年 月
教育講演			
加藤貴雄	イベントレコーダーの現状と展望	第27回日本ホルター・ノンインペイシブ心電学研究会	2007 7
清野精彦	慢性心不全の外来および家庭管理	第13回日本心臓リハビリテーション学会	2007 7
会長講演			
岸田 浩	心血管リハビリテーション患者における病態把握のための評価法とその意義	第13回日本心臓リハビリテーション学会	2007 7
海外留学生講演			
上村竜太	Bone marrow stem cells prevent left ventricular remodeling of ischemic heart through paracrine signaling	第75回日本医科大学医学会総会	2007 9
シンポジウム			
Miyamoto M	Therapeutic Angiogenesis by Autologous Bone Marrow Cell Implantation for Refractory Peripheral Arterial Disease(PAD)	International Symposium on Blood Transfusion Management (Beijing, China)	2007 9
Mizuno K, Takano M1), Yamamoto M1), Inami S1), Murakami D1), Ohba T1) (1)Chiba Hokusoh Hospital)	Serial Long-term Evaluation of Neointimal Stent Coverage and Thrombus After Drug Eluting Stent Implantation by use of Coronary Angioscopy 「Late Thrombosis After DES:Angioscopic Evaluiation」	18th Great Wall International Congress of Cardiology ACC Symposium:Cardiology Update 2007 (Beijing, China)	2007 10
石井庸介1), 新田 隆1), 宮城泰雄1), 別所竜蔵1), 藤井正大1), 大森裕也1), 神戸 将1), 栗田二郎1), 落雅美1), 清水一雄1), 宮内靖史, 小林義典 (1)外科学講座 (内分泌・心臓血管外科学・呼吸器外科学部門)	外科用アブレーションデバイスはどのように使うべきか? : 術後心房頻拍の予防	第22回 日本不整脈学会	2007 5
高山守正, 愛須紀子, 加藤祐子, 小林義典, 手塚晶人1,4), 安藤岳史2,4), 中村 隆3,4), 五十嵐一成4), 水野杏一, 五十嵐博文5) (1)日本医科大学5年, 2)麻酔科学, 3)中村病院, 4)袖ヶ原ラブ, 5)太郎平小屋)	わが国の中高年登山者の医学的背景と安全登山継続への提言 (中高年の継続的登山習慣の意義)	2007年度日本登山医学会学術集会 第27回日本登山医学シンポジウム	2007 6
宮本正章, 高木 元, 太良修平, 安武正弘, 水野博司1), 田畠泰彦2), 水野杏一 (1)形成外科・美容外科, 2)京都大学再生医科学研究所生体材料学)	膠原病による難治性潰瘍に対する再生医療を応用した集学的治療－血管新生からマゴットセラピーまで－(膠原病治療の現状と評価)	第19回日本アレルギー学会	2007 6
宮本正章1), 安武正弘1), 高木 元1), 高野仁司1), 高木郁代1), 太良修平1), 水野博司1,2), 米田正始3), 田畠泰彦4), 水野杏一 (1)再生医療科, 2)形成外科・美容外科, 3)京都大学大院医学研究科心臓血管外科, 4)京都大学再生医科学研究所生体材料学)	血管再生医療を応用した難治性PADに対する総合的治療戦略－自己骨髄血管新生療法からマゴットセラピーまで－(心血管病の実地再生医療の現状と展望)	第11回心筋・血管新生療法研究会	2007 7
福間長知, 土田貴也, 加藤和代, 及川恵子, 林 寛子, 牛島明子, 真鍋宏美, 加藤祐子, 愛須紀子, 宮武佳子, 岸田 浩, 水野杏一	運動負荷試験から見た交感神経末端機能 (システム同定法としての負荷試験を考える)	第57回循環器負荷研究会	2007 8
安武正弘, 宮本正章, 太良修平, 加藤浩司, 高木 元, 高野仁司, 高野照夫, 水野杏一, 他	心臓核医学検査を用いた自家骨髄単細胞移植直後の血管新生の評価:虚血性心疾患を中心に (心臓核医学学会ジョンセミナー「再生医療と核医学検査」)	第55回日本心臓病学会	2007 9
高山守正	薬剤抵抗性HOCMへのPTSMA「非虚血性心疾患に対するカテーテル治療」	第55回日本心臓病学会	2007 9

学 会 発 表

演者名	演題名	学会名	発表年月
加藤貴雄	アミオダロン静注薬への期待（日本人におけるアミオダロン静注薬の有効性と安全性）	第12回アミオダロン研究会	2007 9
宮内靖史, 加藤貴雄, 岩崎雄樹, 林明聰, 水野杏一	QT時間詳細計測法の評価と問題点－用手法と自動測定法の比較「薬物誘発性QT延長と不整脈」	第24回日本心電学会学術集会	2007 10
山本真功, 高野雅充, 稲見茂信, 清野精彦, 水野杏一	DES留置後の新生内膜及びステンと血栓に関する経時的観察	第21回日本心臓血管内視鏡学会	2007 10
水野杏一, 中村治雄	高脂血症1次予防（我が国で実施された循環器用薬による大規模臨床試験成績の意義について）	第28回日本臨床薬理学会	2007 11
山本英世, 高野仁司, 高橋保裕, 高木元, 藤田進彦, 青木聰, 浅井邦也, 安武正弘, 高山守正, 水野杏一	待機的カテーテルインターベンション後の造影剤腎症発症ゼロへの挑戦	第21回日本冠疾患学会学術集会	2007 12
加藤貴雄	ディベート：急性心筋梗塞における重症不整脈の治療（アミオダロンVS二フェカラント）	第206回日本循環器学会関東甲信越地方会	2007 12
水野杏一	血管内視鏡による不安定plaquesの診断	第27回日本画像医学会	2008 2
Nakagomi A1), Kodani E1), Kusama Y1), Atarashi H1), Mizuno K (1)Tamanagayama Hospital)	Insulin Resistance and Subclinical Inflammation Play Significant Roles in the Pathogenesis and Instability of Vasospastic Angina(Coronary Spasm Revisited)	第72回日本循環器学会総会・学術集会	2008 3
Takano M1), Yamamoto M1), Seino Y1), Mizuno K (1)Chiba-Hokusoh Hospital)	In-Vivo Comparison of Optical Coherence Tomography and Angioscopy for the Evaluation of Coronary Plaque Characteristics (Freshscent Forefront in Atherosclerotic Plaque Imagings)	第72回日本循環器学会総会・学術集会	2008 3
Takano M, Mizuno K	In-Vivo Comparison of Coronary Plaque Characteristics Between Optical Coherence Tomography and Angioscopy (Progress in Coronary Artery Imaging by OCT)	第72回日本循環器学会総会・学術集会	2008 3
Mizuno K, Nakamura H1) (1)Mitsukoshi Health and Welfare Foundation, Tokyo)	How can we Apply MEGA Study to Daily Practice and Guideline? (How can we make the best use of Japanese Evidences for Future Guidelines)	第72回日本循環器学会総会・学術集会	2008 3
Tsukada Y, Mizuno K	What do Women Cardiologist Need for Continuity of Working? Results of Survey the Gender Difference in Work Lives of Cardiologists (The State and the Future for Women in Cardiology)	第72回日本循環器学会総会・学術集会	2008 3
Sato N1), Tanaka K1), Mizuno K (1)Intensive and Cardiac Care Unit)	Invasive vs. Non-Invasive Hemodynamic Classification in Acute Heart Failure(How to use Invasive Hemodynamics to Make Therapeutic Decision)	第72回日本循環器学会総会・学術集会	2008 3
加藤貴雄	医薬品開発におけるQT延長リスク回避の戦略（薬物性QT延長症候群の患者背景と評価）	第81回日本薬理学会総会	2008 3
Nakagomi A, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K	Insulin resistance and subclinical inflammation play significant roles in the pathogenesis and instability of vasospastic angina (Coronary spasm revisited)	第72回日本循環器学会学術集会	2008 3
パネルディスカッション 淀川顕司1), 大野則彦1), 森田典成, 小林義典, 高山英男, 小原俊彦, 加藤貴雄 (1)千葉北総病院)	Brugada症候群における心電図QRS内異常高周波成分の検出およびその臨床的意義	第22回 日本不整脈学会学術大会	2007 5

学 会 発 表

演者名	演題名	学会名	発表年月
小林義典, 上野 亮, 宮内靖史, 加藤 貴雄, 水野杏一, 新田 隆1), 矢島俊巳1) (1)心臓血管外科	心臓突然死1次予防におけるリスク層別化—心臓電気生理学的検査の役割—	第22回 日本不整脈学会 会学術大会	2007 5
岸田 浩	患者さんから学んだ総合カンファレンス	第64回日本循環器心身 医学会	2007 10
ワークショップ			
相本隆幸1), 内田英二1), 田尻 孝1), 中村慶春1), 松下 晃1), 勝野暁1), 張 一光1), 川本聖郎1), 宮本正章, 高野照夫, 他 (1)外科	生体修復材料を用いた肺消化管吻合術の基礎的研究: 再生医療による新しい吻合手技	第19回日本肝胆脾外科 学会・学術集会	2007 6
高山守正	Excellent QOL Restoration After Percutaneous Alcohol Septal Myocardial Ablation but still Requiring Careful Attention for Sudden Death in Medically Refractory HOCM	第16回日本心血管イン ターベンション学会学 術集会	2007 6
コントロバーシー			
Atarashi H	Na channel blocker challenge test is still controversial to predict the prognosis (Do patients with drug-induced Brugada type ECG have poor prognosis?)	第72回日本循環器学会 学術集会	2008 3
Special Session			
Kobayashi Y, Miyauchi Y, Katoh T, Mizuno K, Nitta T1) (1)Department of Cardiovascular Surgery)	Catheter Ablation of Atypical Atrial Flutter After Surgical Ablation for Atrial Fibrillation(For Asian Corner) 「Ablation of Atypical Atrial Flutter」	10th International Workshop on Cardiac Arrhythmias (Venice, Italy)	2007 10
セミナー			
宮本正章, 水野博司1), 多川政弘2), 米田正始3), 田畠泰彦4) (1)形成外科・美容外科, 2)日本獣医学生命科学大学獣医外科, 3)京都大学大学院医学研究科心臓血管外科, 4)京都大学再生医科学研究所生体材料学)	難治性末梢動脈閉塞性疾患(PAD)に対する総合的治療戦略—血管新生療法からマゴットセラピーまで—	第32回日本足の外科学 会学術集会	2007 6
時田祐吉	循環器救急現場におけるバイオメーター迅速測定キットの有用性	第35回日本救急医学会 総会・学術集会	2007 10
ケースワークセッション			
鶴見昌史, 高山守正, 小橋啓一, 西城由之, 川中秀和, 森澤太一郎, 太良修平, 山本英世, 高橋保裕, 高木 元, 藤田進彦, 高野仁司, 青木 聰, 浅井邦也, 安武正弘, 他	エコーガイド下に用手圧迫で比較的短時間に修復した複合型仮性動脈瘤の1例: 適切な圧迫の指標としてのモヤモヤエコー停止像の重要性	第30回日本心血管イン ターベンション学会関 東甲信越地方会	2007 5
セッション			
岩崎雄樹1), 中田 淳1), 吉田明日香1), 村井綱児1), 上野 亮1), 時田祐吉1), 加藤浩司1), 平澤泰宏1), 山本剛1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一 (1)集中治療室)	心室頻拍に対して静注用アミオダロンが有効であった4例	第207回日本循環器学会 会関東甲信越地方会	2008 2
フォーラム			
Miyauchi Y	Effects of Chronic Administration of Nicotine on Atrial Fibrosis and Vulnerability to AF in Normal and Hypertensive Rats	APAFS 2007	2007 10
一般発表			
Takahashi N, Yamamoto A1), Miwa Y, Kojima M, Ishikawa M, Kawaguchi N, Uchida T, Kazuo M (1)Department of Radiology Tama-nagayama Hospital)	The Assessment of Diastolic Dyssynchrony by Tc99m Sestamibi-Gated-SPECT using a Novel Program "cardioGRAF" in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction	8th International Conference of nuclear cardiology (Prague, Czech)	2007 4

学会発表

演者名	演題名	学会名	発表年月
Takahashi N, Yamamoto A1), Tezuka S, Hanaoka D, Ishikawa M, Kawaguchi N, Uchida T, Kazuo M (1)Department of Radiology Tama-nagayama Hospital)	The Relationship between Left Ventricular Systolic Dyssynchrony and Wall Stress in Patients with Hypertension and Preserved Ejection Fraction	8th International Conference of nuclear cardiology	2007 4
Okazaki R, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Maruyama M, Iwasaki Y, Hirasawa Y, Ueno A, Yamamoto T, Murata H, Kosugi M, Ohara T, Katoh T, Takano T, Mizuno K	Reproducibility in the Morphology of Polymorphic Ventricular Tachycardia in Brugada Syndrome with J Wave and ST-Segment Elevation in the Inferior Leads	Heart Rhythm 2007 (Denver, USA)	2007 5
Iwasaki Y, Miyauchi Y, Hirasawa Y, Yodogawa K, Katoh K, Yamamoto T, Sato N, Tanaka K, Kobayashi Y, Katoh T, Takano	Characteristics of Premature Ventricular Contractions Initiating Ventricular Tachyarrhythmia in Patients with Ischemic Heart Disease as Revealed by 12-Lead ECG Monitoring	Heart Rhythm 2007 (Denver, USA)	2007 5
Kurita A1), Takase B2), Okada K, Kinoshita M2), Kusama Y, Atarashi H	Music enhanced parasympathetic activities, decreased heart failure events and plasma interleukin-10 levels in elderly patients with cerebral infarction	12th Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (Athens, Greece)	2007 6
Takayama M, Kitamura M, Kawashima S, Takagi G, Takano H, Aoki S, Asai K, Fujimoto H, Ohno T, Yasutake M	Excellent Restoration of QOL After Percutaneous Alcohol Septal Myocardial Ablation but Still Requiring Careful Attention for Sudden Death in Medically Refractory HOCM	European Society of Cardiology Congress 2007 (Vienna, Austria)	2007 6
Yamamoto E, Takano H, Yasutake M, Aoki S, Asai K, Kusama Y, Takayama M	Application of Ischemic Preconditioning During Coronary Intervention Using a Distal Embolic Protection Device	XIX World Congress of the International Society for Heart Research (Bologna, Italy)	2007 6
Iwasaki Y, Yamashita T1), Sekiguchi A1), Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K, Sawada H1), Aizawa T1) (1)The Cardiovascular Institute)	Long-Term Treatment with Olmesartan Reduced Aging-Related Interstitial Fibrosis of Rat Atria Inhomogeneously	The 3rd Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium (Taipei)	2007 10
Okazaki R, Iwasaki Y, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K, et al	Lipopolysaccharide Induces the Down-Regulation of L-type Ca ²⁺ Channel Genes in Rat Atria	The 3rd Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium (Taipei)	2007 10
Yamamoto E, Takano H, Tajima H, Tanabe J, Kawanaka H, Tara S, Takahashi Y, Fujita N, Takagi G, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Takayama	Renal Artery Angioplasty Improves Diastolic Cardiac Function in Patients with Heart Failure Possessing Renal Artery Stenosis	American Heart Association Scientific sessions 2007 (Orlando, USA)	2007 11
Miyauchi M, Miyauchi Y, Okazaki R, Iwasaki Y, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K	The Effects of Chronic Nicotine Administration on Atrial Fibrosis and Atrial Vulnerability to Fibrillation in Normal and Hypertensive Rats: Implication for Atrial Fibrillation in Smokers	American College of Cardiology 57th Annual Scientific Session (Chicago, USA)	2008 3
Yamamoto E, Takano H, Kawashima S, Kawanaka H, Takahashi Y, Takagi G, Fujita N, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Takayama M, Mizuno K	Evidence for the Causative Role of Oxidative Stress in the Development of Contrast-Induced Nephropathy in Patients With Chronic Kidney Disease	American College of Cardiology 57th Annual Scientific Session (Chicago, USA)	2008 3
Saito T, Saito T1), Sugiyama M1), Mizuno K (1)Good Sleep Clinic, Tokyo, Japan)	Improvement of Pulse Wave Velocity by 2-Year Continuous Positive Airway Pressure Treatment for Obstructive Sleep Apnea Patients With Obesity and Hypertension.	American College of Cardiology 57th Annual Scientific Session (Chicago, USA)	2008 3
Sato N1), Kamiya M1), Yoshida A1), Yamamoto T1), Iwasaki Y1), Hirasawa Y1), Kato K1), Tokita Y1), Murai K1), Mizuno K, Tanaka K1) (1)Intensive and Care Unit)	A Novel Marker Urinary Liver-Type Fatty Acid Binding Protein, for the Detection of Renotubular Damage in Acute Decompensated Heart Failure	American College of Cardiology 57th Annual Scientific Session (Chicago, USA)	2008 3

学 会 発 表

演者名	演題名	学 会 名	発表年月
Takagi G, Miyamoto M, Yasutake M, Fukushima Y, Kumita S, Mizuno H, Tara S, Takano H, Kato K, Takagi I, Mizuno K	Radionuclide Determination of Therapeutic Angiogenesis Study From Critical Limb Ischemia patients	American College of Cardiology 57th Annual Scientific Session (Chicago, USA)	2008 3
山本 彰1), 高橋直人, 椎葉 真1), 奥山孝男1), 阿部和也1); 金城忠史1), 鶴田晴子1), 高間都支1), 佐藤雅史1), 宗像一雄, 他 (1)武藏小杉病院放射線科)	心電図同期SPECTによる心不全における拡張能の検討	第66回日本医学放射線学会総会	2007 4
福島正人, 青木亜佐子, 宗像 亮, 堀江 格, 上村竜太, 小谷英太郎, 田寺 長, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次	非通常型脚ブロック症例における左室収縮機能障害に関する検討	第104回日本内科学会講演会	2007 4
宮元亮子, 宮内靖史, 清水秀治, 古明地弘和, 里村克章, 勝田悌実, 大須賀 全の1例 勝, 小原俊彦, 山本哲平, 小林義典, 加藤貴雄	アミオダロンが原因と考えられる肝不全の1例	第294回日本消化器病学会関東支部例会	2007 5
丸山光紀, 小林義典, 宮内靖史, 岩崎 雄樹, 平澤泰宏, 館岡克彦, 上野 亮, 岡崎怜子, 村田広茂, 山本哲平, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤貴雄, 堀江 格, 宮本新次郎, 他	Differential Atrial Overdrive Pacing : 新たな心房頻拍鑑別法および従来法との比較	第22回 日本不整脈学会	2007 5
宮内瑞穂, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫	ニコチン慢性投与が心房細動発生とその解剖学的substrateに及ぼす影響	第22回 日本不整脈学会	2007 5
宮内靖史, 小林義典, 丸山光紀, 岩崎 雄樹, 平澤泰宏, 館岡克彦, 上野 亮, 岡崎怜子, 村田広茂, 山本哲平, 小原俊彦, 加藤貴雄, 堀江 格	僧帽弁手術後の心房頻拍の特徴－切開法による違い－	第22回 日本不整脈学会	2007 5
村田広茂, 宮内靖史, 小林義典, 小原俊彦, 丸山光紀, 岩崎雄樹, 上野 亮, 岡崎怜子, 山本哲平, 加藤貴雄	頻脈誘発性心筋症を発症するfocal ATの特徴と発生頻度	第22回 日本不整脈学会	2007 5
村田広茂, 小原俊彦, 上野 亮, 淀川 顕司, 丸山光紀, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫	Wavelet解析マッピングによる致死性心室性不整脈の非侵襲的予知	第22回 日本不整脈学会	2007 5
酒井行直, 藤堂紗織, 大塚智之, 大野 大, 村澤恒男, 宗像一雄	IgA腎症に対するLDLアフェレーシスによる蛋白尿減少効果の検討	第50回日本腎臓学会	2007 5
緒方憲一, 小谷英太郎, 田寺 長, 竹山聰美, 草間芳樹, 新 博次	心疾患合併糖尿病患者に対するPioglitazone投与の有効性と安全性	第50回日本糖尿病学会	2007 5
小谷英太郎, 田寺 長, 竹山聰美, 草間芳樹, 新 博次	緩徐進行1型糖尿病 (SPIDDM) が疑われた2症例	第50回日本糖尿病学会	2007 5
藤田進彦, 川嶋修司, 田中古登子, 青木聰, 宮本正章, 太田眞夫, 橋本英洋, 高野照夫, 水野杏一	外来診療での1,5-AG (1,5-anhydroglucitol)測定意義の検討	第50回日本糖尿病学会	2007 5
藤本啓志, 大野忠明, 本間 博, 東 春香, 伊藤恵子, 横島友子, 松崎つや子, 関野玲子, 高野照夫	ドブタミン負荷心エコー中の発作性心房細動例の左房容積の検討	日本超音波医学会	2007 5
加藤祐子, 小林義典, 高山守正1), 愛須紀子, 高橋保裕, 宮内靖史, 福間長知, 五十嵐一成1), 水野杏一, 家坂義人2) (1)袖クラブ, 2)土浦協同病院循環器内科)	最新循環器治療による第一線登山への回帰は可能か: 不整脈罹患中高年登山者3例からの考察	2007年度日本登山医学会	2007 6
高木郁代, 高山守正4), 愛須紀子, 手塚晶人1,4), 村松和美2), 中村 隆3,4), 五十嵐一成4), 水野杏一 (1)日本医科大学5年, 2)附属病院看護部, 3)中村病院, 4)袖クラブ)	北アルプス登山中の中高年登山者にみられる高血圧の実態	2007年度日本登山医学会	2007 6

学 会 発 表

演者名	演題名	学会名	発表年月
吉川雅智, 山本 剛, 高野仁司, 村井 純児, 神谷仁孝, 加藤浩司, 佐藤直樹, 安武正弘, 高山守正, 田中啓治, 高野照夫	Impact of the Evolution of Coronary Intervention on Prognosis for Renal Dialysis Patients	第16回日本心血管イン ターベンション学会学術集会	2007 6
宮地秀樹, 小谷英太郎, 細川雄亮, 北村光信, 佐々木朝子, 小鹿野道雄, 植葉邦人, 田邊 潤, 高山守正	Coronary artery revascularization before peripheral vascular surgery in patients with peripheral artery disease(PAD)	第16回日本心血管イン ターベンション学会学術集会	2007 6
山本英世, 高野仁司, 川中秀和, 西城由之, 小橋啓一, 鶴見昌史, 森澤太一郎, 太良修平, 川嶋修司, 高橋保裕, 高木 元, 藤田進彦, 青木 聰, 浅井邦也, 安武正弘, et al.	Application of Ischemic Preconditioning During Coronary Intervention Using a Distal Embolic Protection Device	第16回日本心血管イン ターベンション学会学術集会	2007 6
山本真功1), 高野雅充1), 村上大介1), 稲見茂信1), 清宮康嗣1), 大場崇芳1), 雪吹周生1), 水野杏一 (1)千葉北総病院)	A Case of Patient on Hemodialysis with all Stents Restenosis After Implantation of Sirolimus-Eluting Stents for Three Coronary Arteries	第16回日本心血管イン ターベンション学会学術集会	2007 6
西城由之, 白壁章宏2), 高野仁司, 川中秀和, 小橋啓一, 鶴見昌史, 森澤太一郎, 太良修平, 山本英世, 加藤浩司1), 川嶋修司, 高橋保裕, 高木 元, 藤田進彦, 山本 剛1), et al. (1)集中治療室, 2)千葉北総病院)	Coronary Perforation and dissection during PCI in the Sirolimus-eluting Stent era	第16回日本心血管イン ターベンション学会学術集会	2007 6
村上大介, 高野雅充, 水野杏一	Discontinuation of dual anti-platelet therapy for eighteen months does not always occur stent thrombosis after implantation of Sirolimus-eluting stent	第16回日本心血管イン ターベンション学会	2007 6
北村光信1), 田邊 潤1), 宮地秀樹1), 佐々木朝子1), 小鹿野道雄1), 植葉邦人1), 高野仁司, 高山守正 (1)国立病院機構 静岡医療センター 循環器)	Cholesterol Embolism to Distal Coronary Vessel During Percutaneous Coronary Intervention for Chronic Total Occlusion	第16回日本心血管イン ターベンション学会学術集会	2007 6
佐藤太亮, 渡邊 悠, 山本祐子, 中田淳, 吉田明日香, 神谷仁孝, 村井純児, 吉川雅智, 加藤浩司, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 宮城泰雄, 他	巨大な感染性仮性弓部大動脈瘤に対し 抗菌療法と上行弓部置換術により良好に治療した慢性透析の1例	第204回日本循環器学 会関東甲信越地方会	2007 6
小橋啓一, 宮内靖史, 浅井邦也, 山本英世, 本間 博, 高山守正, 小林義典, 清野精彦, 高野照夫	64例マルチスライス断層血管撮影 (MDCT) により詳細を評価し得た無症候性多発性肺動脈型冠動脈瘤の1例	第204回日本循環器学 会関東甲信越地方会	2007 6
清宮康嗣, 山本真功, 村上大介, 田研一郎, 淀川頭司, 篠山権一, 稲見茂信, 大場崇芳, 大野則彦, 雪吹周生, 水野杏一	急性心筋梗塞および脳梗塞発症を契機に診断されたChurg-Strauss症候群の1例	第204回日本循環器学 会関東甲信越地方会	2007 6
村澤恒男, 酒井行直, 藤堂紗織, 大塚智之, 大野 大, 網谷賢一, 宗像一雄	維持透析患者の不整脈とRA系との関連性: QTdispersionの増大とホルター心電図からの検討	第52回 (社) 日本透析 医学会学術集会・総会	2007 6
大野 大, 酒井行直, 藤堂紗織, 大塚智之, 村澤恒男	carvedilolとpimobendanにより著明に改善した尿毒症性心筋症の2例	第52回 (社) 日本透析 医学会学術集会・総会	2007 6
藤堂紗織, 酒井行直, 大塚智之, 大野大, 村澤恒男, 宗像一雄, 他	infliximab抵抗性RA患者に対する大量処理LCAPの有効性の検討	第52回 (社) 日本透析 医学会学術集会・総会	2007 6
板倉潮人, 内田高浩, 手塚信吾, 大野大, 高橋直人, 宗像一雄	左冠動脈主幹部, 左前下行枝と多発性に冠動脈瘤を認めた透析患者の1例	第101回日本シネアン ジオ研究会	2007 6
尾崎 勲1), 門松 豊1), 加藤和久1), 磯野友昭1), 藤堂紗織, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄 (1)武藏小杉病院血液浄化療法室)	透析液清浄化管理におけるクオリティーモニターの有用性	第52回 (社) 日本透析 医学会学術集会・総会	2007 6
福島正人, 中込明裕, 草間芳樹, 新博次	脚プロックを有する高齢者における背景心疾患と心エコー所見の特徴	第49回日本老年医学会 学術集会	2007 6

学 会 発 表

演 著 名	演 題 名	学 会 名	発表年 月
網谷賢一, 大野 大, 酒井行直, 村澤 恒男, 宗像一雄, 他	維持透析患者の血液透析前後の細胞内外水分量変化, 体液液性因子と心室性不整脈, 心事故との関連について	第52回(社)日本透析医学会学術集会・総会	2007 6
淀川顕司1), 大野則彦1), 山本真功1), 村上大介1), 田近研一郎1), 徳山権一1), 稲見茂信1), 高野雅充1), 清宮康嗣1), 大場崇芳1), 雪吹周生1), 水野杏一1), 菊池有史, 白壁章宏, 小林宣明, その他6名 (1)日本医科大学千葉北総病院内科)	慢性心房細動の経過中にWPW症候群を発症し, 頻拍誘発性心筋症を来たした1例	第204回日本循環器学会関東甲信越地方会	2007 6
林 洋史, 雨宮志門, 熊谷智昭, 他	症状に対応するSPECT所見を認めた34歳女性辺縁系脳炎の1例	第181回日本神経学会 関東地方会	2007 6
岡田 薫, 上村竜太, 堀江 格, 福島 正人, 吉川雅智, 西城由之, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次	BOOPを先行発症したRAの1例	第546回日本内科学会 関東地方会	2007 7
高野仁司, 大場崇芳1,2), 北村光信2), 木股伸恒2), 細川雄亮2), 竹永清人2), 加藤浩司2), 草間芳樹2), 高山守正, 水野杏一 (1)千葉北総病院, 2)心臓カテーテル研究班)	シロリムス溶出ステントの使用方法および臨床成績に関する施設間格差	第13回日本血管内治療学会総会	2007 7
山本英世, 高野仁司, 田島廣之1), 高橋保裕, 田邊 潤2), 安武正弘, 高山守正, 水野杏一 (1)放射線科, 2)静岡医療センター 循環器内科)	経皮的腎血管形成術の心機能に与える影響	第13回日本血管内治療学会総会	2007 7
西城由之, 高野仁司, 山本英世, 高橋保裕, 藤田進彦, 高木 元, 青木聰, 浅井邦也, 高山守正, 水野杏一	シロリムス溶出ステントを用いた経皮的冠動脈インターベンション中の冠動脈解離の特徴と転帰	第13回日本血管内治療学会総会	2007 7
山本 剛	急性肺塞栓症に対する血栓溶解療法とカテーテル治療	第16回Thrombolysis研究会	2007 7
阿曾亮子1), 吉村明修1), 志村俊郎1), 高柳和江2), 飯野靖彦3), 小林義典, 清野精彦, 他 (1)教育推進室, 2)医療管理学, 3)内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)	日本医科大学のAdvanced OSCE全員トラックアルのためのSP養成の取組み	第75回日本医科大学医学会総会	2007 9
岡田 薫, 栗田 明1), 高瀬凡平2), 渡辺 智2), 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次 (1)社会福祉法人福音会医療部門, 2)防衛医科大学校研究センター医療工学部門)	音楽療法による副交感神経の活性化は心不全発症頻度と炎症性サイトカイン産生を抑制する: 脳血管障害を合併する後期高齢者における検討	第55回日本心臓病学会 学術集会	2007 9
会田智宏1), 福間長知, 菅谷寿理1), 加藤政利1), 斎藤公一1), 林 寛子, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 本間 博, 岸田 浩, 水野杏一 (1)生理機能センター)	新しいドリフト補正プログラムを搭載したポータブル心電計の有用性	第55回日本心臓病学会 学術集会	2007 9
牛島明子, 福間長知, 林 寛子, 真鍋 宏美, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 宮武佳子, 岸田 浩, 水野杏一	心疾患における運動負荷時Heart rate recoveryの障害と運動負荷時BNP増加	第55回日本心臓病学会 学術集会	2007 9
見友優子1), 松崎つや子1), 関野玲子1), 田尾清一1), 水瀬 学1), 中村利枝1), 斎藤公一1), 本間 博1), 藤本啓志, 東 春香, 大野忠明, 水野杏一 (1)生理機能センター)	大動脈の厚さと堅さ: Strain rate Imaging を用いて	第75回日本医科大学医学会総会	2007 9
荒川裕輔1), 山本 剛1), 加藤浩司1), 神谷仁孝1), 村井綱児1), 平澤泰宏1), 岩崎雄樹1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 藤田進彦, 高野照夫, 水野杏一, 他 (1)集中治療室)	II型解離へのHemiarct置換後にIIIb型再解離を発症, 再々解離に対しステントグラフト治療が有効であった1例	第205回日本循環器学会関東甲信越地方会	2007 9

学 会 発 表

演者名	演題名	学会名	発表年月
高野仁司, 草間芳樹, 山本英世, 安武正弘, 青木聰, 浅井邦也, 高山守正, 水野杏一	PCI事の虚血プレコンディショニング現象出現の機序	第55回日本心臓病学会 学術集会	2007 9
佐藤直樹1), 梶本克也2), 浅井邦也, 水野雅之3), 南雄一郎4), 川名正敏2), 子島潤5), 佐藤俊彦6), 目黒知己7), 田中啓治1), 水野杏一, 笠貢宏2), 高野照夫 (1)集中治療室, 2)東京女子医科大学青山病院 循環器内科, 3)済生会栗橋病院 循環器内科, 4)東京女子医科大学 循環器内科, 5)鶴見歯科大学 内科, 6)北里大学 術学生公衆衛生学, 7)東京電力病院 循環器内科)	データ解析フィードバックシステムによる急性心不全疫学的調査: 多施設共同疫学観察研究の新しい方向性	第55回日本心臓病学会 学術集会	2007 9
菅谷寿理1), 福間長知, 加藤政利1), 斎藤公一1), 林寛子, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 本間博, 岸田浩, 水野杏一 (1)生理機能センター)	閉塞性睡眠時無呼吸症候群における経皮炭酸ガス分圧測定の有用性	第55回日本心臓病学会 学術集会	2007 9
村井綱児1), 佐藤直樹1), 山本剛1), 岩崎雄樹1), 平澤泰宏1), 加藤浩司1), 時田祐吉1), 神谷仁孝, 吉田明日香1), 水野杏一, 田中啓治1) (1)集中治療室)	急性心不全患者における入院時尿酸値測定の意義	第55回日本心臓病学会 学術集会	2007 9
太良修平, 高木元, 加藤浩司, 高野仁司, 高木郁代, 安武正弘, 宮本正章, 水野杏一	自己骨髄幹細胞移植による血管再生治療後の下肢切断予測因子の検討	第55回日本心臓病学会 学術集会	2007 9
大塚俊昭1), 雪吹周生2), 小谷英太郎, 中込明裕, 草間芳樹 (1)衛生学公衆衛生学教室, 2)千葉北総病院内科)	メタボリックシンドロームと炎症マーカーとの関連; 白血球数と高感度CRPの比較	第55回日本心臓病学会 学術集会	2007 9
小原啓子1), 橋方美文1), 太田眞夫, 水野杏一 (1)同愛記念病院 内科)	糖尿病患者におけるメタボリック症候群の各要素の頻度について	第205回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2007 9
太良修平, 山本英世, 高野仁司, 浅井邦也, 高山守正, 水野杏一	血管内イメージングが冠動脈ステント留置時の末梢塞栓予防に有用であった1例	第205回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2007 9
中込明裕1), 青木亜佐子1), 渋井俊之1), 細川雄亮1), 神谷仁孝1), 宗像亮1), 吉川雅智1), 上村竜太1), 小谷英太郎1), 草間芳樹1), 高山守正, 新博次1), 高野照夫 (1)多摩永山病院)	急性冠症候群患者において慢性腎臓病は心事故発症に関与する	第55回日本心臓病学会 学術集会	2007 9
中田淳1), 佐藤直樹1), 山本剛1), 岩崎雄樹1), 平澤泰宏1), 加藤浩司1), 吉川雅智1), 村井綱児1), 神谷仁孝1), 水野杏一, 田中啓治1) (1)集中治療室)	循環器救急患者発症に関与するのは比較的短期的な疲労か慢性疲労か?	第55回日本心臓病学会 学術集会	2007 9
福間長知, 加藤和代, 林寛子, 牛島明子, 真鍋宏美, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 宮武佳子, 岸田浩, 水野杏一	心筋梗塞患者に対するアスコルビン酸の単回および長期投与が運動負荷試験成績におよぼす影響	第55回日本心臓病学会 学術集会	2007 9
鈴木洋1), 下司映一1), 片桐敬1), 南條修二2), 中野元2), 山崎純一2), 佐藤直樹3), 田中啓治3), 高野照夫, 他) (1)昭和大学 第3内科, 2)東邦大学医療センター大森病院 循環器内科, 3)集中治療室)	急性心筋梗塞後の左室機能障害に対するバルサルタンの効果: アンジオテンシン変換酵素阻害薬との多施設共同無作為抽出試験	第55回日本心臓病学会 学術集会	2007 9
鈴木雄一朗, 横山真也, 菊池有史, 白壁章宏, 小林宣明, 品田卓郎, 畑典	ACS症例における再灌流障害の評価に酸化LDLは有用か?	第55回日本心臓病学会	2007 9

学 会 発 表

演 著 名	演 題 名	学 会 名	発表年 月
加藤浩司, 山本 剛, 神谷仁孝, 村井 綱児, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 藤田進彦, 高野照夫, 水野杏一, 他	II型解離へのhemiarach置換後にIIIb解離を発症, 再々解離に対してステントグラフト治療が有効であった1例	第205回 日本循環器学会関東甲信越地方会	2007 9
野崎文華1), 山本真功1), 村上大介1), 田近研一郎1), 徳山権一1), 淀川顕司1), 稲見茂信1), 岡松健太郎1), 清宮康嗣1), 高野雅充1), 大野則彦1), 大場崇芳1), 雪吹周生1), 清野精彦1), 白壁章宏, その他4名 (1)日本医科大学千葉北総病院内科)	ステント留置後冠動脈解離部より形成されたと考えられる巨大冠動脈瘤の1例	第205回日本循環器学会関東甲信越地方会	2007 9
會田智弘1), 菅谷寿理1), 加藤政利1), 宗方祐美子1), 吉田由紀子1), 竹田裕子1), 佐藤淳子1), 平野美子1), 青木亘1), 斎藤公一1), 福間長知, 林 寛子, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, その他5名 (1)生理機能センター)	心臓リハビリテーションにおける歩行負荷試験の問題点	第75回日本医科大学医学会総会	2007 9
Murai K, Sirakabe A, Asai K, Kamiya M, Fukumoto H, Satoh N, Seino Y, Tanaka K, Mizuno K	Angiotensin II Receptor Blockade Prevented Left Ventricular Hypertrophy and Heart Failure Induced by Chronic Beta-adrenergic Receptor Stimulation	第11回日本心不全学会 学術集会	2007 10
高野仁司, 高橋保裕, 小宮山英徳, 太良修平, 山本英世, 浅井邦也, 安武正弘, 高山守正, 水野杏一	右冠動脈病変治療中に生じた解離修復に難渋し末梢病変治療が不十分のまま終了した2例	第31回日本心血管インター・ベンション学会関東甲信越地方会	2007 10
八島正明, 加藤貴雄, 水野杏一, 浮谷勝郎1) (1)浮谷クリニック)	在宅医療における携帯型心電計の有用性	第24回日本心電学会学術集会	2007 10
板倉潮人1), 小野卓哉, 小野いすゞ, 岩崎雄樹, 小林義典, 本間 博, 宗像一雄, 加藤貴雄, 水野杏一 (1)第二病院内科)	健常例に対するカフェイン飲水負荷がHead up tilt試験中の血行動態に及ぼす影響	第24回日本心電学会学術集会	2007 10
岡崎怜子, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一, 他	Lipopolysaccharide Induces the Down-regulation of L-type Ca ²⁺ Channel Genes in Rat Atria	第24回日本心電学会学術集会	2007 10
山下武志1), 小川 聰2), 奥村 謙3), 加藤貴雄, 新 博次, 他 (1)(財)心臓血管研究所, 2)慶應義塾大学病院, 3)弘前大学医学部附属病院)	塩酸ベブリジルの持続性心房細動停止効果及びその用量反応性 (プラセボ対照2重盲検比較試験) : 医師主導治験J-BAF study	第24回日本心電学会学術集会	2007 10
小原俊彦, 村田広茂, 淀川顕司, 上野亮, 丸山光紀, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一	陳旧性心筋梗塞Q波部分の高周波成分の特性について	第24回日本心電学会学術集会	2007 10
小原俊彦, 八島正明, 村田広茂, 品田卓郎, 淀川顕司, 丸山光紀, 平山悦之, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一	心室細動波の動態と局所電位の時間周波数特性: Wavelet解析による検討	第24回日本心電学会学術集会	2007 10
上野 亮, 村田広茂, 加藤貴雄, 水野杏一	塩酸ドネペジルの心電図QT時間への影響	第24回日本心電学会学術集会	2007 10
新 博次, 小川 聰1), 井上 博2) (1)慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科, 2)富山大学医学部第二内科)	症候性発作性心房細動/粗動症例における無症候性発作の検討: カルジオフォンを用いた2重盲検試験の成績から	第24回日本心電学会学術集会	2007 10
大坂元久1), 村田広茂, 館岡克彦, 加藤貴雄 (1)老人病研究所生体応答学部門)	自動車ステアリングからの無拘束心電図記録による心拍変動解析の信頼性	第24回日本心電学会学術集会	2007 10
太良修平, 大場崇芳, 白壁彰弘, 村上大介, 田近研一郎, 稲見茂信, 高野雅充, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一	薬剤溶出性ステント留置後の再狭窄病変に認めた興味深いOCT (Optical Coherence Tomography)画像所見	第31回日本心血管インター・ベンション学会関東甲信越地方会	2007 10
太良修平1), 浅井邦也, 高野仁司, 安武正弘, 高山守正, 水野杏一 (1)千葉北総病院)	血管内視鏡を含めた血管内イメージングより末梢塞栓予防を施行し黄色プラークを捕獲, 病理組織学的検討ができた1例	第21回日本心臓血管内視鏡学会	2007 10

学会発表

演者名	演題名	学会名	発表年月
岡松健太郎, 山本真功, 横山真也, 高野雅充, 稲見茂信, 大場崇芳, 田近研一郎, 雪吹周生, 畑川雅彦, 水野杏一	病変部の性状とDES留置後の新生内膜による被覆の関係	第21回日本心臓血管内視鏡学会	2007 10
中田淳, 山本剛, 吉田明日香, 村井綱児, 上野亮, 時田祐吉, 加藤浩司, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 川中秀和, 藤田進彦, 水野杏一	B型急性大動脈解離に合併した分枝虚血に対する経皮的ステント留置を施行した4例	第48回日本脈管学会総会	2007 10
福間長知, 真鍋宏美, 及川恵子, 林寛子, 牛島明子, 小川紅, 加藤和代, 加藤祐子, 土田貴也, 愛須紀子, 宮武佳子, 岸田浩, 水野杏一	圧受容体反射機能と運動負荷時高血圧	第30回日本高血圧学会総会	2007 10
安武ひろ子, 本間博, 松崎つや子 1), 藤本啓志, 東春香, 伊藤恵子, 横島友子, 大野忠明, 水野杏一(1)生理機能センター)	胸部大動脈壁のStiffnessの検討	第44回日本臨床生理学会総会	2007 11
加藤政利1), 福間長知, 菅谷寿理1), 斎藤公一1), 林寛子, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, 土田貴也, 岸田浩, 水野杏一(1)生理機能センター)	心不全例に見られる運動負荷時周期性呼吸の検討	第44回日本臨床生理学会総会	2007 11
宮元亮子, 勝田悌実, 張雪君, 古明地弘和, 清水秀治, 大須賀勝, 里村克章, 水野杏一	肝肺症候群ラットモデルにおける低酸素血症と肺内シャント	第44回日本臨床生理学会総会	2007 11
菅谷寿理1), 福間長知, 加藤政利1), 斎藤公一1), 林寛子, 加藤祐子, 愛須紀子, 岸田浩, 水野杏一(1)生理機能センター)	睡眠時無呼吸と経皮炭酸ガス分圧の関係	第44回日本臨床生理学会総会	2007 11
會田智弘1), 福間長知, 菅谷寿理1), 加藤政利1), 斎藤公一1), 牛島明子, 加藤和代, 愛須紀子, 土田貴也, 本間博, 岸田浩, 水野杏一(1)生理機能センター)	ホルター心電計と携帯型血圧計による夜間血圧・心拍関連の検討	第44回日本臨床生理学会総会	2007 11
龜山明美1), 村田和也1), 高頭文隆2), 長谷川哲男3), 宮田節子4), 大川玲子5), 小谷英太郎, 草間芳樹, 新博次(1)多摩永山病院薬剤科, 2)ミネ薬局永山駅前タワー店, 3)龍生堂薬局永山店, 4)なのはな薬局, 5)マルベリーカー	短時間作用性吸入β2刺激薬の吸入指導に関する検討: ドライパウダー製剤とエアロゾル製剤の比較	第57回日本アレルギー学会秋季学術大会	2007 11
西城由之, 上村竜太, 小谷英太郎, 渡井俊之, 神谷仁孝, 細川雄亮, 宗像亮, 吉川雅智, 中込明裕, 草間芳樹, 新博次	MSCTが診断に有用であった血栓閉塞し冠動脈瘤の1例	第27回多摩地区虚血性心疾患研究会	2007 11
中込明裕, 小谷英太郎, 草間芳樹, 高野仁司, 佐藤直樹, 内田高浩, 清宮康嗣, 雪吹周生, 宗像一雄, 水野杏一, 高野照夫	虚血性心疾患に対するDihydropyridine系Ca拮抗薬の2次予防効果: β遮断薬との併用無作為割付比較試験	第28回日本臨床薬理学会	2007 11
福井めぐみ, 山本剛, 中田淳, 吉川雅智, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 川嶋修司1), 高野仁司1), 高山守正, 水野杏一, 他	蛋白同化ステロイドが発症に関連した急性心筋梗塞と肺塞栓症の合併例	第14回肺塞栓症研究会・学術集会	2007 11
岩崎雄樹, 中田淳, 吉田明日香, 村井綱児, 上野亮, 時田祐吉, 加藤浩司, 山本剛, 佐藤直樹, 田中啓治	急性心筋梗塞に合併した発作性心房細動の臨床背景とその治療成績-超短時間作用型β遮断薬Lanololの有用性について-	CCU研究会	2007 12
牛島明子, 小原俊彦, 岡崎怜子, 平澤泰宏, 宮内靖史, 本間博, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一	遷延する意識障害が主症状で診断に苦慮した若年者冠攣縮性狭心症の1例	第206回日本循環器学会関東甲信越地方会	2007 12

学 会 発 表

演者名	演題名	学会名	発表年月
吉田明日香1), 時田祐吉1), 中田 淳 1), 村井綱児1), 加藤浩司1), 平澤泰 宏1), 岩崎雄樹1), 山本 剛1), 佐藤 直樹1), 田中啓治1), 秋谷麻衣, 安武 正弘, 高山守正, 水野杏一 (1)集中治 療室)	冠動脈病変を合併したChurg-Strauss症候 群の1例	第21回日本冠疾患学会 学術集会	2007 12
山本真功1), 高野雅充1), 村上大介 1), 田近研一郎1), 稲見茂信1), 大場 崇芳1), 白壁章宏1), 太良修平1), 岡 松健太郎1), 雪吹周生1), 清野精彦 1), 水野杏一	シリリムス溶出性ステント留置2年後の ステント内新生内膜被覆状況～血管内 視鏡による経時的観察～	第21回日本冠疾患学会 学術集会	2007 12
小橋啓一, 高野仁司, 小宮山英徳, 川 中秀和, 鶴見昌史, 森澤太一郎, 山本 英世, 高橋保裕, 藤田進彦, 高木 元, 青木 聰, 浅井邦也, 安武正弘, 高山守正, 水野杏一	冠動脈バイパス術既往患者に対する経 皮的冠動脈インターベンションの治療 成績	第21回日本冠疾患学会 学術集会	2007 12
川中秀和, 高野仁司, 森澤太一郎, 中 田 淳1), 西城由之, 鶴見昌史, 小橋 啓一, 山本英世, 山本 剛1), 高木 元, 藤田進彦, 浅井邦也, 佐藤直樹 1), 田中啓治1), 水野杏一 (1)千葉北 総病院)	急性冠症候群で入院した職業運転手の 冠危険因子と冠動脈造影所見の特徴	第21回日本冠疾患学会 学術集会	2007 12
松本 真, 小谷英太郎, 吉田博史, 堀 江 格, 緒方憲一, 田寺 長, 草間芳 樹, 新 博次, 他	心室細動後の心肺蘇生に成功し, 遺伝 子診断により確定した先天性QT延長症 候群 (LQT1) の1例	第20回心臓性急死研究 会	2007 12
神谷仁孝, 小谷英太郎, 西城由之, 渋 井俊之, 細川雄亮, 宗像 亮, 堀江 格, 松本 真, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次	バイスタンダーによる心肺蘇生 (CPR) と救急隊自動体外除細動器 (AED) により救命された心室細動の1 例	第20回心臓性急死研究 会	2007 12
畠 典武, 横山真也, 品田卓郎, 鈴木 雄一朗, 小林宣明, 白壁章宏, 菊池有 史, 福島正人, 他	航空機利用前後に発症した循環器疾患 の特徴	第14回日本航空医療学 会総会	2007 12
畠 典武, 横山真也, 品田卓郎, 鈴木 雄一朗, 小林宣明, 白壁章宏, 菊池有 史, 福島正人, 他	ドクターへりで搬送された急性心筋梗塞 は重症か?	第14回日本航空医療学 会総会	2007 12
四方友美, 平澤泰宏, 中田 淳, 吉田 明日香, 村井綱児, 時田祐吉, 加藤浩 司, 岩崎雄樹, 山本 剛, 本郷 卓, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治, 藤本 啓志, 高野照夫, 他	僧房弁置換術後にICU内で発症した左室 破裂に対し, 緊急修復術, 集学的治療 により救命し得た重度僧帽弁狭窄症の1 例	第16回日本集中治療医 学会 関東甲信越地方 会	2007
山崎泰徳1), 白井崇裕1), 清水彩子 1), 小林高明1), 大野 敦1), 植木彬 夫1), 宮川高一2), 大塚昌樹3), 小谷 英太郎 (1)東京医科大学八王子医療セ ンター糖尿病・内分泌・代謝内科, 2) 多摩みなみクリニック, 3)多摩丘陵病 院糖尿病内科)	糖尿病神経障害のケアの現状に関する アンケート調査: 2001年度と2007年度 の比較	第45回日本糖尿病学会 関東甲信越地方会	2008 1
小谷英太郎, 細川雄亮, 中込明裕, 草 間芳樹, 新 博次, 長澤紘一	低用量ロスバスタチンによる脂質異常 改善効果の検討	第42回日本成人病 (生 活習慣病) 学会学術集	2008 1
小谷英太郎, 宗像 亮, 細川雄亮, 中 込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 長澤紘 一	外来高血圧症患者に対するアンジオテ ンシンII受容体拮抗薬, 利尿薬の使用状 況	第42回日本成人病 (生 活習慣病) 学会学術集 会	2008 1
岩崎雄樹, 中田 淳, 吉田明日香, 村 井綱児, 上野 亮, 時田祐吉, 加藤浩 司, 平澤泰宏, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 小林義典, 加藤貴雄, 水野 杏一	当院集中治療室におけるAmiodaronの使 用成績	循環器学会関東甲信越 地方会	2008 2
吉田明日香1), 時田祐吉1), 岩崎雄樹 1), 山本 剛1), 佐藤直樹1), 田中啓 治1), 水野杏一, 他 (1)集中治療室)	循環不全を伴った左房を圧排する巨大 囊状胸部大動脈瘤に対し緊急ステント グラフト術を行い救命できた1例	第35回日本集中治療学 会学術集会	2008 2

学 会 発 表

演者名	演題名	学会名	発表年月
三井誠司1), 安藤岳史1), 横塚 基 1), 本郷 卓1), 竹田晋浩1), 田中啓 治, 坂本篤裕1) (1)麻酔科)	胸腹部人工血管置換術後, 眼球陥凹を 呈した1例	第35回日本集中治療学 会学術集会	2008 2
山本 剛	高リスク急性肺塞栓症に対する治療戦 略: 薬物治療とカテーテル治療の使い 分け	第35回日本集中治療医 学会学術集会	2008 2
時田祐吉1), 山本 剛1), 吉田明日香 1), 村井綱児1), 加藤浩司1), 岩崎雄 樹1), 八島正明, 佐藤直樹1), 田中啓 治1), 水野杏一 (1)集中治療室)	急性心不全の診断におけるNT-proBNP 全血迅速測定の有用性	第35回日本集中治療学 会学術集会	2008 2
小林宣明, 横山真也, 菊池有史, 白壁 章宏, 福島正人, 鈴木雄一朗, 品田卓 郎, 畠 典武, 大野則彦1), 清野精彦 1) (1)千葉北総病院内科)	心肺蘇生, PCPS管理後に, 肝損傷から の出血性ショックをきたしたAMIの1例	第35回日本集中治療医 学会学術集会	2008 2
中田 淳1), 佐藤直樹1), 山本 剛 1), 岩崎雄樹1), 平澤泰宏1), 加藤浩 司1), 村井綱児1), 吉田明日香1), 水 野杏一, 田中啓治1) (1)集中治療室)	循環器救急疾患患者におけるヒトヘル ペスウイルスDNA量測定の意義	第35回日本集中治療学 会学術集会	2008 2
中田 淳1), 山本 剛1), 加藤浩司 1), 岩崎雄樹1), 佐藤直樹1), 竹田晋 浩1), 田中啓治1), 安武正弘, 水野杏 一, 田島廣之2) (1)集中治療室, 2)放 射線科)	Acute on Chronic肺塞栓症への血栓吸引 後に生じた再灌流後肺水腫に対しNPPV とSivelestatが有効であった1例	第35回日本集中治療学 会学術集会	2008 2
岩崎雄樹, 平澤泰宏, 中田 淳, 吉田 明日香, 村井綱児, 時田祐吉, 加藤浩司, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治	急性心筋梗塞に合併した発作性心房細動の臨床背景とその治療成績	第35回日本集中治療学 会学術集会	2008 2
山梨義高1), 古市昌之1), 岡部 格 1), 赤田信二1), 本郷 卓2), 竹田晋 浩2), 田中啓治2), 他 (1)麻酔科学、 2)集中治療室)	肝硬変を合併した食道癌患者が術後に 深部静脈血栓症を合併して死亡した1例	第35回日本集中治療学 会学術集会	2008 2
本郷 卓, 三井誠司, 小野顕人, 安藤岳史1), 横塚 基1), 古市昌之1), 赤田信二1), 竹田晋浩, 田中啓治, 坂本篤裕1)	NPPVはどのように用いられているか NPPVを施行した126症例の予後調査	術 第35回日本集中治療学 会学術集会	2008 2
宗像 亮, 小谷英太郎, 西城由之, 岡田 薫, 渋井俊之, 細川雄亮, 吉川雅智, 堀江 格, 松本 真, 上村竜太, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次	治療抵抗性心室細動 (Vf) を繰り返し た若年者冠挙縮性狭心症 (VSA) の1例	第207回日本循環器学 会関東甲信越地方会	2008 2
村田広茂, 小原俊彦, 淀川顕司1), 高山英男2), 加藤貴雄, 水野杏一 (1)千葉北総病院, 2)久我山病院)	心筋症患者におけるWavelet変換心電図 の特徴	第18回体表心臓微少電位研究会	2008 2
八島正明, 加藤貴雄	心電図伝送システムの現状と展望	第5回心電図伝送システム研究会	2008 2
Aoki S, Nakagomi A1), Komiyama H, Kawanaka H, Kohashi K, Tsurumi M, Morisawa T, Yamamoto E, Takahashi Y, Takagi G, Fujita N, Takano H, Asai K, Yasutake M, Kusama Y1), et al. (1)Tama-Nagayama Hospital)	Increased Peripheral Blood Mononuclear Cell Count is an Independent Predictor for Cardiac Events in Patients with Acute Myocardial Infarction	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Asai K, Murai K, Shirakabe A, Kamiya M, Satoh N, Mizuno K	The Effect of Sex Hormones and Angiotensin II Receptor Blockade on Development of Left Ventricular Hypertrophy and Diastolic Heart Failure	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Fukuma N, Sugaya J1), Hayashi H, Ushijima A, Kato K, Kato Y, Tsuchida T, Aisu N, Miyatake Y, Kishida H, Mizuno K (1)Physiological Examination Center)	Obstructive Sleep Apnea Syndrome Leads to Nighttime Hypertension Through Hypercapnia	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3

学 会 発 表

演 著 名	演 題 名	学 会 名	発表年 月
Hayashi H, Fukuma N, Sugaya J1), Ushijima A, Kato Y, Kato K, Aisu N, Tsuchida T, Miyatake Y, Kishida H, Mizuno K (1)Physiological Examination Center)	Sleep Apnea With Abnormal Arterial Pressure of Carbon Dioxide Accompanies With Disturbed Respiratory Response to Exercise Test in Heart Disease	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Hirayama Y, Atarashi H1), Kobayashi Y, Ohara T, Maruyama M, Yashima M, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Katoh T, Takano T, Mizuno K (1)Tama-Nagayama Hospital)	Comparison of Upstream Therapies for Paroxysmal Atrial Fibrillation in Patients Without Overt Heart Diseases	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Ishikawa M, Yamamoto A1), Takahashi N, Abe J, Amitani K, Yamaguchi T, Kawaguchi N, Uchida T, Munakata K (1)Department of Radiology Tama-nagayama Hospital)	Systolic and Diastolic Left Ventricular Wall motion Dyssynchrony Assessed by 99mTc-sestamibi-Gated-SPECT in Patient with Hypertension	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Ishikawa M, Yamamoto A1), Takahashi N, Tezuka S, Abe J, Amitani K, Yamaguchi T, Kawaguchi N, Uchida T, Munakata K (1)Department of Radiology Tama-nagayama Hospital)	Relationship Between Chronic Kidney Disease (CKD) and Left Ventricular Function/Dysynchrony Assessed by Tc99m-sestamibi-Gated-SPECT using a Novel Program "cardioGRAF"	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Itakura S1), Ono T2), Kobayashi Y, Honma H, Munakata K1), Katoh T, Mizuno K (1)Musashi Kosugi Hospital, 2)Ono Heart Clinic, Tokyo)	Variance Rate and Amplitude Variance of T-Wave Morphology Variability Analysis Stratify the Highly Arrhythmic Patients by new Criteria	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Iwasaki Y, Yamashita T1), Sekiguchi A1), Sagara K1), Sawada H1), Aizawa T1), Date T2), Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K (1)The Cardiovascular Institute, Tokyo, 2)Jikei Univ.school of Medicine, Tokyo)	Fractalkine Expression and Macrophage Infiltration in rat Atria	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Kamiya M1), Asai K, Shirakabe A2), Murai K3), Fukumoto H, Satoh N3), Seino Y2), Mizuno K (1)Tama-Nagayama Hospital, 2)Intensive Care Unit, 3)Chiba Hokusoh Hospital)	Angiotensin Receptor Blockade Prevented Diastolic Heart Failure in Ovariectomized Mice with Chronic B-Adrenergic Receptor Stimulation	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Kato Y, Takayama M, Fukuma N, Ushijima A, Hayashi H, Aisu N, Tsuchida T, Miyatake Y, Mizuno K	Relationship Between B-Type Natriuretic Peptide Response During Exercise and Functional Capacity in Patients with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Miyauchi M, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Okazaki R, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K	Effects of Chronic Nicotine Administration on Atrial Fibrosis and Vulnerability to Atrial Fibrillation in Normal and Hypertensive Rats	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Miyauchi Y, Kobayashi Y, Maruyama M, Iwasaki Y, Ueno A, Okazaki R, Murata H, Yamamoto T, Horie T1), Atarashi H1), Ohara T, Hirayama Y, Katoh T, Mizuno K (1)Tama-Nagayama Hospital)	The Incidence and Characteristics of Focal Atrial Tachycardia in Patients Following Open-Heart Surgery	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Murakami D1), Yamamoto M1), Inami T1), Tara S1), Tajika K1), Inami S1), Okamatsu K1), Takano M1), Ohba T1), Ibuki C1), Seino Y1), Mizuno K (1)Chiba Hokusoh Hospital)	Long-Term Follow-up Evaluation After Sirolimus-Eluting Stent Implantation by Optical Coherence Tomography	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Murakami D1), Yamamoto M1), Inami T1), Tara S1), Tajika K1), Inami S1), Okamatsu K1), Takano M1), Ohba T1), Ibuki C1), Seino Y1), Mizuno K (1)Chiba Hokusoh Hospital)	Serial Long-Term Evaluation of Neointimal Stent Coverage and Thrombus after Sirolimus-Eluting Stent Implantation by use of Coronary Angioscopy	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3

学 会 発 表

演 著 名	演 題 名	学 会 名	発表年 月
Murata H, Takayama M, Kobayashi Y, Yamamoto T, Kitamura M, Okazaki R, Ueno A, Yamamoto E, Takahashi Y, Iwasaki Y, Maruyama M, Takano H, Miyachi Y, Takano H, Ohara T, et al.	Management of Ventricular Tachyarrhythmia following PTSMA: Characteristics in Highly Risked HOCM Whom Indicated Both PTSMA and ICD-Implantation is PTSMA Harmful?	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Nakagomi A1), Saiki Y1), Shibui T1), Hosokawa Y1), Kamiya M1), Munakata R1), Yoshikawa M1), Uemura R1), Kodani E1), Takano H, Aoki S, Yasutake M, Kusama Y1), Takayama M, Atarashi H1), et al. (1)Tama-Nagayama Hospital)	Metabolic Syndrome Increases the Risk of Mortality in Patients With Acute Coronary Syndromes Underwent Successful Percutaneous Coronary Intervention	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Nakagomi A1), Saiki Y1), Shibui T1), Hosokawa Y1), Kamiya M1), Munakata R1), Yoshikawa M1), Uemura R1), Kodani E1), Takano H, Asai K, Yasutake M, Kusama Y1), Takayama M, Atarashi H1), et al. (1)Tama-Nagayama Hospital)	The Ratio of Low-Density Lipoprotein Cholesterol to High-Density Lipoprotein Cholesterol Predicts Adverse Outcomes in Patients with Acute Myocardial Infarction	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Nakata J1), Takayama M, Matsuzaki T2), Tezuka A3), Fujimoto H, Takagi I, Kobayashi Y, Mizuno K (1)Tama-Nagayama Hospital)	Remarkable Incidence of Pulmonary Hypertension Relating to Hypoxemia in Healthy Mountaineers at the top of Mt.Fuji	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Okada K, Kurita A1), Takase B2), Otsuka T3), Kodani E, Kusama Y, Atarashi H (1)Fukuinkai Clinic, 2)National Defense Medical College, 3)Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School)	Parasympathetic stimulation by music attenuates heart failure events, plasma interleukin-6(IL-6) and epinephrine levels in elderly patients	第72回日本循環器学会 学術集会	2008 3
Saiki Y1), Nakagomi A1), Shibui T1), Hosokawa Y1), Kamiya M1), Munakata R1), Yoshikawa M1), Uemura R1), Kodani E1), Kusama Y1), Atarashi H1), Mizuno K (1)Tama-Nagayama Hospital)	Metabolic Syndrome Increases the Risks of Cardiac Events Associated with Insulin Resistance in Patients with Vasospastic Angina	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Setsuta K1), Kitahara Y2), Arao M2), Seino Y3), Mizuno K (1)Dept of Cardiology and Clinical Laboratory, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, 2)Dept of Cardiology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, 3)Chiba Hokusoh Hospital)	Chronic Kidney Disease is Related to the Development of Ongoing Myocardial Damage and Cardiovascular Events in Hypertensive Patients	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Setsuta K1), Seino Y2), Mizuno K (1)Dept of Cardiology and Clinical Laboratory, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital2)Chiba Hokusoh Hospital)	Multibiomarker Risk Stratification Using B-type Natriuretic Peptide Cardiac Troponin T and C-Reactive Protein in Patients with Chronic Heart Failure	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Shibui T1), Nakagomi A1), Saiki Y1), Hosokawa Y1), Kamiya M1), Munakata R1), Yoshikawa M1), Uemura R1), Kodani E1), Yasutake M, Kusama Y1), Takayama M, Atarashi H1), Mizuno K (1)Tama-Nagayama Hospital)	Impact of Chronic Kidney Disease on Long-term Prognosis of Acute Coronary Syndrome Successfully Treated With Percutaneous Coronary Intervention	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Shirakabe A1), Asai K, Kikuchi A1), Kobayashi N1), Suzuki Y1), Shinada T1), Yokoyama S1), Hata N1), Mizuno K (1)Division of Intensive Care Unit, Chiba)	Clinical Significance of MMP Famillies in Acute Exacerbation of Heart Failure	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3

学 会 発 表

演者名	演題名	学会名	発表年月
Sugaya J1), Fukuma N, Hayashi H, Ushijima A, Kato K, Kato Y, Aisu N, Tsuchida T, Miyatake Y, Saito K1), Kishida H, Mizuno K (1)Physiological Examination Center)	Increase in Arterial Pressure of Carbon Dioxide Impacts on Cardiovascular System in Heart Disease Patients With Obstructive Sleep Apnea Syndrome	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Takahashi N, Yamamoto A1), Tezuka S, Masato I, Ishikawa M, Abe J, Amitani K, Yamaguchi T, Kawaguchi N, Uchida T, Munakata K (1)Dept of Radiology Tama-nagayama Hospital)	Angiotensin II Receptor Blockade might Express Left Ventricular Remodeling Effects through Improving Left Ventricular Dyssynchrony in hypertension	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Takahashi Y, Takano H, Komiyama H, Kawanaka H, Tsurumi M, Kohashi K, Morisawa T, Yamamoto E, Fujita N, Takagi G, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Takayama M1), Mizuno K	Analysis of Risk Factors for Aspirin-Induced Gastrointestinal Mucosal Injury in Patients With Cardiovascular Disease	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Takano H, Kusama Y1), Yamamoto E, Takahashi Y, Takagi G, Fujita N, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Takayama M2), Mizuno K (1)Tama Nagayama Hospital, 2)Division of Cardiology, Sakakibara Memorial Hospital)	Possible Role of Reactive Oxygen Species During the Development of Ischemic Preconditioning in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Takayama M, Kitamura M, Kawanaka H, Kohashi K, Tsurumi M, Morisawa T, Komiyama H, Takahashi Y, Yamamoto E, Takagi G, Yamamoto T, Takano H, Aoki S, Asai K, Yasutake M, et al.	Long-term QOL After PTSMA in Symptomatic HOCM Comparing with Mild Grade Patients: Importance of Preventing Sudden Death in all Cases	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Uemura R, Hosokawa Y, Munakata R, Tokita Y, Fukushima M, Horie T, Yoshikawa M, Kodani E, Nakagomi A, Kusama Y, Atarashi H	Plasma level of stem cell factor in patients with various degrees of chronic heart failure	第72回日本循環器学会 学術集会	2008 3
Uemura R1), Kodani E1), Takano H, Asai K, Yasutake M, Kusama Y1), Takayama M, Atarashi H1), Mizuno K (1)Tama-Nagayama Hospital)	The Ratio of Low-density Lipoprotein Cholesterol to High-density Lipoprotein Cholesterol Predicts Adverse Outcomes in Patients With Acute Myocardial Infarction	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Yamamoto E, Takano H, Kawanaka H, Kohashi K, Tsurumi M, Morisawa T, Takahashi Y, Takagi G, Fujita N, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Takayama M1), Mizuno K (1)Dept of Cardiology, Sakakibara Memorial	Evidence for the Causative Role of Oxidative Stress in the Development of Contrast-Induced Nephropathy in Patients With Chronic Kidney Disease	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Yamamoto M, Inami T, Tara S, Murakami D, Kenichiro T, Okamatsu K, Takano M1), Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K	Relationship between Thin Cap Fibroatheroma Identified by Virtual Histology and Angioscopic Yellow Plaque between Thin Cap Fibroatheroma Identified by Virtual Histology and Angioscopic Yellow Plaque in Quantitative Analysis with Colorimetry	第72回日本循環器学会	2008 3
Yamamoto M1), Inami T1), Tara S1), Murakami D1), Tajika K1), Inami S1), Okamatsu K1), Takano M1), Ohba T1), Ibuki C1), Seino Y1), Mizuno K (1)Chiba Hokusho Hospital)	In-Vivo Comparison of Optical Coherence Tomography and Angioscopy for the Evaluation of Coronary Plaque Characteristics	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
Yamamoto T1), Nakata J1), Yoshida A1), Murai K1), Ueno A1), Tokita Y1), Kato K1), Iwasaki Y1), Sato N1), Tanaka K1), Mizuno K, Tajim H2) (1)Intensive and Cardiac Care Unit, 2)Th Department of Radiology	Restricted Local Thrombolysis for Patients With Acute Major Pulmonary Embolism Relatively Contraindicated to Thrombolysis	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3

学 会 発 表

演 著 名	演 題 名	学 会 名	発 表 年 月
Yoshida A1), Kamiya M, Satoh N1), Yamamoto T1), Iwasaki Y1), Hirasawa Y, Kato K1), Tokita Y1), Murai K1), Mizuno K, Tanaka K1) (1)Intensive and Cardiac Care Unit)	Detection of Renotubular Restoration by Carperitide Urinary Live-Type Fatty Acid Binding Protein in Acute Heart Failure	第72回日本循環器学会 総会・学術集会	2008 3
龜山明美1), 村田和也1), 北山由里香2), 高頭文隆2), 長谷川哲男3), 荒井宏昭3), 南條久美子4), 正田節子4), 大川玲子5), 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次 (1) 多摩永山病院薬剤科, 2)ミネ薬局永山駅前タワー店, 3)龍生堂薬局永山店, 4)なのはな薬局, 5)マルベリ一薬局)	吸入指導の有用性の検討	日本薬学会第128回年会	2008 3

編集後記

水野杏一主任教授の2年目に入りました。高野照夫名誉教授からのバトンタッチはスムースで、研究・教育・診療実績ともに順調です。今年は、3つの学術集会や日本武道館でのAED講習会の主催など第一内科底力を感じる1年でした。OBの先生方からのご支援、誠にありがとうございました。また、昨年に引き続き4名の医局員が論文や学会発表などで受賞しました。これは、医局員が質の高い研究を続けている証拠だと思います。

新入医局員については、9名（千駄木8名、武藏小杉1名）を迎えることができました。すでに各部署の主要戦力として大活躍しております。しかしながら、今年も8名の医局員が現役を退いたため、病棟・派遣病院ともにぎりぎりの人数でやりくりする状態に変わりはありません。医局の教育・指導体制を充実するにはもっともっと医局員が必要です。そのためには、一人一人を大切に指導する第一内科の伝統が最も重要と考えています。学生や研修医の教育に携わる先生方はこれからも宜しくお願ひ申し上げます。

昨年、OBの先生方からの原稿が少ないとの御指摘を受けました。今回、特別企画として卒後50周年の先生方（昭和33年卒）7名に近況報告をお願いしたところ、関谷政雄先生、壬生倉裕先生、綿貫實先生の3名から玉稿をいただきました。OBの先生方には、この同窓会誌「げんてん」をコミュニケーションの場としてもっと活用していただければと願っております。短くても結構ですので、気軽に投稿いただきますよう宜しくお願ひ申し上げます。

最後に、ご多忙にもかかわらず原稿をお寄せ下さいました先生方、秘書をはじめ本誌の編集に尽力してくれた方々に心よりお礼申し上げます。

平成20年12月18日 第一内科医局長 安武正弘